秋田県文化財調査報告書第254集

曲田地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ

―― 寒沢遺跡 ――

1995・3

秋田県教育委員会

曲田地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ

―― 寒沢遺跡（さびざわいせき） ――

秋田県教育委員会

序

秋田県には豊かな自然のもとに先人たちが築きあげた歴史があり、埋蔵文化財もその歴史遺産のひとつであります。それは、現代に生きる私たちに託されたものであり、損なう事なく未来へと伝えていくべきものであります。

平成3年度から大館市で施工された曲田地区農免農道整備事業に伴い、本教育委員会では路線にかかる6遺跡の発掘調査を実施してまいりました。

最終年度に当たる今年度は、寒沢遺跡の発掘調査を実施して記録保存することになりました。

その結果、縄文時代早期・中期・後期の遺構と遺物が発見され、調査した区域は台地に広がる集落跡の一部であることが明らかになりました。特に早期の尖底土器は、当該時期の資料の少ない本県にとって貴重な資料であり、中でも片口付尖底土器は日本最古のものであります。

本書はこの成果をまとめたものでありますが、埋蔵文化財に対するご理解と歴史研究のうえでいささかでも役立てば幸いと存じます。

最後に、発掘調査から本書の刊行に至るまで御指導、ご協力くださいました秋田県農政部北秋田農林事務所・大館市教育委員会・比内町教育委員会ならびに関係各位に対し厚く御礼申し上げます。

平成7年3月

秋田県教育委員会

教育長　橋本　顕信

例　　言

1．　本報告書は、曲田地区農免農道整備事業に係る寒沢遺跡の発掘調査報告書である。

2．　本報告書に使用した地形図は、建設省国土地理院発行25,000分の1「扇田」「十二所」、50,000分の1「大館」、大館市作製の2,500分の1「大館市都市計画図」、秋田県北秋田農林事務所作製500分の1工事計画図である。

3．　本報告書に使用した土色表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖　1989年版』を使用した。

4．　植物珪酸体の分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。

5．　本書の草稿執筆は、多数の方々からのご指導・ご助言・資料提供を得て櫻田 隆と長澤和則が行った。

凡　　例

1．　遺構実測図の方位は、秋田県農政部北秋田農林事務所の工事用中心杭No.103をグリッド設定原点杭（ＭＡ50）としており、ＭＡ50における磁北を示す。
　ＭＡ50における国家座標第　系の座標北は、東に12°00′13″偏している。

2．　本報告書で各遺構に付している略記号は以下のとおりである。
　ＳＩ　竪穴住居跡　　ＳＫ　土坑　　ＳＫＦ　フラスコ(袋)状土坑
　ＳＤ　溝（撹乱溝）　ＳＱ　配石遺構　ＳＴ　谷状地形(開析谷)
　ＳＵ　遺物集中区

3．　土層註記は、基本層位にローマ数字を用い、各遺構の埋土にはアラビア数字を用いた。

4．　本報告書の土器拓影図では、土器破片は断面の左側に土器外(表)面、右側に土器内(裏)面を配置したが、復原土器(図上復原も含む)は実測図に準拠させている。土器内(裏)面の拓影を省略したものもある。

5．　本報告書の石器実測図では、側面の左側に稜のある背面を、右側に裏面を、背面の下に断面を配置するようにしたが、裏面を省略したものもある。(両面調整したものは、より平坦な面を裏面とした。)

6．　挿図中のスクリーントーンについては、各挿図の凡例による。

7．　貝殻文の施文名称については、庄内昭男氏の論文「貝殻文」(『縄文文化の研究５　縄文土器Ⅲ』雄山閣 1989年）に拠った。

8．　磨製石斧と篦状石器の分類は、佐原真氏の論文「石斧論－横斧から縦斧へ－」(『慶祝松崎寿和先生63歳論文集』 1977年）の53頁「第２図 斧身の部分・刃の種類」に拠った。

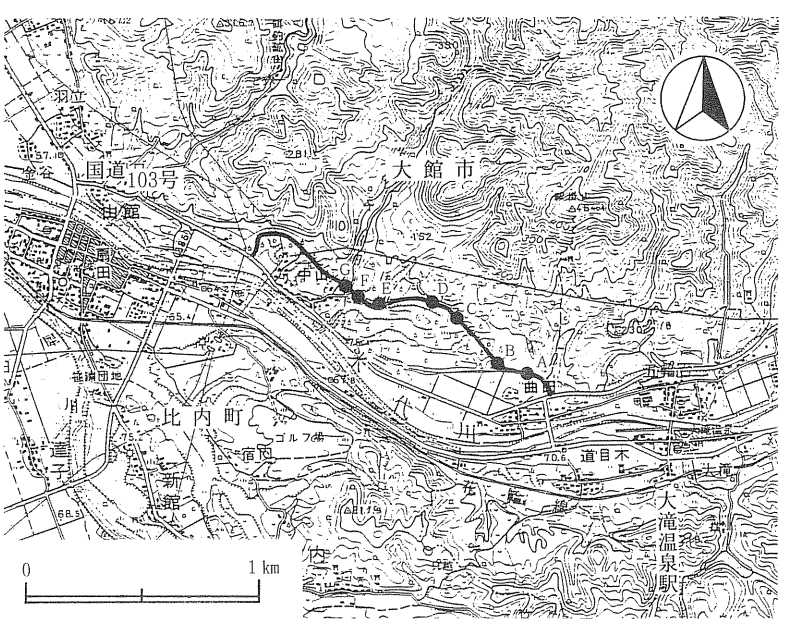
第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過

曲田地区農免農道は、果樹栽培の盛んな大館市曲田・中山両地区の農業合理化を目的とした曲田字沢口から中山字兎沢に至る全長約3.3㎞の道路である（第１図）。

この地区には周知の遺跡が多く所在しており、本農道の計画路線内にも埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから、秋田県農政部北秋田農林事務所は文化財保護法に基づき、この事実確認と今後の対応について秋田県教育委員会に調査と指導の依頼をした。

秋田県教育委員会は、これを受けて平成元年度から３年度にかけて計画路線内の遺跡分布調査を実施した。この結果、路線内に係る埋蔵文化財包蔵地および包蔵地と推測される地区は７カ所であり、今後範囲確認調査が必要であることと、範囲確認調査の結果記録保存の必要なものについては発掘調査を実施すべきことを回答した。



第１図　曲田地区農免農道計画路線と遺跡

計画路線の曲田側から工事が開始されることになり、平成２年度には、家ノ後遺跡（第１図Ａ）と上聖遺跡（同図Ｂ）の範囲確認調査を実施した。

平成３年度には、家ノ後遺跡と上聖遺跡の２遺跡の発掘調査と野沢岱遺跡（同図Ｃ）の範囲確認調査を実施した。年度末に上聖遺跡の発掘調査報告書を刊行した。

平成４年度には、野沢岱遺跡の発掘調査と冷水山根遺跡（同図Ｄ）・寒沢Ⅱ遺跡（同図Ｅ）・寒

沢遺跡(同図Ｆ)・中山遺跡(同図Ｇ)の範囲確認調査を実施した。発掘調査報告書は家ノ後遺跡を12月に、野沢岱遺跡は年度末に刊行した。

平成５年度には、冷水山根遺跡・寒沢　遺跡・中山遺跡の発掘調査を実施した。当初平成５年度に発掘調査をする予定であった寒沢遺跡は、平成６年度に実施することになった。年度末に冷水山根遺跡・寒沢Ⅱ遺跡と中山遺跡の発掘調査報告書を刊行した。

第２節　調査要項

遺跡名称	寒沢遺跡（遺跡略号２ＳＺ）
所在地	秋田県大館市中山字寒沢83－1 外
調査期間	平成６年５月16日～６月24日（実稼働日数30日間）
調査面積	800㎡
調査主体者	秋田県教育委員会
調査担当者	櫻田　隆　（秋田県埋蔵文化財センター調査課調査第３科長）
	長澤 和則（秋田県埋蔵文化財センター調査課非常勤職員）
総務担当者	藤肥 良清（秋田県埋蔵文化財センター総務課主査）
	佐藤 広文（秋田県埋蔵文化財センター総務課主任）
	須田 輝樹（秋田県埋蔵文化財センター総務課主事）
調査協力機関	秋田県農政部北秋田農林事務所　　大館市教育委員会生涯学習課
	比内町教育委員会生涯学習課

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　自然的環境

大館盆地は、奥羽脊梁山脈の西縁に位置するおよそ100㎢の陥没盆地である。盆地の周囲には北西側に白神山地、東側に高森山地、南西側に摩当山地が標高200～800ｍで連なっている。

盆地内には、米代川とその支流である長木川・下内川・犀川その他の小河川が流れ、盆地床に広い平地を形成している。それぞれの河川の流域には数段の河岸段丘が発達している。

大館盆地内の河岸段丘は古い順に第１から第５段丘まで５つの段丘に分類できるが、その他に中間段丘やごく新しい沖積段丘も認められる。現地形では第２段丘と第３段丘は同一の平坦面を形成していることが多く、その境界を明確に区別することは困難である。この第２段丘と第３段丘は標高60～100ｍをはかる。洪水による浸水の心配がないため古くから居住の地として使用されていたことは、これら段丘端の舌状台地と侵食谷に沿った地域に多くの遺跡が存在することからも明らかである。

寒沢遺跡は大館市の南部、ＪＲ大滝温泉駅の北西約3.0㎞にあり、西流する米代川の右岸に形成された河岸段丘(第３段丘)上に立地する。遺跡付近の河岸段丘(第３段丘)は、中山集落の東辺を流れる中山沢とその支谷群により北東から南西方向に開析されている。

寒沢遺跡は、北西側を中山沢、東側と南側をその支谷に囲まれた広大な舌状台地の上面とその斜面に位置している。今回の発掘調査対象となったのは南西側先端部に近い区域である。

曲田地区農免農道整備事業に伴い、南東側に50ｍ隔てた寒沢Ⅱ遺跡と、北西側の中山沢を挟んで位置する中山遺跡が昨年度発掘調査されている。

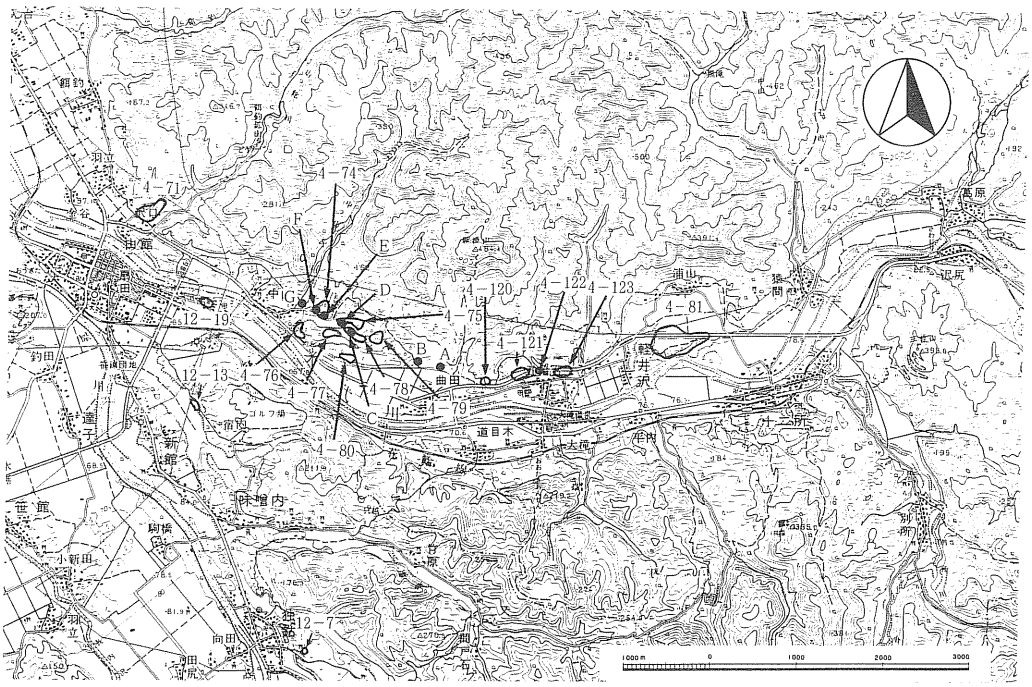
第２節　歴史的環境

大館盆地には、旧石器時代から近世にかけての遺跡が数多く知られている。それらの多くは盆地中央を流れる米代川とその支流群によって形成された河岸段丘および低丘陵地上に位置している。

寒沢遺跡の発掘調査では、縄文時代早期・中期および後期の遺構・遺物を検出・出土したので、本節では本遺跡に類似した様相を呈する縄文時代の遺跡を概観する。

寒沢遺跡周辺で縄文時代早期の土器を出土した遺跡は、東に0.7㎞隔てた野沢岱遺跡〔Ｃ(4-78)〕、南東に2.8㎞離れた鳶ケ長根Ⅳ遺跡（4-123）、北西に2.35㎞離れた山館上ノ山遺跡（4-71）、北西に4.9㎞離れた池内遺跡（4-68）、西に1.2㎞離れた本道端遺跡（12-19）、南に1.8㎞離れた横沢遺跡（12-13）の６カ所である。

このうち、早期中葉の貝殻沈線文系の土器(片)を出土した遺跡は、野沢岱遺跡、鳶ケ長根Ⅳ遺跡、本道端遺跡、横沢遺跡であるが、鳶ケ長根Ⅳ遺跡を除くといずれも破片１点の出土であった。(野沢岱遺跡では貝殻条痕文の施文された土器片（部位不明）であり、本道端遺跡では貝殻



第２図　遺跡周辺の縄文時代の遺跡位置図

腹縁圧痕文と沈線文が施文された土器片（胴部上半）である。横沢遺跡では貝殻腹縁圧痕文が施文された尖底部片である。池内遺跡では無文の尖底部片である。）

鳶ケ長根Ⅳ遺跡では、早期中葉から末葉の土器片約5,000点、トランシェ様石器54点が出土した。早期中葉の土器片は、羽状に貝殻腹縁圧痕文を施文したものが多く、貝殻腹縁圧痕文・刺突文・沈線文の組み合わせも多様に見られ、吹切沢式から物見台式に至る序列の中間に位置付けられるという。早期末葉の土器は、器表面には撚糸文、器内面には貝殻条痕文が施文されている。

山館上ノ山遺跡では東北北部の早期中葉のムシリⅠ式に比定される細い粘土紐を貼り付けた細隆起線による幾何学的な文様の施文された土器片が出土した。野沢岱遺跡ではムシリⅠ式に比定される幾何学的な細隆起線が沈線に置換された文様の施文された土器片も出土した。

縄文時代早期の石器として知られるトランシェ様石器は、鳶ケ長根　遺跡のほかに寒沢Ⅱ遺跡〔E(4-74)〕でも１点出土した。

縄文時代前期の遺跡として山館上ノ山遺跡、本道端遺跡、鳶ケ長根Ⅳ遺跡、萩峠遺跡（4-81)、野沢岱Ⅰ遺跡（4-76）、下聖遺跡（4-80）、上聖遺跡（B）、寒沢Ⅱ遺跡があげられる。山館

上ノ山遺跡では竪穴住居跡16軒と台地斜面と沢状地形内の「土器捨て場」が調査され、大量の円筒下層式土器とともに少量の大木式土器片が出土した。寒沢Ⅱ遺跡でも台地斜面に「土器捨て場」があり、前期の遺物包含層が調査された。

縄文時代中期の遺跡として山館上ノ山遺跡、本道端遺跡、横沢遺跡、野沢岱Ⅱ遺跡（4-77）、下聖遺跡、上聖遺跡、大日堂前遺跡（12-7）、野沢岱遺跡、冷水山根遺跡〔Ｄ(4-75)〕、寒沢Ⅱ遺跡、中山遺跡（Ｇ）があげられる。本道端遺跡では竪穴住居跡23軒が調査され、円筒上層式土器とともに大木式土器片が出土した。竪穴住居跡には複式炉が付設されており、東北地方南半との文化的交流があったことが推測されている。野沢岱遺跡では竪穴住居跡５軒・フラスコ状土坑１基と大木８ａ・８ｂ式土器・円筒上層ｃ～ｅ式・中の平Ⅰ式土器等を、また冷水山根遺跡では台地斜面に竪穴住居跡２軒・フラスコ状土坑１基・土坑５基を検出した。寒沢Ⅱ遺跡では台地斜面に「土器捨て場」があり、大木7ａ～８ｂ式土器・円筒上層ａ～ｅ式土器が出土した。中山遺跡では複式炉のある竪穴住居跡を検出した。

縄文時代後期の遺跡として山館上ノ山遺跡、家ノ後遺跡（Ａ）、横沢遺跡、鳶ケ長根Ⅳ遺跡、萩峠遺跡、中山遺跡、下聖遺跡、上聖遺跡、沢口遺跡（4-120）、大日堂前遺跡、寒沢Ⅱ遺跡があげられる。家ノ後遺跡では竪穴住居跡・土坑のほか、台地斜面下方に粘土採掘坑を検出した。萩峠遺跡では竪穴住居跡10軒を検出し、十腰内Ⅰ式土器が出土した。中山遺跡では竪穴住居跡のまわりに周堤と考えられる帯状の礫群を検出した。

縄文時代晩期の遺跡として山館上ノ山遺跡、本道端遺跡、家ノ後遺跡、鳶ケ長根Ⅱ遺跡（4-121）、鳶ケ長根Ⅲ遺跡（4-122）、鳶ケ長根Ⅳ遺跡、上聖遺跡、大日堂前遺跡があげられる。家ノ後遺跡では土壙墓群を検出した。

第１表　周辺の縄文時代の遺跡一覧表

遺跡番号	遺跡名称	遺跡番号	遺跡名称	遺跡番号	遺跡名称	遺跡番号	遺跡名称
4－71	山館上ノ山	4－74	寒　沢	4－75	冷水山根	4－76	野沢岱Ⅰ
4－77	野沢岱Ⅱ	4－78	野沢岱Ⅲ	4－79	野沢岱Ⅳ	4－80	下　聖
4－81	萩　峠	4－120	沢　口	4－121	鳶ケ長根	4－122	鳶ケ長根Ⅲ
4－123	鳶ケ長根Ⅳ	12－7	大日堂前	12－13	横　沢	12－19	本堂端
事業に伴い発掘調査した遺跡							
遺跡番号	遺跡名称	遺跡番号	遺跡名称	遺跡番号	遺跡名称	遺跡番号	遺跡名称
A	家ノ後	B	上　聖	C(4－78)	野沢岱	D(4－75)	冷水山根
E(4－74)	寒沢Ⅱ	F(4－74)	寒　沢	G	中　山		

註１．　遺跡番号は『秋田県遺跡地図（県北版）』、遺跡名称は『秋田県遺跡地図（県北版）』と『秋田県大館市遺跡詳細分布調査報告書』による。

註２．　池内遺跡は秋田県教育委員会が平成４年度から４カ年計画で発掘調査・整理中であり、尖底土器出土に関しては未発表である。

第３章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

寒沢遺跡は、第２章第１節でも述べたように米代川右岸の河岸段丘を開析する中山沢(川)とその支谷群に囲まれ、北東－南西方向に長い舌状台地に立地している。中山集落の東側で米代川に注ぐ中山沢(川)を河口から上流部におよそ300ｍ溯ると右側(東側)に幅が狭く深い支谷(第１支谷と仮称する)が現れる。この幅が狭く深い支谷は溯るにつれ広くなり、またいくつかに枝別れの小支谷群が形成されている。この第１支谷を過ぎて中山沢(川)を約100ｍ溯り、農道の橋を過ぎた辺りの右側(東側)の崖面中腹に支谷(第２支谷と仮称する)が確認できる。中山沢(川)、第１支谷と第１支谷の枝別れの小支谷群のうち最も北側に開析された小支谷に囲まれた舌状台地は、幅200～250ｍ、奥行き350～500ｍ、面積約100,000㎡の広がりをもっている。第２支谷は台地を東西に２分するように入り込んでいる。この台地は、北東側に連なる山地の裾野(標高93～96ｍ)から南西側に伸びており、中山沢(川)の辺りの標高70ｍまで高さを低減させているが、先端部に近いところで10ｍあまりも急激に低減させており、台地は上部の平坦面(標高90～93ｍ)とそれに続く下位の南西の緩やかな傾斜の平坦面(標高72～80ｍ)から構成されているように観察される。台地南側の斜面は急な傾斜面となっているが、小さな開析谷も多く見られる。

台地は大部分が果樹園と畑地として利用され地形も改変されているが、旧地形が失われるほどではない。上部平坦面部分は、地元の中山地区では時代など不明であるが殿様の居館跡である「桜殿」の遺跡として伝承されていたところである。ここでは果樹園や畑地の耕作の際に掘り出された縄文時代前期や中期の土器片や石器、礫などが一まとめにされて作業小屋の軒下や畑の隅におかれていた。また、台地の南側では斜面が崩落し、堆重した縄文時代前期と中期の遺物包含層が露頭している箇所も見られた。

台地先端部の南側斜面には寒沢Ⅱ遺跡として縄文時代前期と中期の「土器捨て場」(遺物包含層)を発掘調査した地区がある。今回の曲田地区農免農道整備事業に伴い、寒沢遺跡として発掘調査対象となったのは南西側先端部に近い区域で、昨年度の寒沢Ⅱ遺跡調査区とは南西に50ｍ離れているが、このような状況から、斜面も含めた台地全体が縄文時代集落遺跡である「寒沢遺跡」の範囲であると推定され、寒沢Ⅱ遺跡として発掘調査された区域も台地に広がる「寒沢遺跡」の一部分と見ることができる。

今回の発掘調査区は、この台地の南西側先端部の標高75ｍ（南東側と北西側）と78ｍ（中央部）の２段の平坦面からなっており、細長い調査区の中央部と南東側が果樹園と農道、北西側

が山林となっていた。

第２節　調査の方法

１．調査区の設定

調査区の設定方法は、秋田県農政部北秋田農林事務所が打設した工事用中心杭№103を仮原点として、磁北に合わせた基準線を設定し、この基準線に直交する４ｍ×４ｍのグリッドを設定した。仮原点をＭＡ50とし、東西方向には東に向かってＬＴ・ＬＳ～ＬＬ・ＬＫ、西に向かってＭＡ・ＭＢ～ＭＧ・ＭＨのアルファベットを、南北方向には南から北に向かって40・41～50～57・58のアラビア数字を付し、この組み合わせてグリッド杭を呼ぶことにした。グリッド名は、４ｍ×４ｍの方眼の南東隅の杭による。

第３図　調査区と周辺地形

２．発掘調査方法

発掘調査はグリッド法を原則としながら一部トレンチ法も採用した。調査区が２段の平坦面と斜面からなっており、平成４年度の範囲確認調査の結果から上位の平坦面(中央部)は全面的な発掘調査、下位(南東側)の平坦面と斜面(北西側)はトレンチによる発掘調査とした。中央部平坦面は、現地表面から地山面までの土層の堆積が厚く、範囲確認調査でも堆積土中で竪穴住

居跡が確認されていることから、層位毎に遺構・遺物の精査・収納が必要とされた。

遺構から出土した遺物は種類・位置・レベル・出土層位等を記録して１点毎に収納することを原則とした。また、各層から出土し、まとまりのない遺物についてはグリッド毎に出土層位を確認して一括収納した。

記録図面は、縮尺１／20で平面・断面を、縮尺１／10で詳細平面・断面を作図した。また、写真記録は、ブロニー判と35㎜判のモノクロフィルムとリバーサルフィルムによった。

室内における整理作業では、現場で作成した平面・断面図から第２原図を作成し、これをトレースして版組した。遺物は、洗浄・註記・接合・復原のあとに実測図・拓影図の作成・写真撮影を行った。石器の実測には、写真実測で行ったものもある。

第３節　調査経過

５月９日に寒沢遺跡発掘調査作業員希望者を募り作業員を確保した。翌日から測量業者によるグリッド杭打設が行われ、12日に事務所・休憩所、発電機等のリース機材が到着。13日までに発掘・測量・撮影機材を搬入するとともに、土層断面観察用ベルト・トレンチを設定した。

５月16日(月)、南東側平坦面のトレンチ(No.1トレンチ)の粗掘りから発掘調査を開始した。この地区は現状では削平・撹乱を受けているが、埋没した開析谷があることがわかった。表土から完形の管状土錘と思われる土製品１点が、またトレンチ内に堆積する古代の降下火山灰である大湯浮石層より上位の層中から縄文時代中期・後期の土器片数点とともに、早期の貝殻文土器片１点が出土した。翌日No.1トレンチの南東側にNo.2トレンチを設定したところ埋没谷の幅がおおよそ判明した。この埋没谷部分は盛土で工事が行われることになっていることから、これ以上拡張調査しなかった。

18日から中央部平坦面の粗掘りを開始した。0.3ｍの深さまで掘り下げたところ、大湯浮石層（間層Ａ）が局所的に堆積していた。拳大～人頭大の礫も分布しているのを確認した。ＭＡ51グリッドでは、人頭大以上の礫による方形の配石遺構（ＳＱ02）を検出した。23日から、この面（第Ⅱ層上面）で広範囲にプラン確認作業をしたところ、16条の溝が４ｍ間隔で幅0.25ｍ、深さ0.2～0.4ｍで東西方向・南北方向に走っているのを検出した。北西側平坦面に設定したトレンチ（No.3トレンチ）の粗掘りも開始した。24日から中央部平坦面の溝を掘り下げることにより、遺構（竪穴住居跡１軒）と地山面までの深さを確認できた。溝の中から縄文時代後期の土器片・石器とともに、早期の貝殻腹縁文土器片やトランシェ様石器が出土した。25日にNo.3トレンチで土坑２基を検出した。また、中央部平坦面の北西側法面を剝土して竪穴住居跡２軒（ＳＩ03・04）を検出した。26日にＬＴ50グリッドで配石遺構（ＳＱ01）を検出。第Ⅱ層からは、縄文時代後期の土器が多く出土した。31日にはＭＡ52・ＭＢ52・ＭＢ53・ＬＴ52グリッドの

第Ⅱ層中から早期の貝殻文土器片・無文尖底土器片・トランシェ様石器等が出土した。

６月１日にＳＩ02竪穴住居跡を第Ⅲ層上面で検出し掘り下げたが、土層観察から第Ⅱ層上面から掘り込まれていた。この竪穴住居跡にも大湯浮石層が堆積していた。２日にはＳＩ01竪穴住居跡で完形の異形台付土器・注口土器・台付鉢形土器などが出土した。ＳＩ03竪穴住居跡の掘り下げを開始し、床面上で完形の注口土器が出土した。３日にカナダのMcGILL UNIVERSITYの女子学生NANCY MORIYAMAとDEBRA STERNの２名が研修のため来跡（24日まで）。また、ＳＩ03竪穴住居跡床面に土坑（ＳＫＦ10）を検出した。竪穴住居跡では第Ⅵ層（地山シラス）を掘り込んでおり、同色の粘土質土で貼床していない限り、この地山上面を床面と考えていた。しかし、ＳＩ01・02・05・08では地山上に黒褐色土の極く薄い堅く締まった層とやや締まりのない層が互層となって堆積しており、床面に敷いた有機物の堆積と判断した。有機物の腐敗に伴いその上に新たに敷くという生活をしているうちに自然に床面が高くなり、この黒褐色土上面が最終的な床面となっていたと判断した。この堆積層中からは遺物の出土がなかった。７日に第　層の掘り下げを開始したところ、後期の土器・石器とともに早期の土器片・石器が多く出土した。

10日にＬＳ48グリッドの第Ⅲ層から貝殻腹縁文と沈線文が施文された早期の片口土器片１点が出土した。13日に梅雨入りとなったが、ＳＩ05・ＳＩ07・ＳＩ08竪穴住居跡のプランを検出し、掘り下げを開始した。ＳＩ05・ＳＩ08は後期の所謂瘤付土器の時期のもの、またＳＩ07は埋土中から中期の深鉢形土器片が出土したが床面上から後期の深鉢形土器片が出土しており後期の竪穴住居跡と判明した。15日にＳＩ07竪穴住居跡の西側に、中期の竪穴住居跡（ＳＩ17）を検出した。

ＬＴ50・ＭＡ50グリッドで地山と異なる土層（第Ⅳ層）が堆積しているのを確認し、掘り下げたところ、翌16日にＬＴ50グリッド杭近くで礫下に横倒した無文尖底土器１個体、その西側約0.5ｍに貝殻殻頂部押圧尖底土器片１点、東北方約0.3ｍにも尖底土器片１点が出土した。また、ＭＢ52・53グリッドでも第Ⅳ層が堆積しているのを確認し、掘り下げたところ、ＭＢ53グリッドでＳＫ19土坑を検出した。埋土中から早期の土器片２点と箆状石器１点が出土した。

24日までに遺構の検出と精査、調査区内の地形測量を終了し、全景写真撮影を行った。また、発掘諸機材を池内遺跡に搬送した。

25日午後に約70名の参加者を得て現地説明会を開催して、寒沢遺跡が縄文時代早期・中期・後期の集落であること、貝殻文の施文された片口土器は同器種の土器としては日本最古のものであることなどを説明した。

果樹園の隣りでの調査は、頻繁なスピードスプレーヤーによるニコチンなどの薬剤散布により、作業の中断・避難を繰り返しながらも終了した。

第４章　調査の記録

第１節　遺跡の基本土層

寒沢遺跡の調査対象区は、農道に囲まれた中央部の半円状の平坦面（果樹園）と北西側の斜面（雑木林）と南東側の一段低い平坦面（果樹園）からなっている。中央部の平坦面では、現地表面から地山面にいたるまでに堆積する土層は６層に大別できた。第Ⅰ層と第Ⅱ層の間には、局所的に間層Ａ（火山灰）が堆積していた。また第Ⅳ層も局所的に堆積する土層である。

第Ⅰ層；　暗褐色(10YR3／4)～黒褐色(10YR2／2)の表土・腐植土。層厚10～20cm。

第Ⅱ層；　軽石(浮石)質の火山灰粒を少量混入する黒褐色(10YR2／3)土。層厚10～25cm。

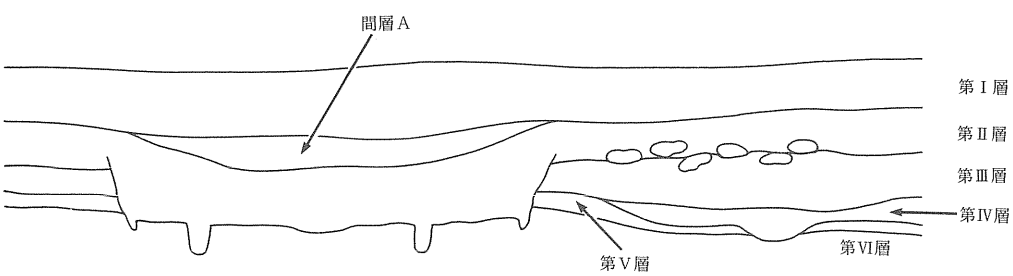
第Ⅲ層；　地山粒を少量混入し、固く締まった暗褐色(10YR3／3)土。層厚12～30cm。

第Ⅳ層；　地山粒・塊を多量に、炭化物を少量混入し固く締まった黒褐色土(10YR2／2～10YR3／2)。層厚13～25cm。

第Ⅴ層；　地山粒を多量に混入する暗褐色(10YR3／4)の地山漸移層。層厚5～10cm。

第Ⅵ層；　にぶい黄褐色(10YR5／4)～黄褐色(10YR5／6)を呈し、砂、軽石（浮石）質の火山灰粒・塊、礫からなる地山。所謂シラスであるが、その下位に河成礫層が堆積しており、北西側の斜面と南東側の平坦面では部分的に礫層が露出していた。

間層Ａ　十和田火山起源の軽石質降下火山灰（大湯浮石層）である。層厚0.5～20cm。



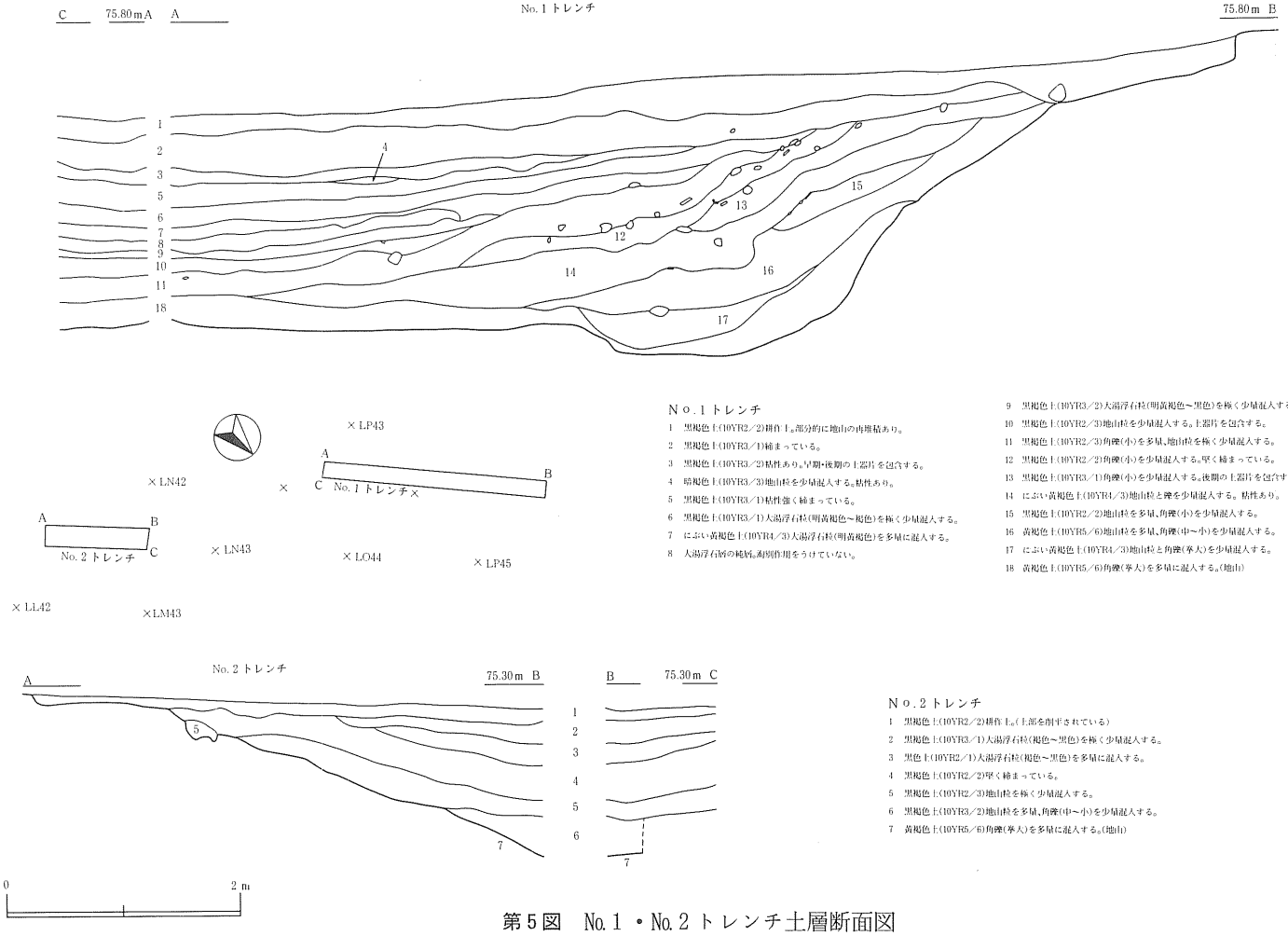
第４図　遺跡の基本土層模式図

南東側の平坦面は果樹園造成のため削平されており、耕作土の下は地山の礫混じりのにぶい褐色土層となっていた。北西側の斜面では表土・腐植土層、暗褐色土層、地山粒混じりの褐色土層、地山の礫混じりのにぶい褐色土層の順で堆積していた。

第２節　検出遺構と出土遺物

１．検出遺構と出土遺物の概要

平成４年度に実施した範囲確認調査では縄文時代後期の竪穴住居跡と土坑を検出し、遺物も



No. 1 トレンチ

1　黒褐色土(10YR2／2)耕作土。部分的に地山の再堆積あり。
2　黒褐色土(10YR3／1)締まっている。
3　黒褐色土(10YR3／2)粘性あり。早期・後期の土器片を包含する。
4　暗褐色土(10YR3／3)地山粒を少量混入する。粘性あり。
5　黒褐色土(10YR3／1)粘性強く締まっている。
6　黒褐色土(10YR3／1)大湯浮石粒(明黄褐色～褐色)を極く少量混入する。
7　にぶい黄褐色土(10YR4／3)大湯浮石粒(明黄褐色)を多量に混入する。
8　大湯浮石層の純層。耕作用をうけていない。
9　黒褐色土(10YR3／2)大湯浮石粒(明黄褐色～黒色)を極く少量混入する。
10　黒褐色土(10YR2／3)地山粒を少量混入する。土器片を包含する。
11　黒褐色土(10YR2／3)角礫(小)を多量、地山粒を極く少量混入する。
12　黒褐色土(10YR2／2)角礫(小)を少量混入する。堅く締まっている。
13　黒褐色土(10YR3／1)角礫(小)を少量混入する。後期の土器片を包含する。
14　にぶい黄褐色土(10YR4／3)地山粒と礫を少量混入する。粘性あり。
15　黒褐色土(10YR2／2)地山粒を多量、角礫(小)を少量混入する。
16　黄褐色土(10YR5／6)地山粒を多量、角礫(中～小)を少量混入する。
17　にぶい黄褐色土(10YR4／3)地山粒と角礫(拳大)を少量混入する。
18　黄褐色土(10YR5／6)角礫(拳大)を多量に混入する。(地山)

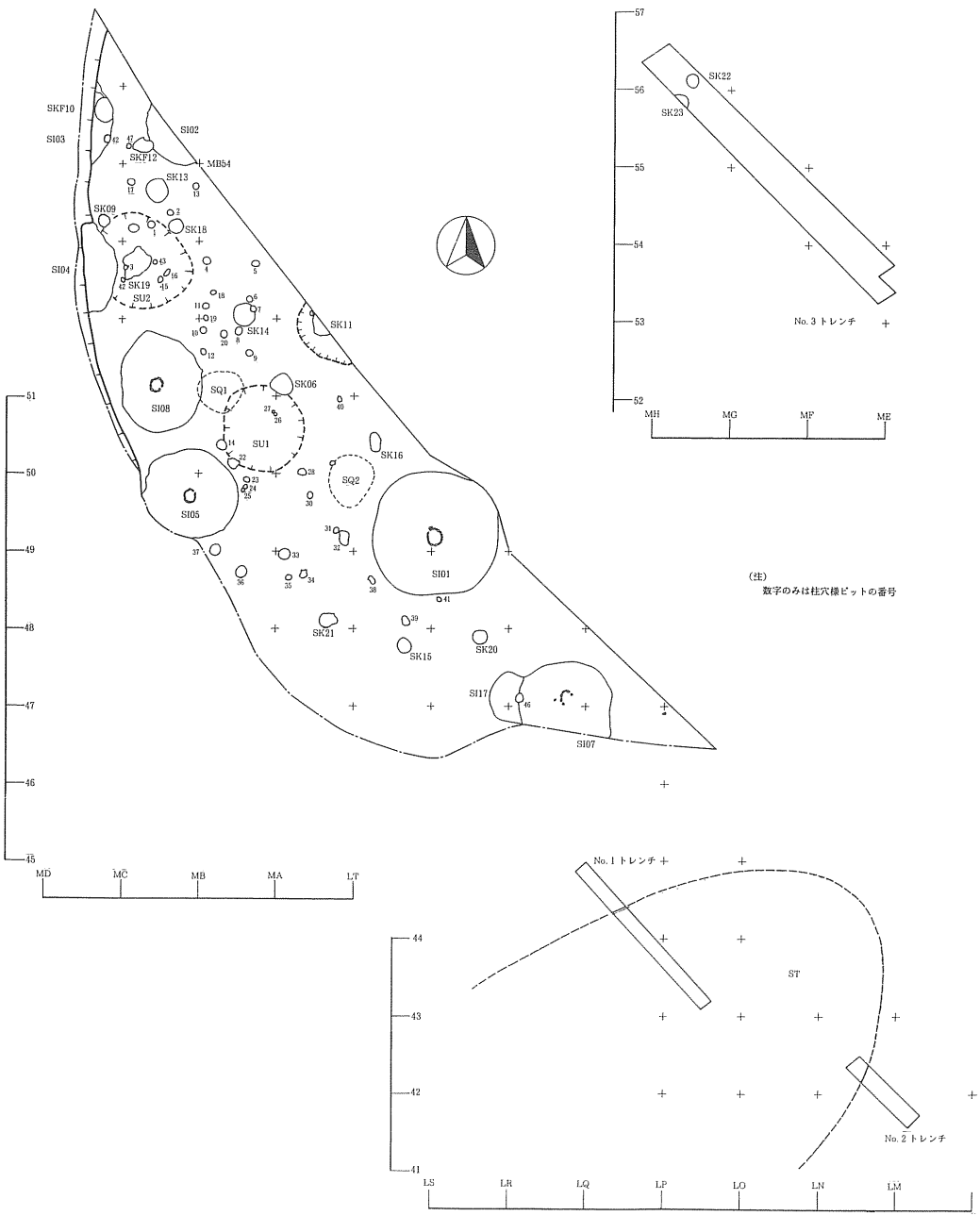
No. 2 トレンチ

1　黒褐色土(10YR2／2)耕作土。(上部を削ぎされている)
2　黒褐色土(10YR3／1)大湯浮石粒(褐色～黒色)を極く少量混入する。
3　黒色土(10YR2／1)大湯浮石粒(褐色～黒色)を多量に混入する。
4　黒褐色土(10YR2／3)堅く締まっている。
5　黒褐色土(10YR2／3)地山粒を極く少量混入する。
6　黒褐色土(10YR3／2)地山粒を多量、角礫(中～小)を少量混入する。
7　黄褐色土(10YR5／6)角礫(拳大)を多量に混入する。(地山)

第5図　No. 1 ・No. 2 トレンチ土層断面図

後期のもののみであったので、寒沢遺跡は縄文時代後期の集落跡の一部であろうと考えられた。

しかし、発掘調査では、縄文時代早期の遺構と遺物、中期の竪穴住居跡および後期の竪穴住居跡・土坑・配石遺構と遺物を検出・出土し、縄文時代早期・中期・後期の集落跡の一部であることが明確になった。



第６図　遺構配置図

縄文時代早期の遺構は、土坑２基と柱穴様ピット２カ所および遺物集中区２カ所を検出した。また、早期の遺物は、貝殻腹縁文・貝殻条痕文・貝殻圧痕文・表裏縄文・無文などの尖底土器やトランシェ様石器、篦状石器などが出土した。縄文時代中期の遺構は竪穴住居跡１軒を検出し、床面から深鉢土器と台付土器等が出土した。縄文時代後期の遺構は、竪穴住居跡７軒、土坑９基、フラスコ(袋)状土坑２基、配石遺構２基を検出した。

遺物は深鉢土器、浅鉢形土器、壷形土器（長頸・短頸・無頸）、注口土器、香炉形土器、異形台付土器、台付浅鉢形土器、台付皿形土器、土偶、管状土製品、スタンプ状土製品、石鏃、石錐、石槍、石匙、篦状石器、掻器、削器、磨製石斧、打製石斧、くぼみ石、石錘、擦石、アスファルト塊などが出土した。(遺物については、第４節の遺構外出土遺物の項に分類基準を提示しており、遺構内の出土遺物もその基準によって分類している。)

７層に大別された堆積土層と遺構・遺物の関係を観察すると、第Ⅰ層では中期と後期の遺物が混在して出土した。第Ⅱ層と第Ⅲ層上位で後期の竪穴住居跡・土坑・配石遺構を検出し、後期の遺物が多く出土した。第Ⅲ層では中期と後期の遺物が少量、早期の遺物が多量に混在出土した。第Ⅲ層下位で多くの土坑と柱穴様ピット、および中期の竪穴住居跡が確認された。第Ⅳ層は地山面のくぼみを中心に部分的に堆積し、早期の遺構と遺物が出土した。第Ⅴ層と第Ⅵ層および間層Ａから遺物は出土しなかった。

早期と中期および後期の遺物とも当時の生活面・遺構内に遺存しているものもあるが、それぞれ後世に撹乱（住居等構築による掘り上げ・トレンチャーによる掘り上げ・風倒木による撹乱等）を受けたと思われ、遺構外から出土した遺物が多い。

（１）縄文時代早期の遺構とその出土遺物

土　坑

土坑２基は、いずれも第Ⅳ層の掘り下げ中に遺構プランが確認されたもので、確認状況・埋土の土性・出土遺物等から早期の遺構と判断した。

ＳＫ18土坑（第７図、第８図）

［検出位置と確認状況］ＭＢ53グリッドで第Ⅳ層の掘り下げ中に検出した。第Ⅴ層を掘り込んでいる。

［形態と規模］平面形は長軸0.79ｍ、短軸0.7ｍの、東西に長軸方向をもつ略円形を呈する。

［壁と底面の状況］確認面から0.24～0.3ｍの深さをもつ壁面はほぼ垂直に立ち上がる。礫混りの地山の底面は北東側が長辺0.6ｍ、短辺0.48ｍの隅丸長方形状に、0.06～0.1ｍの深さで鍋底状にさらに一段深く掘り込まれ、その中の３カ所に浅い窪みがある。

［出土遺物］埋土中から貝殻条痕文土器片３点と石匙１点が出土した（第８図１～４）。

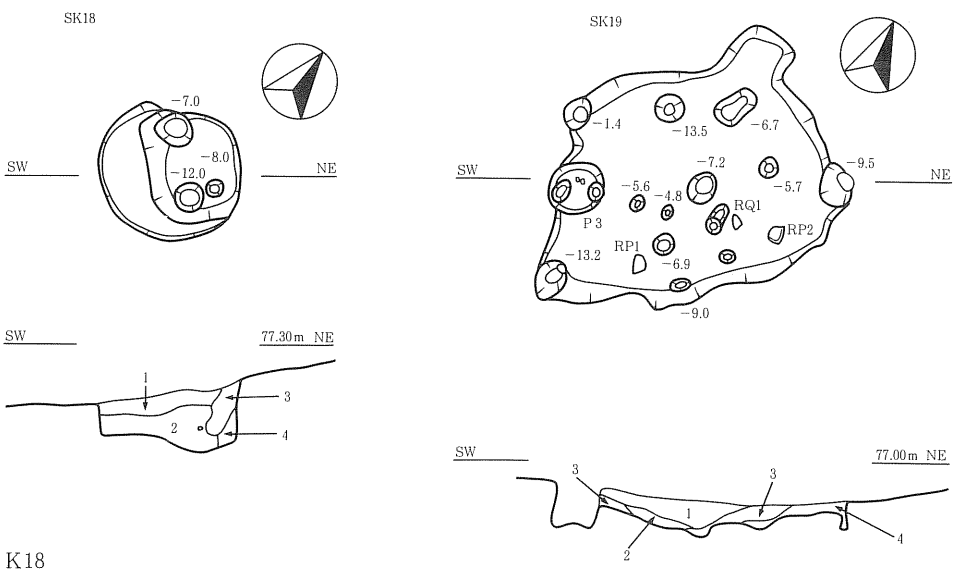
ＳＫ19土坑（第７図、第８図）

［検出位置と確認状況］ＳＵ２遺物集中区であるＭＢ52グリッドの第Ⅳ層を掘り下げたところ第Ⅴ層を掘り込んだ土坑プランを検出した。

［形態と規模］長辺1.68ｍ、短辺1.28ｍのやや膨らみのある不整な長方形プランを呈し、深さは0.15～0.2ｍである。

［壁と底面の状況］西側壁が後期の柱穴様ピットにより破壊され、その他の壁も自然崩壊したのか凹凸がある。底面は固く締まっていたが木根による小さな撹乱穴なども多く、凹凸が激しかった。

［出土遺物］埋土中から無文土器片２点と篦状石器１点が出土した（第８図５～７）。



ＳＫ18

1　黒褐色土(10YR3／1)地山塊(小)を混入する。

2　黒褐色土(10YR2／2)地山粒・塊を多量に混入する。締まり強い。

3　褐色土(10YR4／6)地山粒を多量に混入する。粘性強い。

4　黄橙色土(10YR7／8)砂質の地山。(掘り過ぎ)

ＳＫ19

1　灰黄褐色土(10YR4／2)地山粒・塊(大・小)を多量に混入する。堅く締まっている。

2　黒褐色土(10YR3／2)地山塊を極く少量混入する。堅く締まっている。

3　黒褐色土(10YR2／2)地山粒を混入する。堅く締まっている。

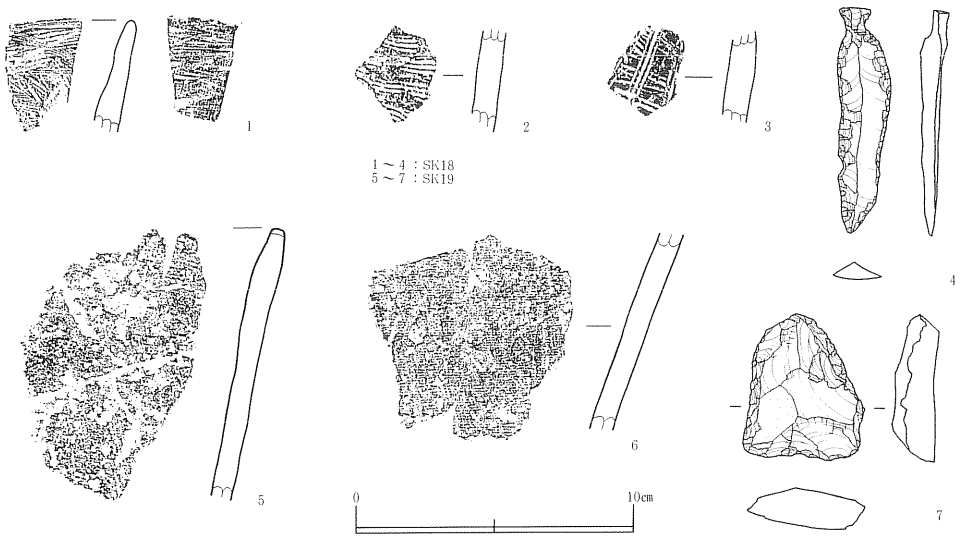
4　暗褐色土(10YR3／3)地山粒・塊(小)を多量に混入する。堅く締まっている。

0　2 m

第７図　SK18・SK19土坑実測図

柱穴様ピット（第９図）

ＳＫＰ26とＳＫＰ27はＳＵ１遺物集中区（ＬＴ50・ＬＴ51・ＭＡ50・ＭＡ51グリッド）の第Ⅳ層で検出した。検出状況と埋土の土性（地山粒・地山小塊を混入し、やや堅く締まった暗褐色土）から早期の柱穴様ピットと判断した。ＳＫＰ26とＳＫＰ27は隣接しており、内部に１本を半折した四角柱の自然石が斜めに傾むいて入っていた。



第８図　SK18土坑・SK19土坑出土遺物実測図

第２表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分類	備考
８－１	SK18　埋土中	深鉢口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅱ－２	
８－２	SK18　埋土中	深鉢胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－１	
８－３	SK18　埋土中	深鉢胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－１	
８－５	SK19　埋土中	深鉢口縁部	無文	無文	Ⅰ	口唇刻目
８－６	SK19　埋土中	深鉢胴部	無文	無文	Ⅰ	

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
８－４	SK18　埋土中	石匙	80	20	10	9	頁岩	１類	
８－７	SK18　埋土中	篦状石器	50	41	11	34	頁岩	１類	

遺物集中区（第９図）

ＳＵ１遺物集中区；ＬＴ50・ＬＴ51・ＭＡ50・ＭＡ51グリッドで東側から緩やかに傾斜する第Ⅵ層（地山）が鍋底状にくぼみ、そこに第Ⅳ層が厚く堆積しており、２カ所の柱穴様ピット（ＳＫＰ26とＳＫＰ27）とともに、直線上に並ぶ３個の大きな偏平川原石の周辺から早期の土器片が多く出土した（第10図～第13図）。第10図１は大きな偏平河原石に胴上半を挟まれ横倒状態で出土した。

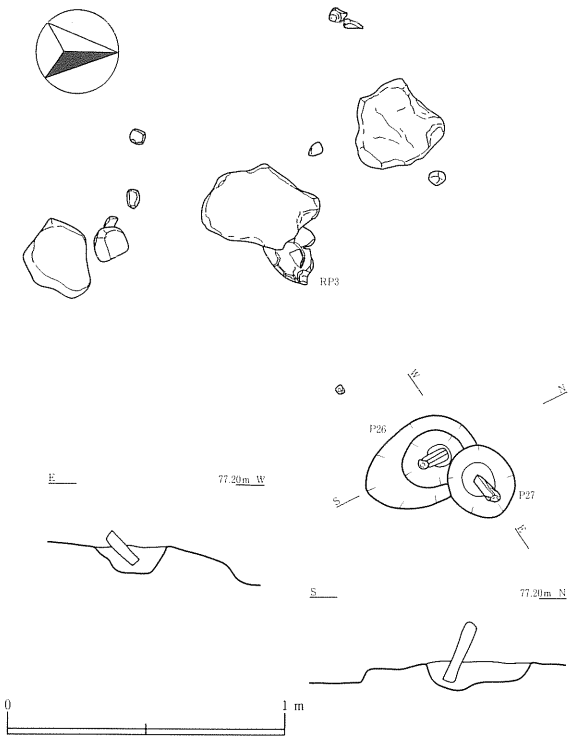
ＳＵ２遺物集中区；ＭＢ52・ＭＢ53・ＭＣ52・ＭＣ53グリッドで緩やかに傾斜する第Ⅵ層（地山）が鍋底状にくぼみ、そこに第Ⅳ層が厚く堆積しており、早期の土器片が多く出土した（第14図～第15図）。

（２）縄文時代中期の遺構とその出土遺物

竪穴住居跡

ＳＩ17竪穴住居跡（第16図、第17図）

［検出位置と確認状況］ＬＱ46・ＬＱ47・ＬＲ46・ＬＲ47グリッドに検出したが、撹乱の激しい



第９図　SU１遺物集中部（部分）、P26・27柱穴様ピット実測図

区域であったため第Ⅴ層(地山漸移層)上面で平面プランを確認できなかった。東側の後期のＳＩ07竪穴住居跡の精査中にその存在が確認された。

［形態と規模］東側をＳＩ07竪穴住居跡に、南側を農道開削により破壊されているが、円形プランを呈すると推測された。現況では北東－南西2.60ｍ、北西－南東1.5ｍの不整な半円形を呈し、プラン確認面から床面までの深さは0.10～0.18ｍである。

［壁］第Ⅴ層(地山漸移層)上面から第Ⅵ層(地山シラス)まで掘り込まれており、壁面は凹凸が激しいが固く締まっていた。

［床面］第Ⅵ層(地山)に堆積する粘土混じりの河成礫層が露出して凹凸が激しい。南西側に幅0.55ｍ、現長1.20ｍ、深さ0.53～0.91ｍの隅丸長方形の浅い窪みがある。

［柱穴］柱穴様ピットを西側壁寄りの床面に５カ所、隅丸長方形の浅い窪みの底面に１カ所検出したが、上部構造を推定できるような配置ではなかった。

［炉］検出されなかった。

［出土遺物］埋土中から中期の深鉢形土器破片13点と石匙１点、打製石斧１点が出土した。

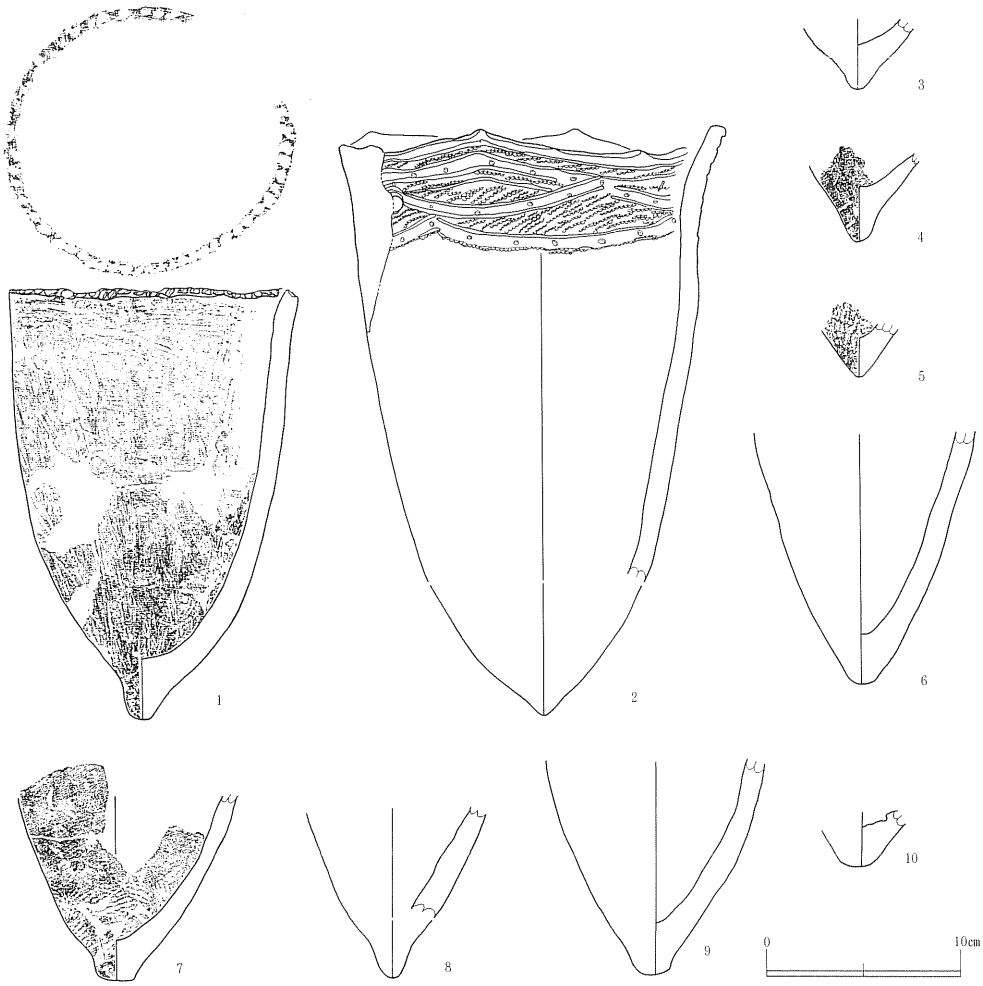
（３）縄文時代後期の遺構とその出土遺物

竪穴住居跡

ＳＩ01竪穴住居跡（第18図～第27図）

［検出位置と確認状況］ＬＲ48・ＬＲ49・ＬＳ48・ＬＳ49グリッドの第Ⅰ層を掘り除いたところ、浮石質の降下火山灰（間層Ａ）が堆積していた。その近くのトレンチャーによる溝の埋土を取り除くと床面の一部と壁面の立ち上がりを検出したので、その周辺をプラン確認したところ円形プランを検出した。プラン確認面は第Ⅱ層上面である。浮石質の降下火山灰（間層Ａ）は竪穴住居跡平面プランのほぼ中央に堆積していた。

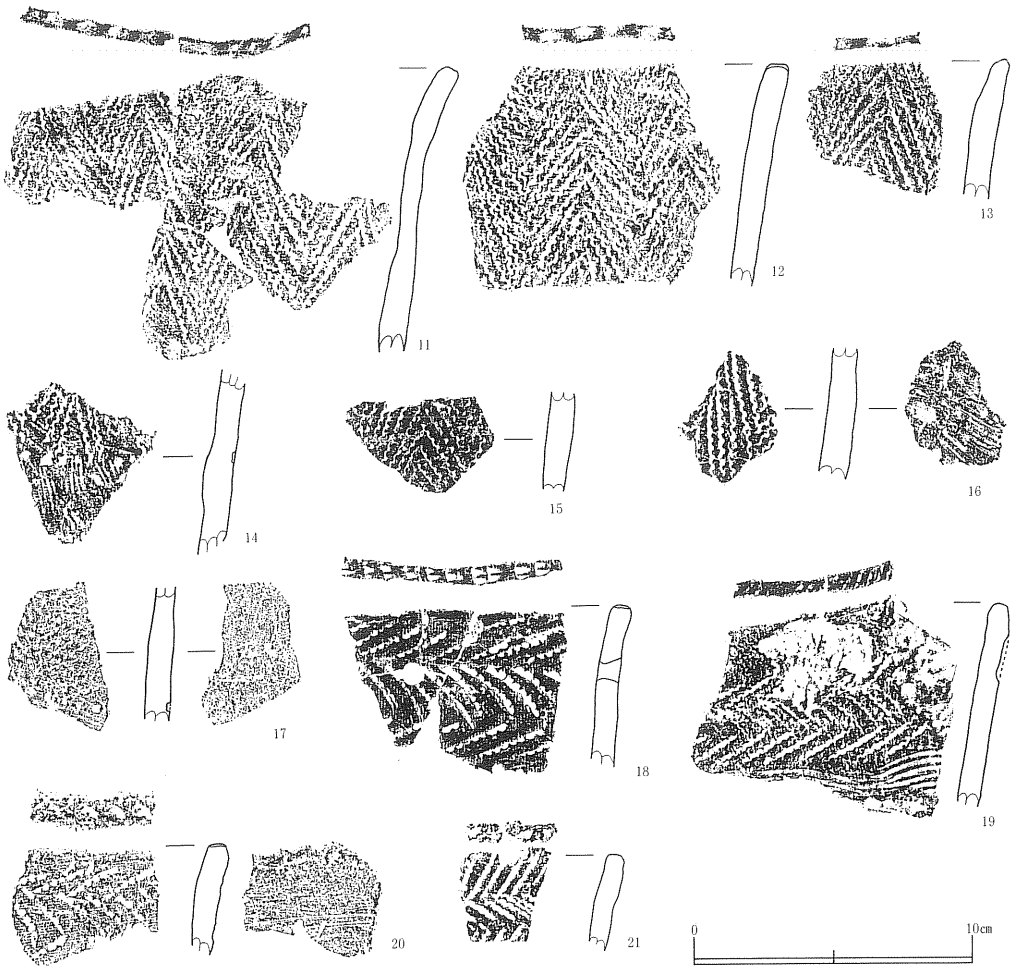
［形態と規模］平面プランは長径(東－西)6.56ｍ、短径(南－北)6.30ｍの略円形を呈する。プ



第10図　SU１遺物集中区出土遺物実測・拓影図

第３表　出土遺物観察表

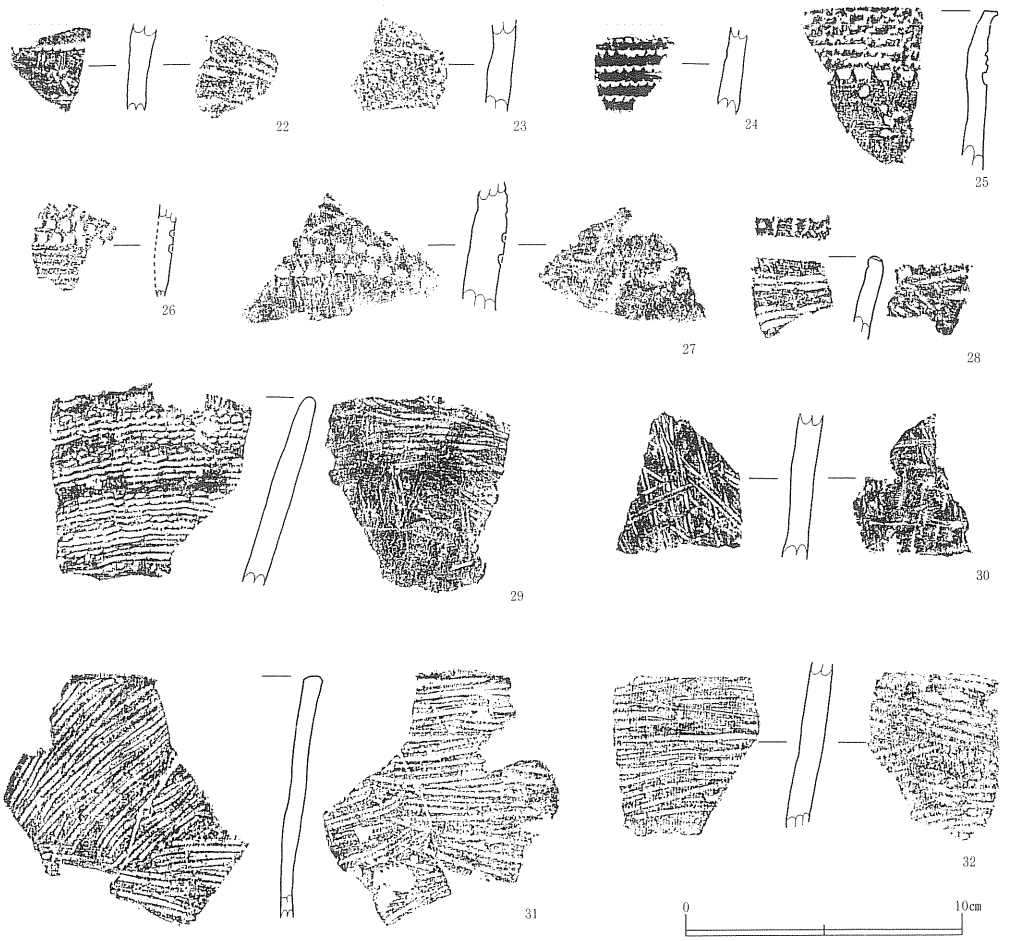
挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
10－１	MA50・LT50　Ⅳ層	深鉢　完形	蓖なで	蓖なで	Ⅰ	口唇刻目
10－２	LT50・MA51・MA52Ⅳ層	深鉢口縁～胴下半	縄位貝殻腹縁文・沈線文・結束文	無文	Ⅱ－18－B	
10－３	MA50　Ⅲ層	深鉢底部	無文	無文	Ⅰ	
10－４	LT48　Ⅳ層	深鉢底部	無文	無文	Ⅰ	
10－５	LT50　Ⅳ層	深鉢底部	RL縄文	無文	Ⅴ－１－A	
10－６	MA50　Ⅳ層	深鉢底部	無文	無文	Ⅰ	
10－７	MA50　Ⅳ層	深鉢底部	貝殻殻表圧痕	無文	Ⅱ－10	
10－８	MA51　Ⅲ層	深鉢底部	無文	無文	Ⅰ	
10－９	MA50　Ⅲ層	深鉢底部	無文	無文	Ⅰ	
10－10	MA50　Ⅳ層	深鉢底部	無文	無文	Ⅰ	



第11図　SU１遺物集中区出土遺物拓影図

第４表　出土遺物観察表

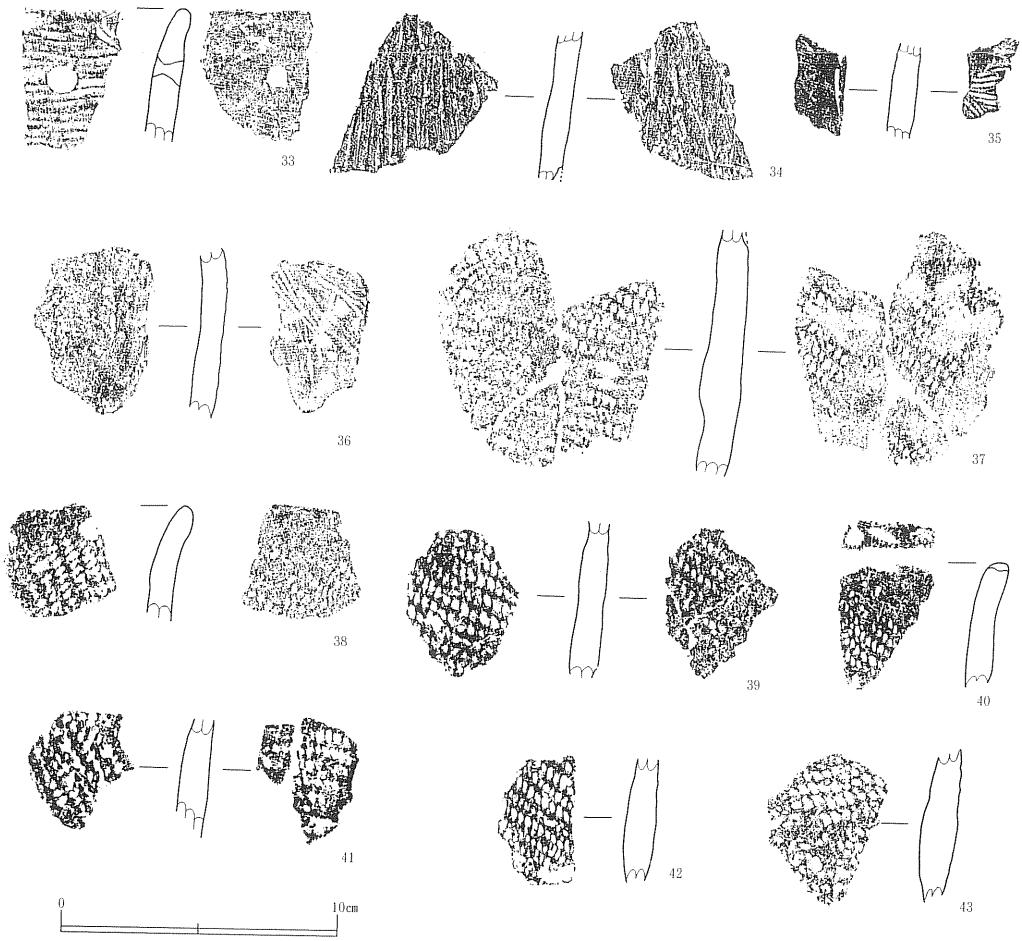
挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
11－11	MA51・LT50　Ⅳ層	深鉢口縁部	縦位羽状貝殻腹縁圧痕文	篦なで	Ⅱ－６	口唇指頭圧痕文
11－12	MA51　Ⅲ層	深鉢口縁部	縦位羽状貝殻腹縁圧痕文	篦なで	Ⅱ－６	口唇指頭圧痕文
11－13	MA50　Ⅳ層	深鉢口縁部	縦位羽状貝殻腹縁圧痕文	篦なで	Ⅱ－６	口唇指頭圧痕文
11－14	MA51　Ⅲ層	深鉢胴部	縦位羽状貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－６	
11－15	LT51　Ⅲ層	深鉢胴部	縦位羽状貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－６	
11－16	MA50　Ⅳ層	深鉢胴部	縦位羽状貝殻腹縁圧痕文	篦なで	Ⅱ－６	
11－17	MA51　Ⅲ層	深鉢胴部	縦位羽状貝殻腹縁圧痕文・刺突文	篦なで	Ⅱ-17-C	
11－18	MA51　Ⅲ層	深鉢口縁部	位羽状貝殻腹縁圧痕文	篦なで	Ⅱ－５	口唇指頭押し引き圧痕文・撫で乱れ
11－19	MA51　Ⅲ層	深鉢口縁部	位羽状貝殻腹縁圧痕文・条痕文	無文	Ⅱ－５	口唇貝殻腹縁圧痕文
11－20	MA52　Ⅲ層	深鉢口縁部	位羽状貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－５	口唇貝殻腹縁圧痕文
11－21	MA50　Ⅲ層	深鉢口縁部	位羽状貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅲ－５	口唇指頭圧痕文



第12図　SU１遺物集中区出土遺物拓影図

第５表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
12－22	MA50　Ⅲ層	深鉢胴部	横条貝殻腹縁圧痕文	貝殻条痕文	Ⅱ－２	
12－23	LT50　Ⅳ層	深鉢胴部	横条貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－２	
12－24	MA50　Ⅲ層	深鉢口縁部	横条貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－２	
12－25	LT50　Ⅲ層	深鉢口縁部	横条貝殻腹縁圧痕文・刺突文	無文	Ⅱ－17	内面棚状炭化物付着
12－26	MA50　Ⅲ層	深鉢胴部	横条貝殻腹縁圧痕文・刺突文	無文	Ⅱ－17	
12－27	MA51　Ⅲ層	深鉢胴部	横位及び斜位貝殻腹縁圧痕文・刺突文	無文	Ⅱ－17	
12－28	MA51　Ⅲ層	深鉢口縁部	貝殻腹縁押し引き文	貝殻条痕文	Ⅱ－９	
12－29	MA51　Ⅲ層	深鉢口縁部	貝殻腹縁押し引き文	貝殻条痕文	Ⅲ－９	
12－30	LT50　Ⅳ層	深鉢胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	
12－31	LT50　Ⅳ層	深鉢口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	
12－32	LT50　Ⅳ層	深鉢口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	



第13図　SU１遺物集中区出土遺物拓影図

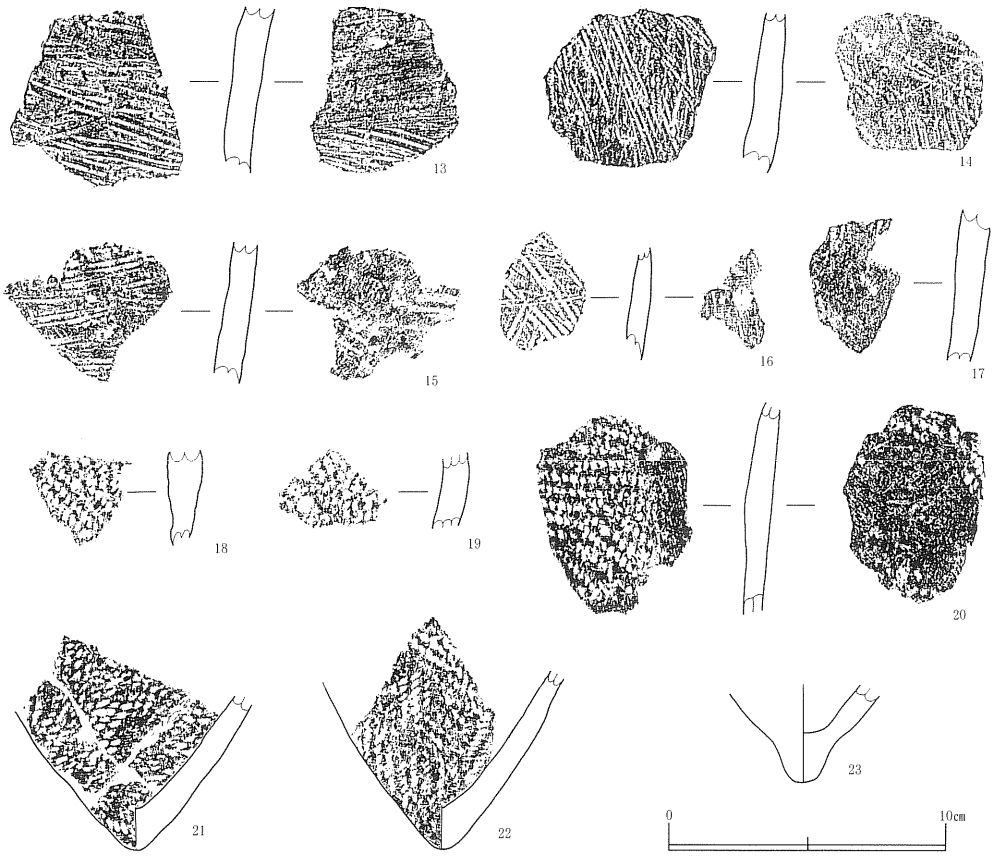
第６表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分類	備考
13－33	LT50　Ⅳ層	深鉢口縁部	貝殻条痕文	無文	Ⅲ－１	貫通孔
13－34	MA50　Ⅲ層	深鉢胴部	篦なで	篦なで	Ⅰ	
13－35	LT50　Ⅳ層	深鉢胴部	無文	貝殻条痕文	Ⅰ	
13－36	LT51　Ⅲ層	深鉢口縁部	無文	貝殻条痕文	Ⅰ	
13－37	MA51　Ⅲ層	深鉢胴部	RL縄文	RL縄文	Ⅴ－２	
13－38	MA51　Ⅲ層	深鉢胴部	RL縄文	RL縄文	Ⅴ－２	
13－39	MA51　Ⅲ層	深鉢胴部	RL縄文	RL縄文	Ⅴ－２	
13－40	MA50　Ⅲ層	深鉢口縁部	RL縄文	無文	Ⅴ－１－A	
13－41	MA50　Ⅲ層	深鉢胴部	RL縄文	RL縄文	Ⅴ－２	
13－42	MA50　Ⅲ層	深鉢胴部	RL縄文	無文	Ⅴ－１－A	
13－43	MA50　Ⅲ層	深鉢胴部	RL縄文	無文	Ⅴ－１－A	

第14図　SU１遺物集中区出土遺物拓影図

第７表　出土遺物観察表

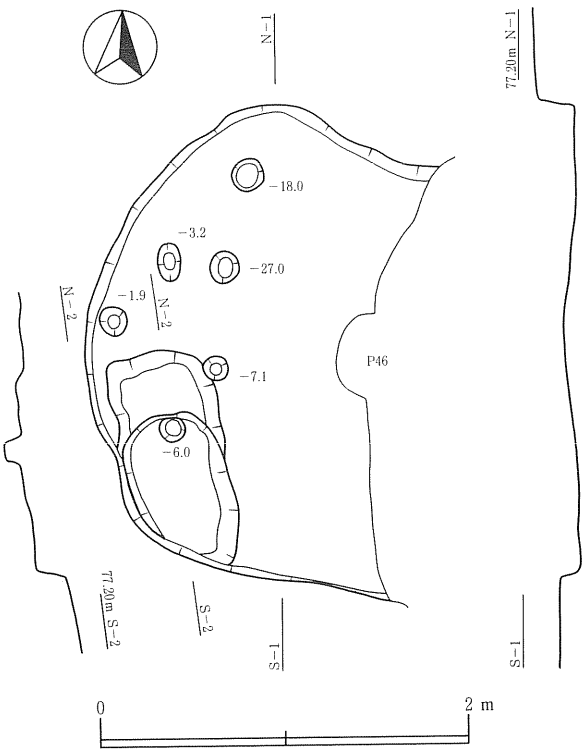
挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
14－１	MB53　Ⅲ層	深鉢口縁部	鋸歯状斜条貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－４	
14－２	MC53　Ⅲ層	深鉢口縁部	菱状斜条貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－７	
14－３	MB52　Ⅳ層	深鉢口縁部	横位羽状貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－５	
14－４	MB52　Ⅲ層	深鉢口縁部	貝殻条痕文・斜縦位撚糸圧痕・引き文・貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅱ－19	
14－５	MB53　Ⅲ層	深鉢胴部	横条貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－２	
14－６	MB52　Ⅳ層	深鉢口縁部	刺突文	無文	Ⅳ－２	
14－７	MB52　Ⅲ層	深鉢胴部	斜条貝殻腹縁圧痕文・刺突文	無文	Ⅱ－17	
14－８	MB53　Ⅲ層	深鉢口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	
14－９	MB52　Ⅳ層	深鉢口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	
14－10	MB52　Ⅳ層	深鉢口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	
14－11	MB53　Ⅲ層	深鉢口縁部	貝殻条痕文	無文	Ⅲ－２	
14－12	MB53　Ⅲ層	深鉢胴部	貝殻条痕文	無文	Ⅲ－１	



第15図　SU１遺物集中区出土遺物拓影図

第８表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
15－13	MB52　Ⅳ層	深鉢胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	
15－14	MB53　Ⅲ層	深鉢胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	
15－15	MC53　Ⅲ層	深鉢胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	
15－16	MB53　Ⅲ層	深鉢胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	
15－17	MB53　Ⅲ層	深鉢胴部	貝殻条痕文	無文	Ⅲ－１	
15－18	MB52　Ⅲ層	深鉢胴部	RL縄文	無文	V－１－A	
15－19	MB52　Ⅳ層	深鉢胴部	RL縄文	無文	V－１－A	
15－20	MB51　Ⅲ層	深鉢胴部	RL縄文	RL縄文	V－２	
15－21	LT50　Ⅳ層	深鉢底部	RL縄文	無文	V－１－A	
15－22	MB53　Ⅲ層	深鉢底部	RL縄文	無文	V－１－A	
15－23	MB52　Ⅲ層	深鉢底部	無文	無文	Ⅰ	



第16図　SI17竪穴住居跡実測図

ラン確認面から床面までの深さは0.52〜0.68ｍである。

［壁］第Ⅱ層から第Ⅲ層・第Ⅴ層（地山漸移層）を掘り下げ、第Ⅵ層（地山シラス）まで掘り込んいるが、やや外傾する壁面は固く締まっていた。

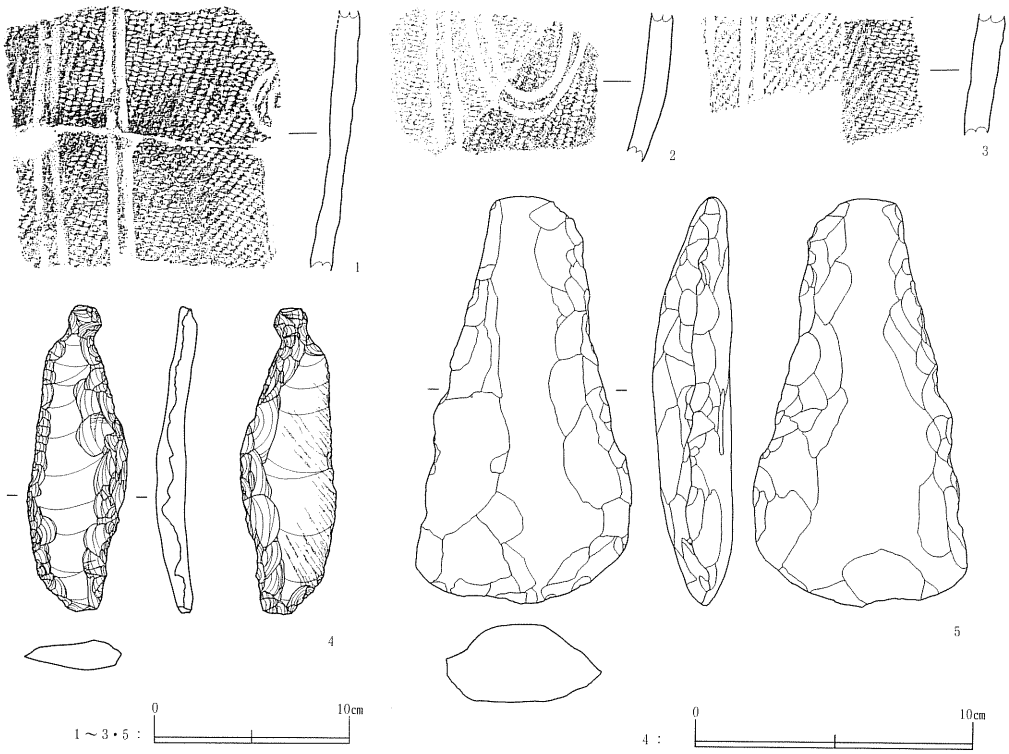
［床面］第Ⅵ層（地山シラス）を掘り込んでおり、堅く踏み固められてほぼ平坦であった。この平坦面の上部に、３〜５㎝の厚さの中に黒褐色土の極く薄い堅く締まった層とやや締まりのない層が互層となって５〜８枚堆積していた。この堆積層中と下位には遺物の出土が皆無であることから、この黒褐色土の上面が最終段階の床上面と判断した。

［柱穴］床面に柱穴様ピットを17箇検出したが、規則性に欠けるため上部構造を支える主柱の配置は明確でない。北東側を除き、壁際の床面に74箇の小さなピットが巡っており所謂「壁柱穴」と判断した。

［炉］住居跡床面のほぼ中央に長軸10㎝〜25㎝の河原石を、南－北0.9ｍ、東－西0.8ｍの長円形に配置した石囲炉である。

［出土遺物］埋土中から早期の貝殻腹縁圧痕文土器片２点、貝殻条痕文土器片４点、中期と後期の深鉢形土器18個体分、後期の短頸・無頸壷形土器３個体、鉢形土器１個体、浅鉢形土器３個体、台付土器２個体、香炉形土器（？）１個体分、スタンプ形土製品１点、石錐１点、石匙４

点、箆状石器２点、削器１点、トランシェ様石器１点、石錘１点、河原石・礫などが、また、床面上からは後期の深鉢形土器１個体、注口土器１個体、長頸壷形土器１個体、異形台付土器１個体、土偶破片１点、削器１点、アスファルト塊１点などが出土した。

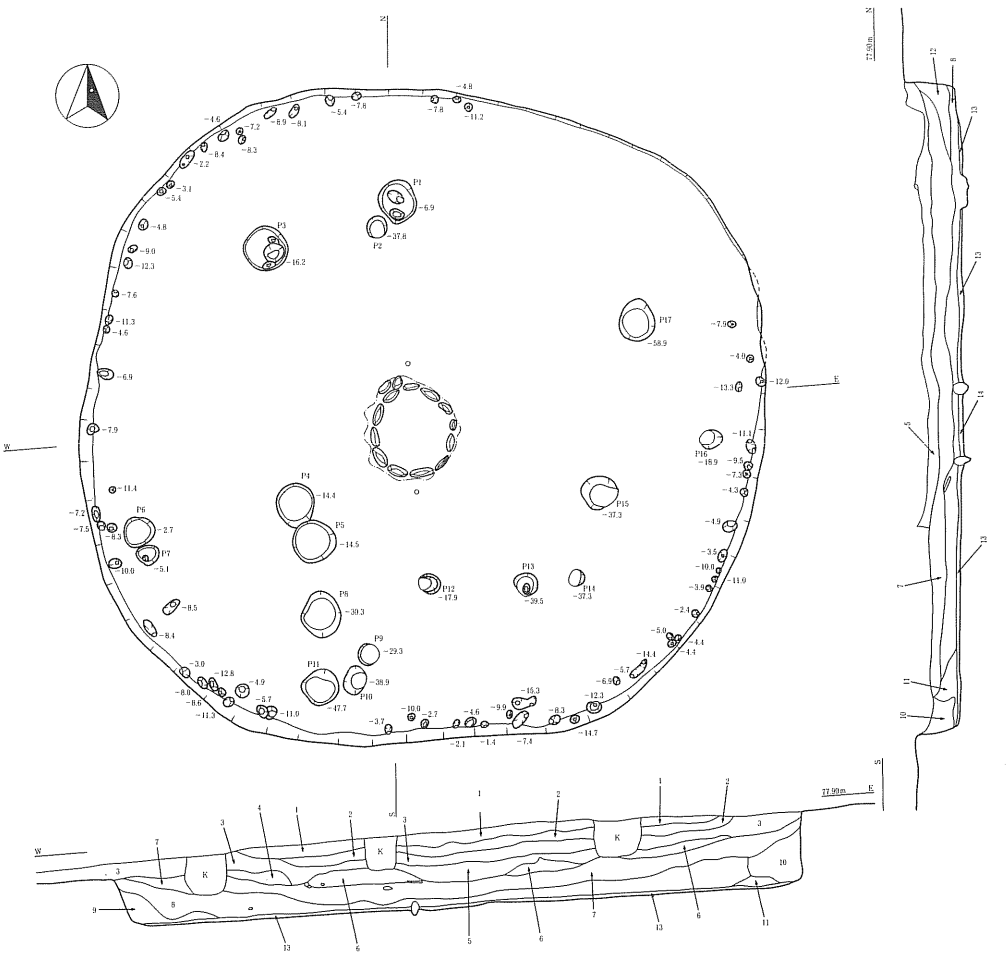


第17図　SI17竪穴住居跡出土遺物実測・拓影図

第９表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分類	備考
17－1	SI17　埋土中	深鉢胴部	RL縄文・沈線文	無文	Ⅳ－3	
17－2	SI17　埋土中	深鉢胴部	RL縄文・沈線文	無文	Ⅳ－3	
17－3	SI17　埋土中	深鉢胴部	RL縄文・沈線文	無文	Ⅳ－3	

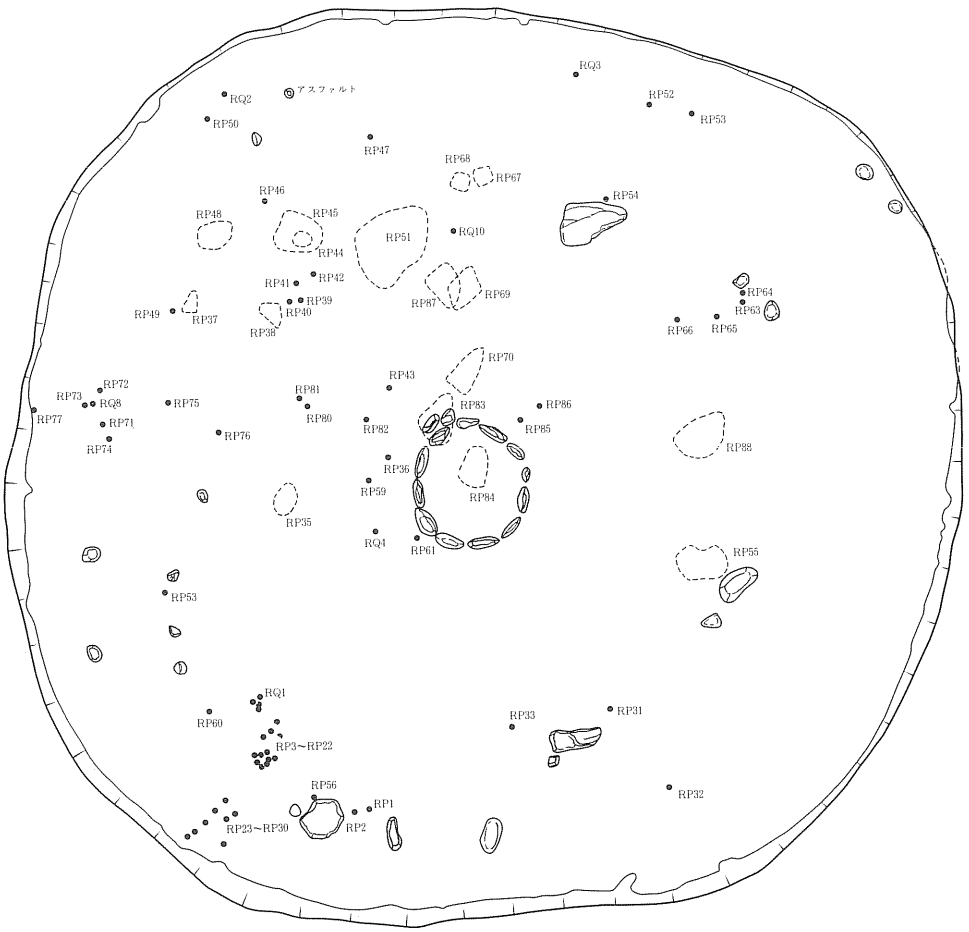
挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
17－4	SI17　埋土中	石匙	110	41	10	37	頁岩	1類	
17－5	SI17　埋土中	打製石斧	210	110	40	1053	安山岩		

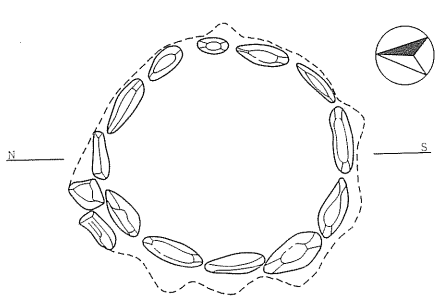


1　調層A　大湯浮石層の純層。凝灰作用をうけていない。
2　黒褐色土(10YR3/1)大湯浮石粒を極く少量混入する。堅く締まっている。
3　黒褐色土(10YR3/1)堅く締まっている。
4　黒褐色土(10YR2/2)地山粒・炭化物(小)を極く少量混入する。軟らかい。
5　黒褐色土(10YR2/2)地山粒・炭化物(小)を極く少量混入する。軟らかい。
6　黒褐色土(10YR3/2)地山粒・炭化物(小)を極く少量混入する。堅く締まっている。
7　黒褐色土(10YR2/2)地山粒を多量に混入する。堅く締まっている。
8　黒褐色土(10YR3/1)地山粒・塊(小)を多量に混入する。堅く締まっている。
9　暗褐色土(10YR3/3)地山粒・塊(小)を多量に混入する。軟らかい。
10　黒褐色土(10YR3/1)地山粒・塊(小)を多量に混入する。軟らかい。
11　黒褐色土(10YR3/1)地山粒を極く少量混入する。堅く締まっている。
12　黒褐色土(10YR2/2)地山粒・塊を多量に混入する。
13　黒褐色土(10YR3/1)同色の極く薄い層が何枚も堆積し、堅く締まっている。(貼床)
14　炉内埋積土。
K　トレンチャーによる撹乱。

0　2 m

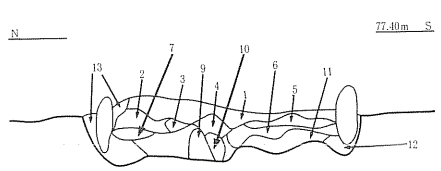
第18図　SI01竪穴住居跡実測図





炉

1　黒褐色土(10YR2／3)炭化物を少量混入する。締まり弱く粘性なし。
2　褐色土(10YR4／4)炭化物を極く少量混入する。
3　褐色土(10YR4／4)炭化物を極く少量混入する。
4　黒褐色土(10YR2／3)地山粒・塊(小)を混入する。
5　橙色焼土(5YR7／6)炭化物を極く少量混入し堅く締まっている。
6　橙色焼土(5YR6／6)堅く締まっている。
7　にぶい黄褐色土(10YR4／3)砂粒を少量混入する。粘性あり。
8　黒褐色土(10YR2／3)地山粒を少量混入する。締まりなし。
9　褐色土(10YR4／4)地山粒を多量に混入する。粘性強い。
10　黒褐色土(10YR2／2)地山粒・塊(小)を混入する。締まりよく粘性あり。
11　褐色土(10YR4／4)地山粒を多量に混入する。粘性強い。
12　にぶい黄褐色土(10YR4／3)地山粒・塊(小)を多量に混入する。締まりあり。
13　褐色土(10YR4／6)地山粒を多量に混入する。締まりあり。



住居跡　0　2 m

炉　0　1 m

第19図　SI01竪穴住居跡遺物出土状況および炉実測図

第20図　SI01竪穴住居跡出土遺物拓影図

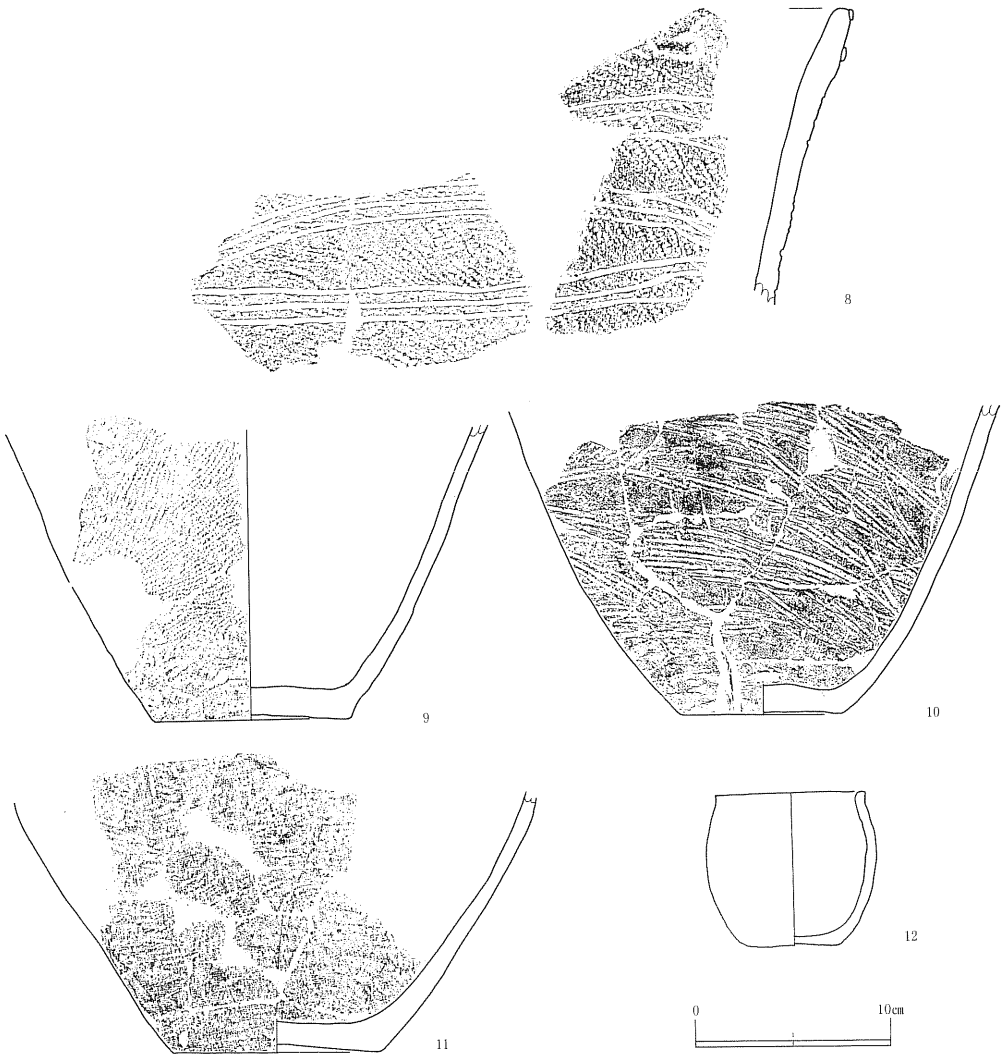
第10表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
20－１	SI01　埋土上位	深鉢	RL縄文・波状沈線文・磨消縄文	無文	Ⅳ－２	

第21図　SI01竪穴住居跡出土遺物拓影図

第11表　出土遺物観察表

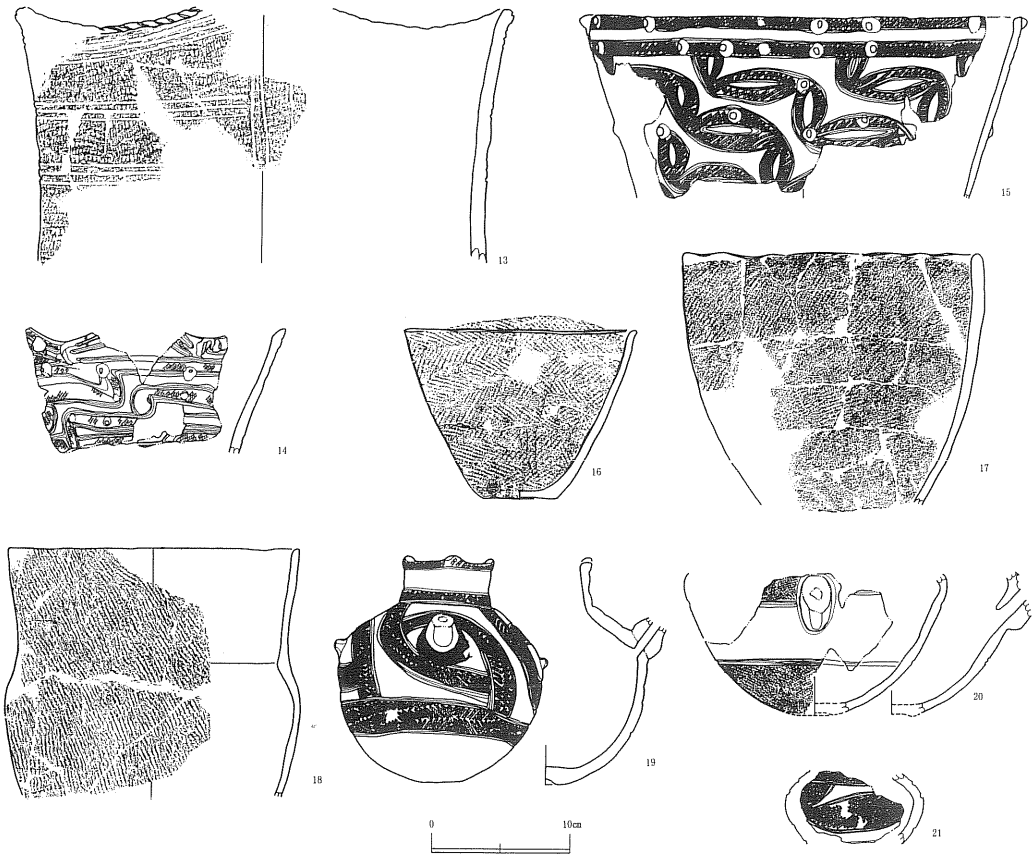
挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
21－２	SI01　埋土中　RP51	深鉢口縁部～胴下半	2段の縄文R(LLL	無文	Ⅶ－２－A	
21－３	SI01　埋土中　RP45･87	深鉢口縁部～胴下半	2段の縄文R(LLL	無文	Ⅶ－２－A	
21－４	SI01　埋土中	深鉢口縁部～胴下半	刷毛目文	無文	Ⅶ－８	
21－５	SI01　埋土中	深鉢口縁部～胴下半	刷毛目文	無文	Ⅶ－８	
21－６	SI01　埋土中　RP69	深鉢口縁部～胴下半	2段の縄文R(LLL	無文	Ⅶ－２－A	
21－７	SI01　埋土中　RP36･70･71･80･83	深鉢口縁部～胴下半	縄L	無文	Ⅶ－２－A	



第22図　SI01竪穴住居跡出土遺物実測・拓影図

第12表　出土遺物観察表

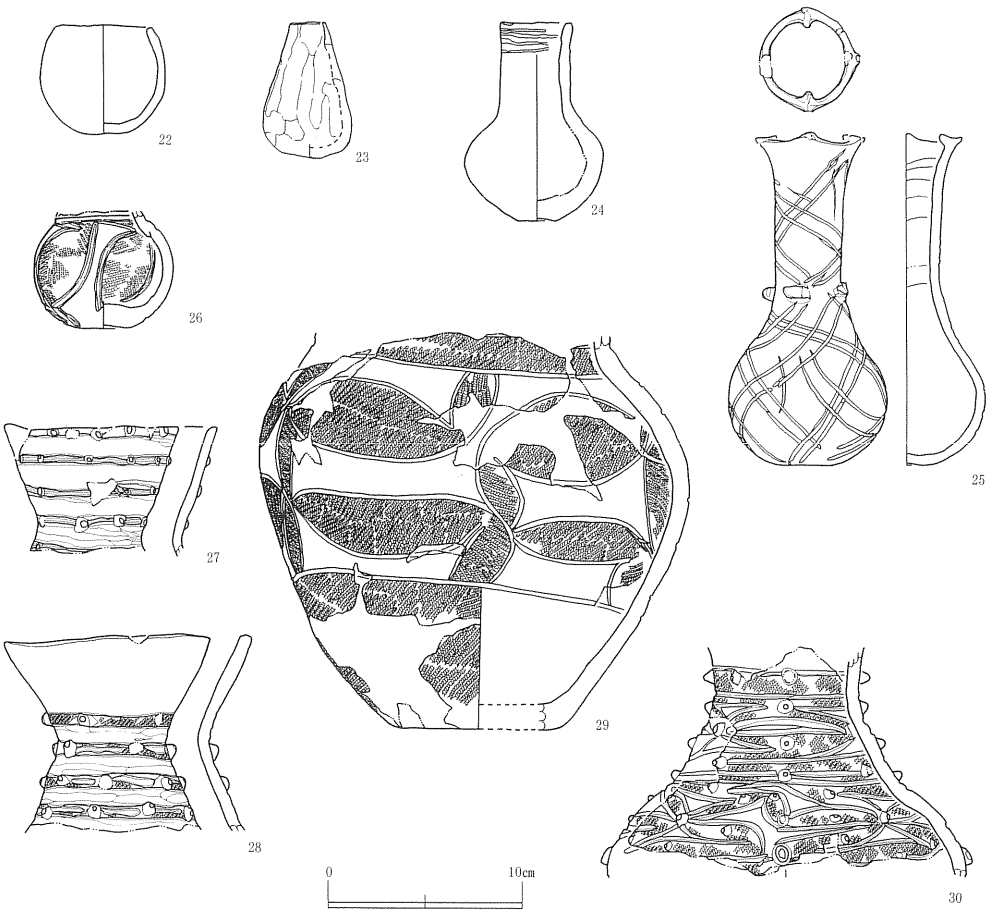
挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
22－8	SI01　埋土中	深鉢口縁部	2段の縄文R(LLL・沈線文	無文	Ⅶ－3－A	
22－9	SI01　埋土中 RP75・82・86	深鉢底部	2段の縄文L(RRR	無文	Ⅶ－2	
22－10	SI01　埋土中 RP84	深鉢底部	刷毛目文	無文	Ⅶ－8	
22－11	SI01　埋土中 RP41・42	深鉢底部	2段の縄文L(RRR	無文	Ⅶ－2	
22－12	SI01　埋土中 RP70	無頸壷	無文	無文	Ⅸ－7	



第23図　SI01竪穴住居跡出土遺物実測・拓影図

第13表　出土遺物観察表

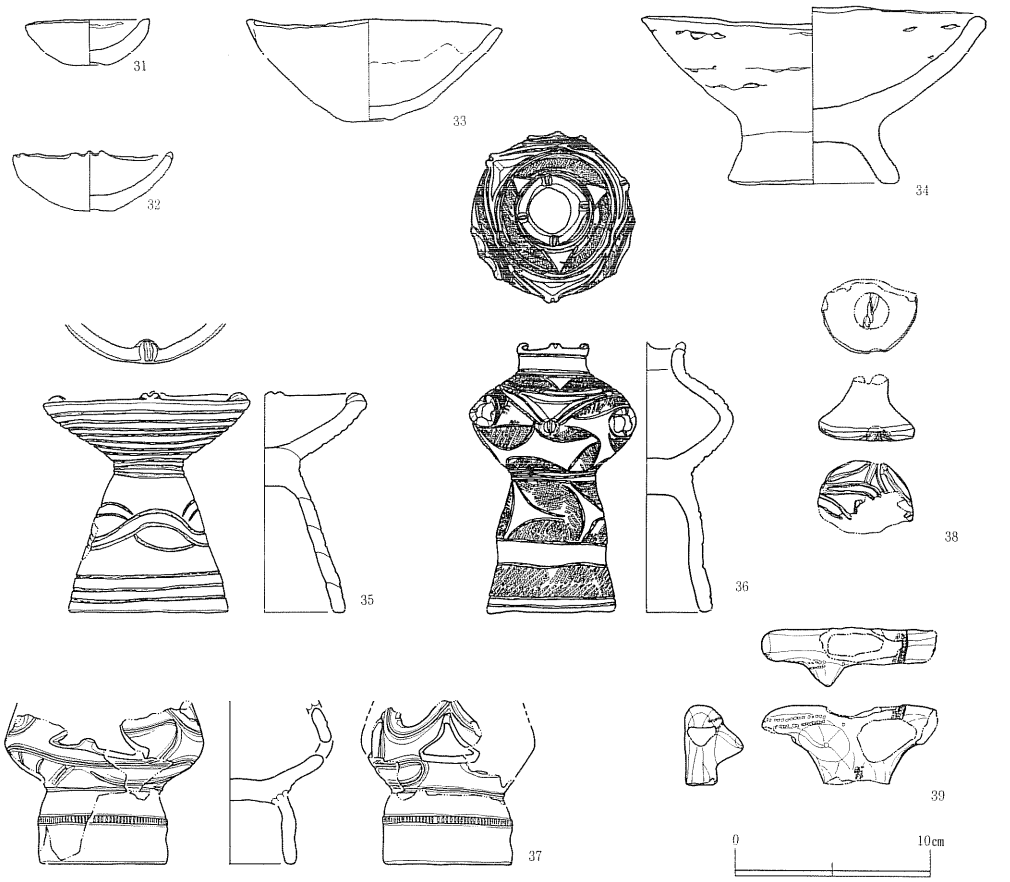
挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分類	備考
23－13	SI01　埋土中	深鉢口縁部	粘土貼り付け・2段の縄文RL(LLL・沈線文	無文	Ⅵ－３－Ｂ	
23－14	SI01　埋土中　RP80	深鉢口縁部	人組様帯状文・貼瘤・LR縄文	無文	Ⅶ－４	
23－15	SI01　埋土中　RP83・84	深鉢口縁部	人組様帯状文・貼瘤・LR縄文	無文	Ⅶ－３－Ａ	
23－16	SI01　埋土中　RP11・13・56	深鉢	羽状縄文	無文	Ⅶ－９	
23－17	SI01　埋土中　RP37・49	深鉢口縁部～胴部下半	LR縄文	無文	Ⅶ－２－Ｂ	
23－18	SI01　埋土中　RP55	深鉢口縁部～胴部下半	L縄文	無文	Ⅶ－２－Ａ	注口部アスファルト接着
23－19	SI01　床面　RP52	注口土器	巴形帯状文・貼瘤・羽状縄文	無文	Ⅹ－２	
23－20	SI01　埋土上位	注口上器肩部～底辺部	沈線文・羽状縄文・RL縄文	無文	Ⅹ－５	
23－21	SI01　埋土上位	注口上器?肩部～底辺部	人組様帯状文・羽状縄文	無文	Ⅹ－３－Ａ	



第24図　SI01竪穴住居跡出土遺物実測・拓影図

第14表　出土遺物観察表

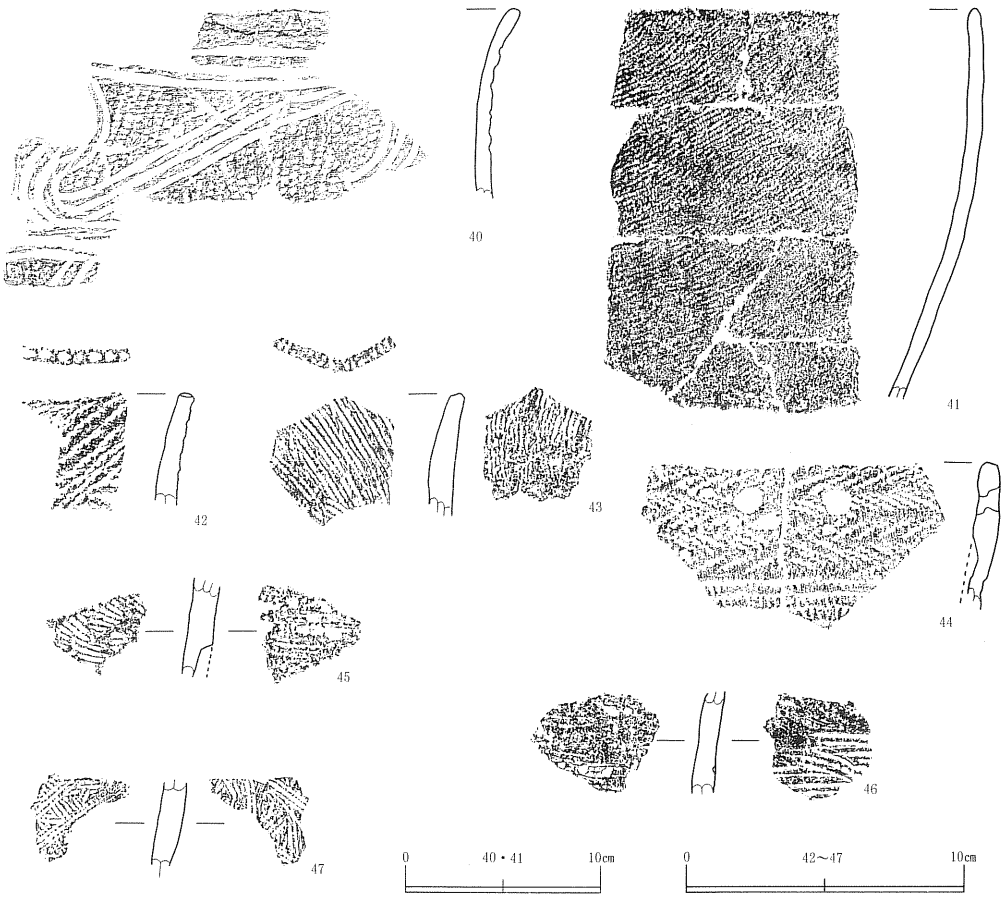
挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
24－22	SI01　埋土上位	無頸壷	無文	無文	XI－７	
24－23	SI01　埋土中　RP30	無頸壷	箆なで	無文	XI－６	
24－24	SI01　埋土中　RP47	長頸壷	箆なで・平行沈線文	無文	IX－１－B	
24－25	SI01　埋土中　RP1・2	長頸壷	平行沈線文	無文	IX－１－A	
24－26	SI01　埋土中	長頸壷	沈線文・人組様帯状文	無文	IX－３	
24－27	SI01　埋土中　RP55	長頸壷	沈線文・貼瘤	無文	IX－２	
24－28	SI01　埋土中　RP67	長頸壷	沈線文・貼瘤	無文	IX－２	
24－29	SI01　埋土中　RP10・16	長頸壷	LR縄文・人組様帯状文	無文	IX－３	
24－30	SI01　埋土上位	長頸壷	LR縄文・人組様帯状文・沈線文・貼瘤	無文	IX－４	



第25図　SI01竪穴住居跡出土遺物実測図

第15表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分類	備考
25－31	SI01　埋土中	浅鉢形土器	無文(研磨)	無文(研磨)	Ⅷ－１	
25－32	SI01　埋土中	浅鉢形土器	無文(研磨)	無文(研磨)	Ⅷ－２－B	
25－33	SI01　埋土中　RP43	浅鉢形土器	無文(研磨)	無文(研磨)	Ⅷ－２－A	
25－34	SI01　埋土中　RP57	台付浅鉢形土器	無文	無文	Ⅻ－２	
25－35	SI01　埋土中　RP32	台付皿形土器	平行沈線文・櫛繰り様沈線文	無文	XIV	
25－36	SI01　床面　RP53	異形台付土器	人組様帯状文・貼磨	無文	Ⅻ－１	
25－37	SI01　埋土中　RP	香炉形土器?胴部下	沈線文・刻目充填平行沈線文	無文	Ⅻ－２	
25－38	SI01　埋土中	スタンプ状土製品	沈線文			
25－39	SI01　床面　RP31	土偶胴部上半	円形刺突文			



第26図　SI01竪穴住居跡出土遺物拓影図

第16表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
26－40	SI01　埋土中　RP69	深鉢口縁部	RL縄文・平行沈線文・波状沈線文	無文	Ⅳ－２－B	
26－41	SI01　埋土中	深鉢口縁部～胴部	LR縄文	無文	Ⅶ－２－A	
26－42	SI01　床面	深鉢口縁部	斜条貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－３	口唇刻目
26－43	SI01　埋土上位	深鉢口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	口唇貝殻腹縁圧痕
26－44	SI01　埋土上位	深鉢口縁部	横位の波状貝殻腹縁圧痕文・貝殻腹縁押し引き文	無文	Ⅱ－５	補 修 孔
26－45	SI01　埋土上位	深鉢胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	
26－46	SI01　埋土上位	深鉢胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	
26－47	SI01　埋土中　RP77	深鉢胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	

第27図　SI01竪穴住居跡出土遺物実測図

第17表　出土遺物観察表

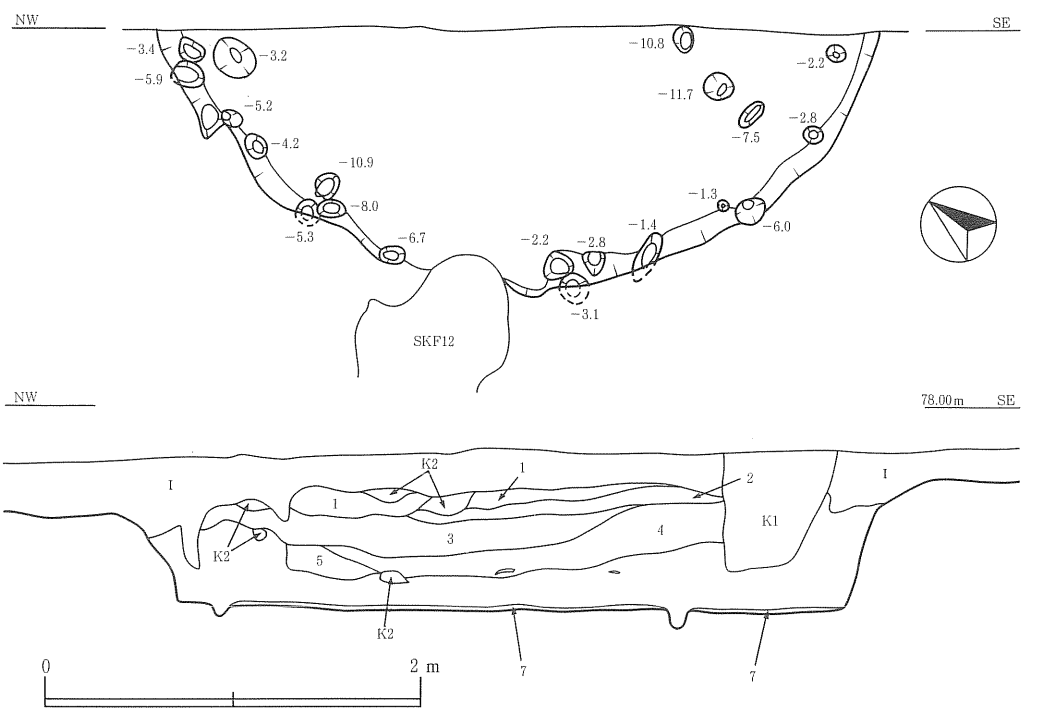
挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器　　種	計測値（mm・g）				石 質	分 類	備 考
			長 さ	最大幅	最大厚	重 さ			
27－48	SI01　埋土上位	石錐	40	21	10	8	頁 岩	1 類	
27－49	SI01　埋土上位	石匙	(50)	20	7	(7)	頁 岩	1 類	
27－50	SI01　埋土中	石匙	(60)	30	10	(18)	頁 岩	1 類	
27－51	SI01　埋土中	石匙	71	31	10	16	頁 岩	1 類	
27－52	SI01　埋土中	石匙	61	40	10	275	頁 岩	3 類	
27－53	SI01　埋土上位	篦状石器	51	30	10	25	頁 岩	5 類	
27－54	SI01　埋土中	篦状石器	50	30	10	17	頁 岩	3 類	
27－55	SI01　埋土上位	トランシェ様石器	60	51	10	56	頁 岩	2 類	
27－56	SI01　床面　RQ2	削器	(100)	31	9	(29)	頁 岩	2－A類	
27－57	SI01　埋土中　RQ3	削器	131	50	30	111	頁 岩	2－B類	
27－58	SI01　埋土中	石錘	60	50	20	276	安山岩	1 類	

ＳＩ02竪穴住居跡（第28図～第29図）

［検出位置と確認状況］ＭＡ54•ＭＢ54グリッドの第Ｉ層を掘り除いたところ、半円形を呈し浮石質の降下火山灰（間層Ａ）が堆積していた。その周辺を精査したところプランを検出した。プラン確認面は第Ⅱ層上面である。浮石質の降下火山灰（間層Ａ）は竪穴住居跡平面プランのほぼ中央に堆積していた。南側の埋土上部にトレンチャーによる撹乱がみられる。東側半分は隣接地にあり調査できなかった。南西側でＳＫＦ12フラスコ(袋)状土坑と重複するが、本住居跡が新しい。

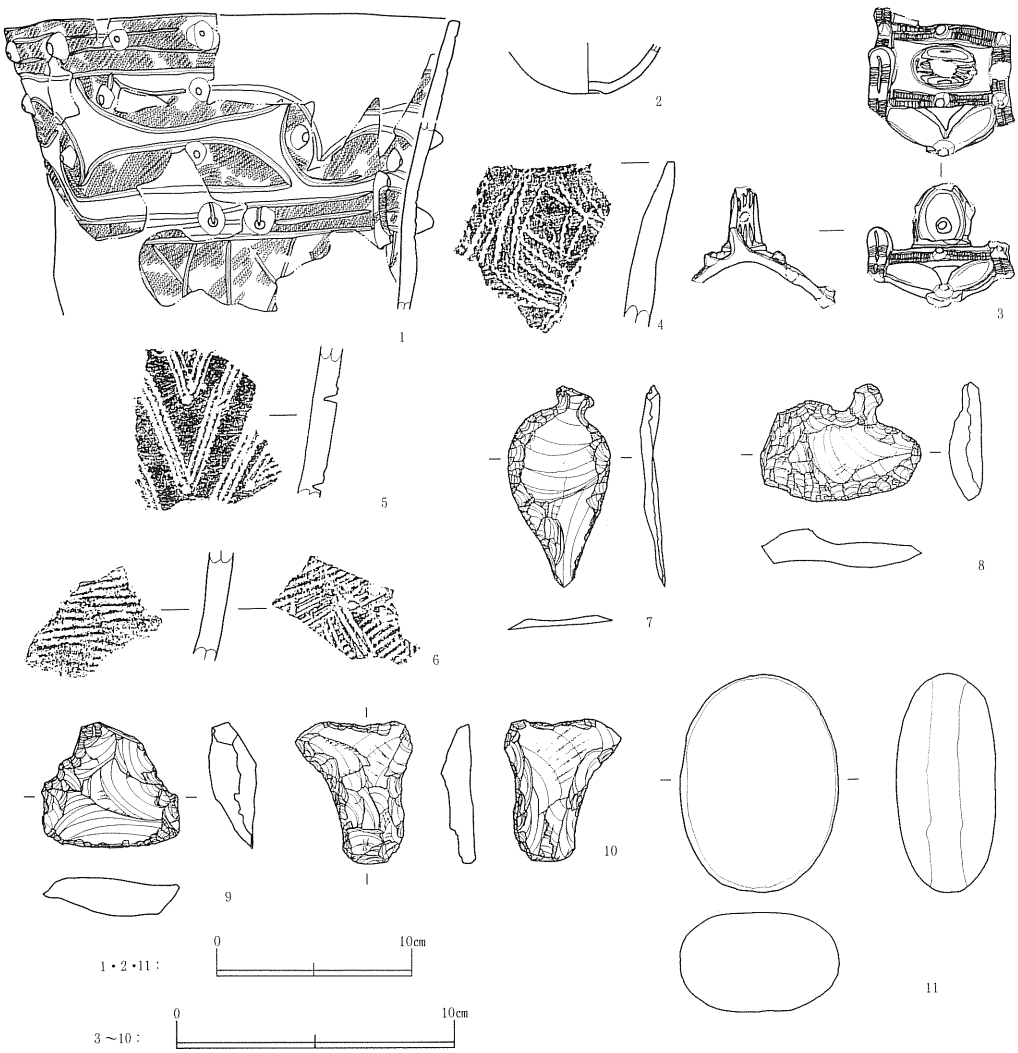
［形態と規模］平面プランは円形と推測されるが全容は不明である。現状での長幅（北西－南東）は3.87ｍ、短幅(北東-南西)1.38ｍである。プラン確認面から床面間での深さは0.40～0.68ｍである。

［壁］第Ｖ層(地山漸移層)と第Ⅵ層(地山シラス)からなり、外傾する壁面は、固く締まっているが凹凸が多い。



1　間層Ａ　大湯浮石層の純層。淘別作用をうけていない。
2　黒褐色土(10YR2／3)堅く締まっている。
3　黒褐色土(10YR3／1)地山粒•塊(小)を多量に混入する。堅く締まっている。
4　黒褐色土(10YR3／1)地山粒を少量混入する。
5　黒色土(10YR2／1)堅く締まっている。
6　黒褐色土(10YR2／3)地山粒を多量に混入する。軟らかい。
7　黒褐色土(10YR3／1)同色の極く薄い層が何枚も堆積し、堅く締まっている。(貼床)
K1　トレンチャーによる撹乱。
K2　木の根による撹乱。

第28図　SI02竪穴住居跡実測図



第29図　SI02竪穴住居跡出土遺物実測・拓影図

第18表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分類	備考
29－1	SI02　埋土中	深鉢口縁部	入組様帯状文・沈線文・貼瘤	無文	Ⅶ－3－A	
29－2	SI02　埋土中	壷？　底部	無文	無文		
29－3	SI02　埋土中	香炉　頭部	刻目付加微隆帯	無文	Ⅺ	
29－4	SI02　埋土中	深鉢口縁部	菱形斜条貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－7	
29－5	SI02　埋土中	深鉢胴部	貝殻腹縁痕文・刺突文	無文	Ⅱ－16	
29－6	SI02　埋土上位	深鉢胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－2	

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
29－7	SI02　埋土中	石匙	70	31	9	11	頁岩	1類	
29－8	SI02　埋土中	石匙	51	40	10	26	頁岩	2類	
29－9	SI02　埋土中	篦状石器	50	41	11	28	頁岩	3類	
29－10	SI02　埋土中	トランシェ様石器	50	40	10	19	頁岩	2類	
29－11	SI02　埋土中	擦石	71	50	31	719	安山岩	1類	

［床面］第Ⅵ層(地山シラス)を掘り込んでおり、踏み固められてほぼ平坦であった。この上に1.5～2.3cmの厚さの中に黒褐色土の極く薄い堅く締まった層とやや締まりのない層が互層となって２枚堆積していた。この堆積層中と下位には遺物の出土が皆無であることから、この黒褐色土の上面が最終段階の床上面と判断した。

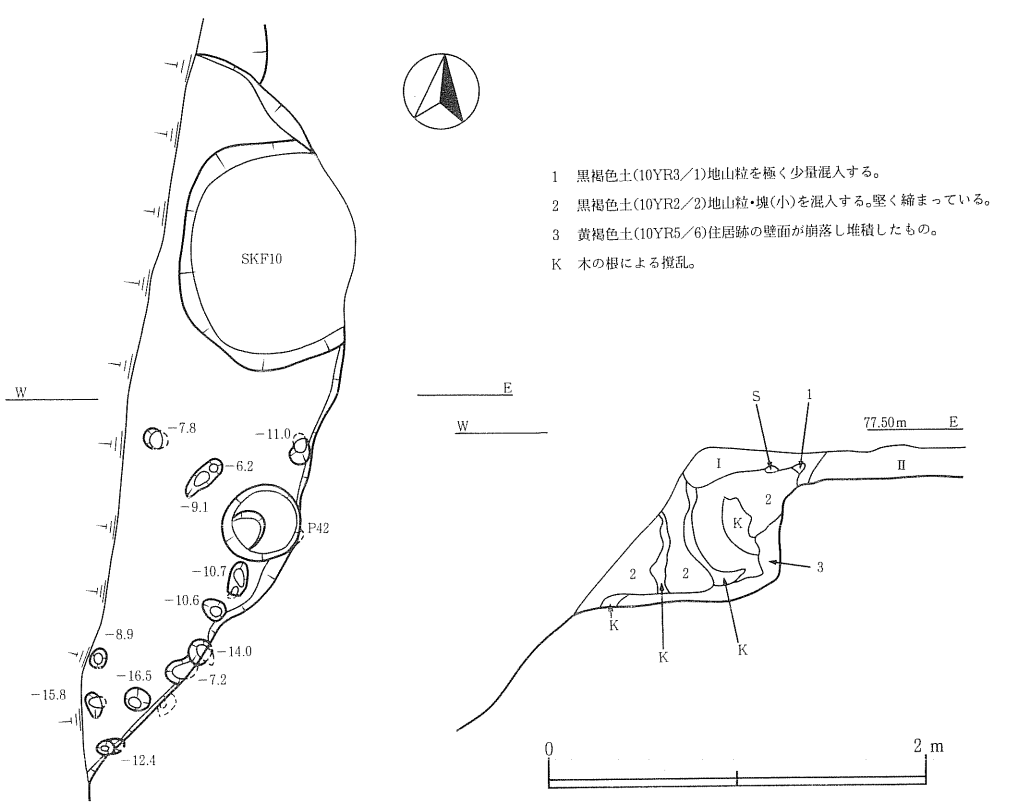
［柱穴］柱穴様ピットは床面に４箇検出したが上部構造を支える柱穴とは考えにくい。壁際の床面に16箇の小さなピットが巡っており所謂「壁柱穴」と判断した。

［炉］調査区域外の東半部分にあったのか、調査部分では検出されなかった。

［出土遺物］埋土中から早期の貝殻腹縁圧痕文・貝殻条痕文土器片３点、トランシェ様石器１点、後期の深鉢形土器胴部上半破片１点、香炉形土器頂部破片１点、器種不明の底部破片１点、石匙２点、篦状石器１点、擦石１点などが出土した。

ＳＩ03竪穴住居跡（第30図～第31図）

［検出位置と確認状況］ＭＣ54グリッドで検出したが、西側半分は現農道開削時に破壊されていた。また、平面的なプラン確認時には検出できなかったが、北西側でＳＫＦ10フラスコ(袋)状土坑と重複していた。本住居跡の床面がフラスコ(袋)状土坑に掘り込まれており、本住居跡



第30図　SI03竪穴住居跡実測図

の埋土に土坑の壁面の一部が確認されたことから、本住居跡が古いと判断した。また、南東側にある柱穴は本住居跡の埋土に掘られたものである。

［形態と規模］平面プランは円形と推測されるが全容は不明である。現状での長幅(東－西)は3.98ｍ、短幅(南－北)は1.10ｍである。プラン確認面から床面までは0.48～0.74ｍの深さである。

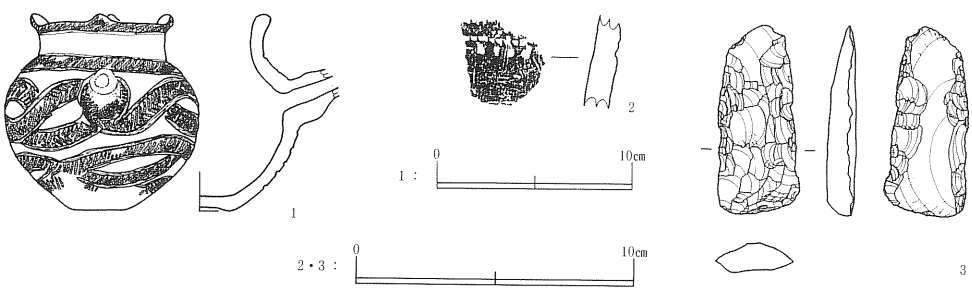
［壁］砂礫を混入する第Ⅵ層(地山シラス)まで掘り込んでいるためか崩れやすい。土圧のためかオーバーハングしていた。

［床面］地山の河成礫層が露出しており凹凸がある。貼床等は確認できなかった。

［柱穴］主柱穴は確認できなかった。南東側壁際の床面に所謂「壁柱穴」を８箇検出し、床面にも同規模の小さな柱穴を４箇検出した。

［炉］現農道開削時に破壊された西半部分にあったのか、残存部分では検出されなかった。

［出土遺物］埋土中から早期の貝殻腹縁圧痕文土器片１点と後期の篦状石器１点が、床面上から後期の注口土器１点が出土した。



第31図　SI03竪穴住居跡実測・拓影図

第19表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分類	備考
31－1	SI03　床面	注口土器	綾繰様帯縄文・羽状縄文	無文	Ｘ－１	
31－2	SI03　埋土中	深鉢胴部	横条貝殻腹縁圧痕文・刺突文	無文	Ⅱ－３	注口先端欠損

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
31－3	SI03　埋土中	篦状石器	61	30	10	22	頁岩	６類	

ＳＩ04竪穴住居跡（第32図～第35図）

［検出位置と確認状況］ＭＣ52･53グリッドで検出したが、西側半分は現農道開削時に破壊されていた。プラン確認面の第Ｖ層(地山漸移層)から第Ⅵ層(地山シラス)まで掘り込んで構築されている。

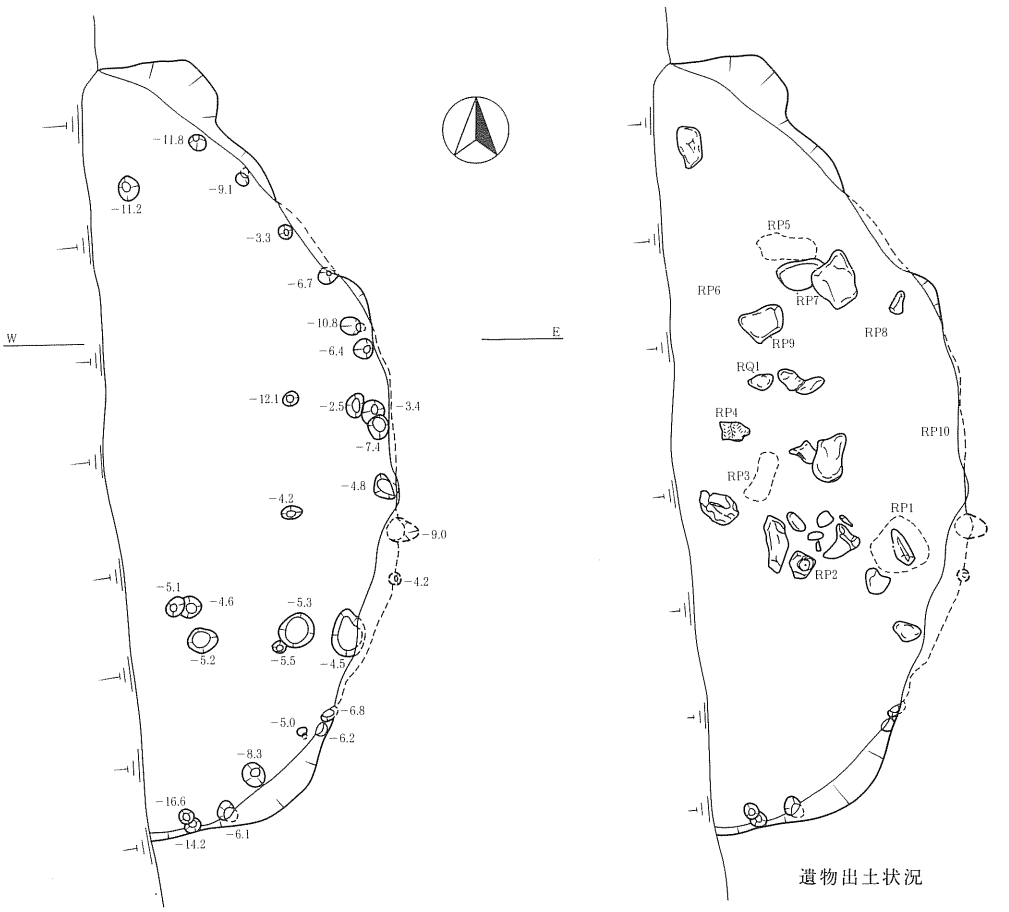
［形態と規模］平面プランは円形と推測されるが全容は不明である。現状での長幅(南－北)は4.69ｍ、短幅(東－西)は1.80ｍ、プラン確認面から床面までの深さは0.70～0.86ｍである。

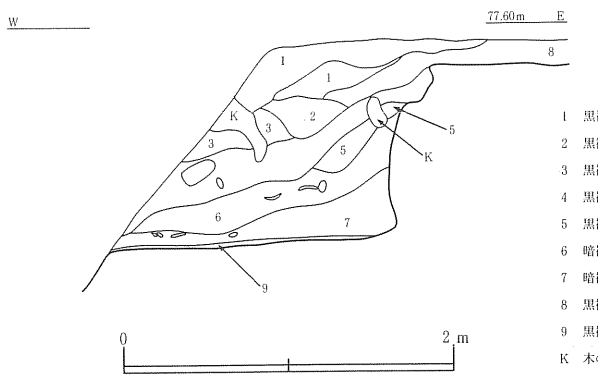
［壁］砂礫を混入する第Ⅵ層(地山シラス)まで掘り込んでいるためか崩れやすい。土圧のため

か部分的にオーバーハングしていた。

［床面］地山の河成礫層が露出しており凹凸がある。貼床等は確認できなかった。

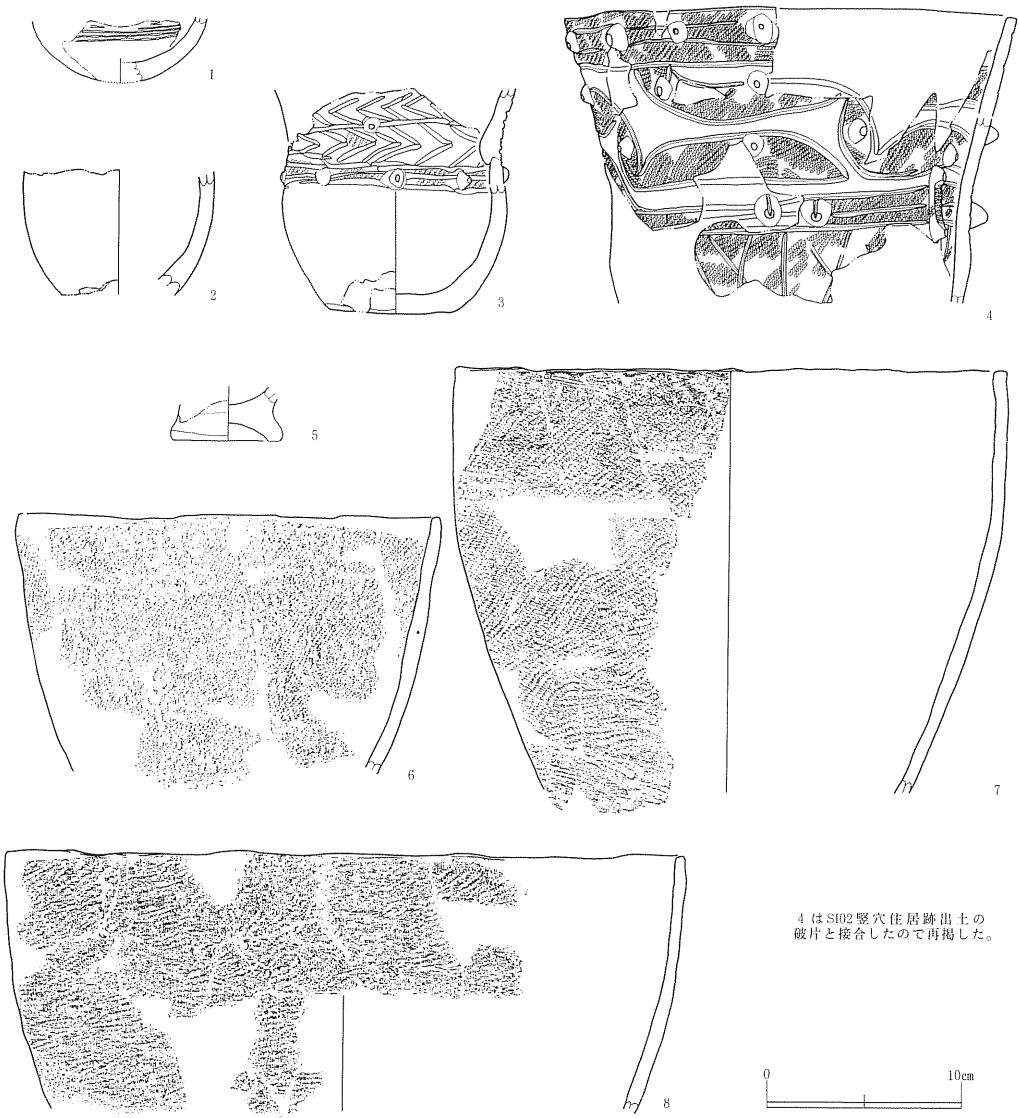
［柱穴］柱穴様ピットを床面に８箇検出したが、主柱穴とは確認できなかった。東側壁際の床面に所謂「壁柱穴」を19箇検出した。





1　黒褐色土(10YR2／3)大湯浮石粒・塊を多量に混入する。
2　黒褐色土(10YR2／2)大湯浮石粒・塊を混入する。(塊は1より小さい)
3　黒褐色土(10YR2／2)堅く締まっている。
4　黒褐色土(10YR3／2)やや軟らかい。
5　黒褐色土(10YR3／2)地山粒を少量混入する。締まっている。
6　暗褐色土(10YR3／3)地山粒・塊(大・小)と炭化物を混入する。
7　暗褐色土(10YR3／3)地山粒・塊(小)を多量に混入する。堅く締まっている。
8　黒褐色土(10YR3／2)大湯浮石粒を少量混入する。
9　黒褐色土(10YR3／1)堅く締まっている。(貼床)
K　木の根による撹乱。

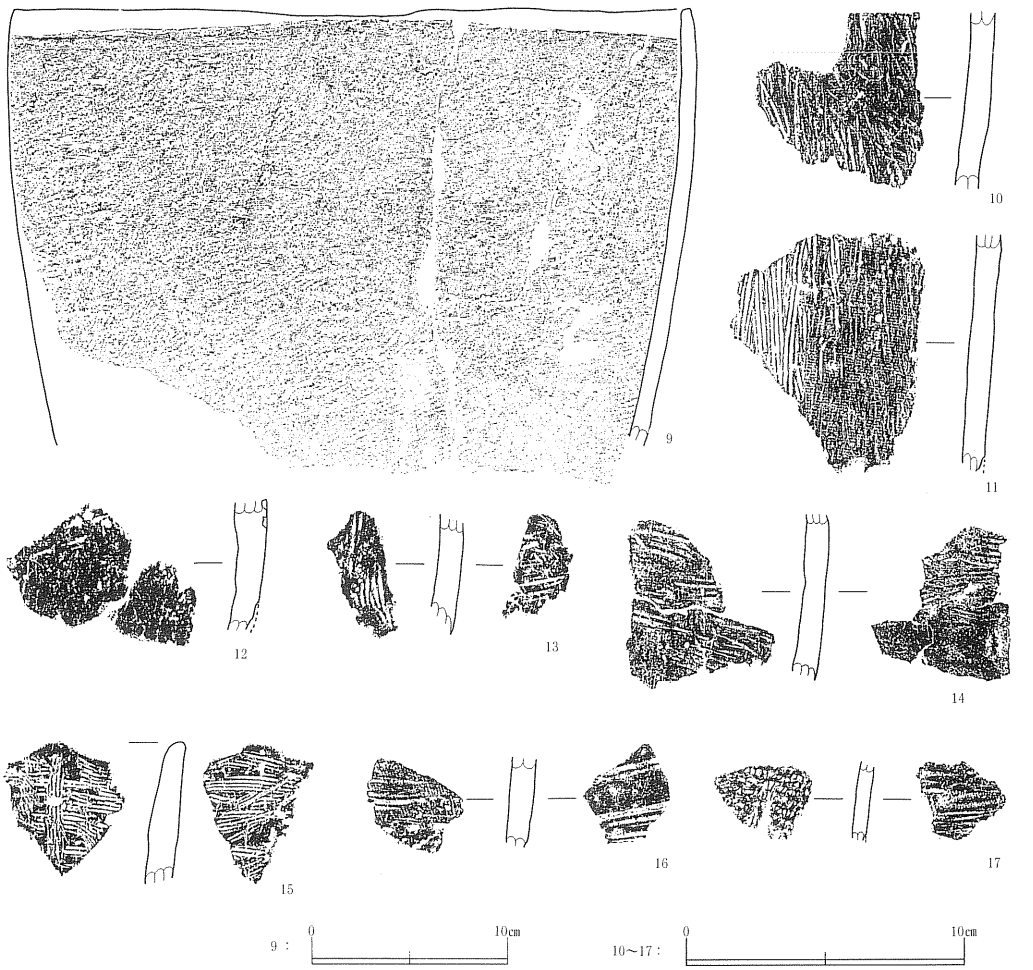
第32図　SI04竪穴住居跡実測図



第33図　SI04竪穴住居跡出土遺物実測・拓影図

第20表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　考
33－1	SI04　埋土中　RP3	壷?　底辺部	平行沈線文	無文		
33－2	SI04　埋土中	壷?　胴部下半	無文	無文		
33－3	SI04　埋土中	深鉢胴～底部	矢羽根状沈文・平行沈線文・貼瘤・充填縄文	無文	Ⅶ－7	
33－4	SI04　埋土中　RP3	深鉢口縁～胴上半	入組様帯状文・沈線文・貼瘤	無文	Ⅶ－3－A	
33－5	SI04　埋土上位	台付上器台部	無文	無文	Ⅶ－2－A	
33－6	SI04　埋土中　RP5・8	深鉢口縁～胴上半	2段の縄文R(LLL	無文	Ⅶ－2－A	
33－7	SI04　埋土中　RP4・5	深鉢口縁～胴上半	2段の縄文R(LLL	無文	Ⅶ－2－A	
33－8	SI04　埋土中　RP6・7	深鉢口縁～胴上半	2段の縄文R(LLL	無文	Ⅶ－2－A	



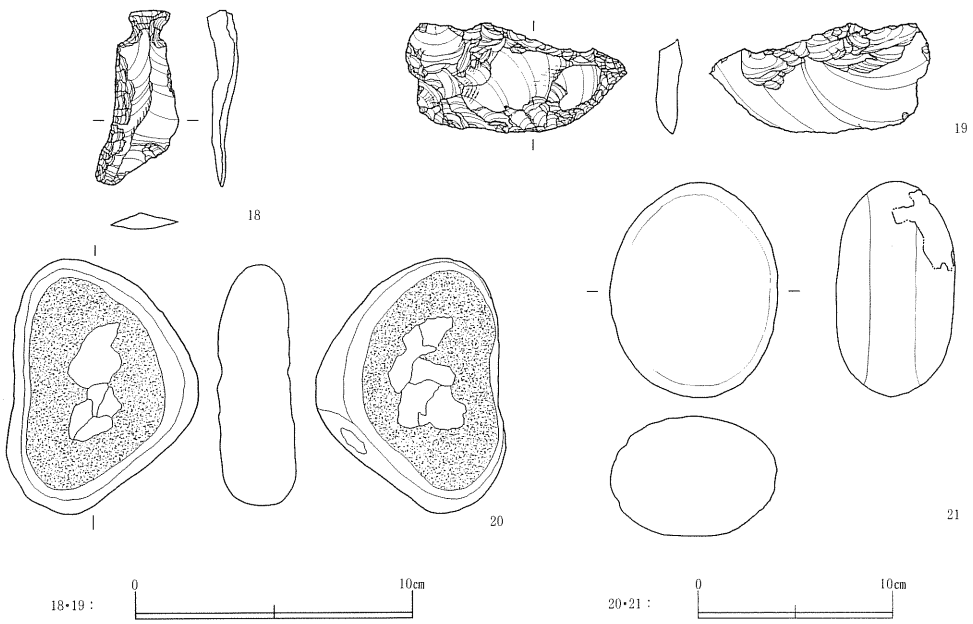
第34図　SI04竪穴住居跡出土遺物拓影図

第21表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
34－9	SI04　埋土中　RP1	深鉢口縁～胴上半	2段の縄文R(LLL	無文	Ⅶ－2－A	
34－10	SI04　埋土中	深鉢胴部	貝殻条痕文	無文	Ⅲ－1	
34－11	SI04　埋土中	深鉢胴部	貝殻条痕文	無文	Ⅲ－1	
34－12	SI04　埋土中	深鉢胴部	貝殻条痕文	無文	Ⅲ－1	
34－13	SI04　埋土中	深鉢胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－2	
34－14	SI04　埋土中	深鉢口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－2	
34－15	SI04　埋土中	深鉢胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－2	
34－16	SI04　埋土中	深鉢胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－2	
34－17	SI04　埋土中	深鉢胴部	RL縄文	貝殻条痕文	V－1－B	

［炉］現農道開削時に破壊された西半部分にあったのか、残存部分では検出されなかった。

［出土遺物］埋土中から後期の深鉢形土器６個体分(口縁部５個体、胴下半１個体)、壷形土器と思われる破片２点、台付土器の台部破片１点、石匙２点、くぼみ石１点、擦石１点、早期の貝殻条痕文土器片５点の他、河原石が多量に出土した。いずれも埋土の中位から上位に多く、住居廃絶後に投･廃棄されたと考えられる。第33図４はＳＩ02竪穴住居跡の破片と接合した。



第35図　SI04竪穴住居跡出土遺物実測図

第22表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
35－１	SI04　埋土中	石匙	60	40	10	10	頁岩	１類	
35－２	SI04　埋土中	石匙	71	31	9	35	頁岩	２類	
35－３	SI04　埋土中	くぼみ石	90	60	21	709	安山岩	２類	
35－４	SI04　埋土中	擦石	71	60	40	872	安山岩	１類	

ＳＩ05竪穴住居跡（第36図･第37図）

［検出位置と確認状況］ＭＡ49･ＭＡ50･ＭＢ49･ＭＢ50グリッドで検出したが、西側の壁の一部が現農道開削時に破壊されていた。プラン確認面の第Ⅴ層(地山漸移層)から第Ⅵ層(地山シラス)まで掘り込んで構築されている。

［形態と規模］平面プランは長軸(北東－南西)5.13ｍ、短軸(北西－南東)4.39ｍの長円形を呈する。プラン確認面から床面までの深さは0.40～0.52ｍである。

［壁］やや外傾する壁面は凹凸が激しい。

［床面］第Ⅵ層(地山シラス)を掘り込んでおり、堅く踏み固められてほぼ平坦であったが、南東側床面はとくに堅緻であった。この平坦面の上部に2.4～3.7㎝の厚さの中に黒褐色土の極く薄い堅く締まった層とやや締まりのない層が互層となって２～５枚堆積していた。この堆積層中と下位には遺物の出土が皆無であったことから、この黒褐色土の上面が最終段階の床上面と判断した。

［柱穴］床面に柱穴様ピットを15箇検出した。上部構造を支える主柱の配置はＰ4－Ｐ8－Ｐ13－Ｐ15にＰ９とＰ2(Ｐ3)を加えたものと推定した。西側を除き、壁際の床面に42箇の小さなピットが巡っており所謂「壁柱穴」と判断した。

［炉］床面中央部に長軸６㎝～20㎝の河原石(角礫･扁平礫を含む)を、直径60㎝の円形に配置した石囲炉であるが、炉床の南側に深鉢形土器片（第37図１）を敷いていた。

［出土遺物］炉床から後期の深鉢形土器１個体分が、埋土中から後期の深鉢形土器５個体分、長頸壷形土器１個体、注口土器２個体、器種が不明な球状を呈する胴部破片３個体、石匙３点、篦状石器２点、磨製石斧１点、石錘２点、石刃様剝片１点、剝片11点、早期の貝殻腹縁圧痕文土器片３点、貝殻条痕文土器片１点、表裏縄文土器片１点などが、床面から早期の貝殻腹縁圧痕文土器片１点が出土した。

ＳＩ07竪穴住居跡（第40図･第41図）

［検出位置と確認状況］ＬＰ46･ＬＰ47･ＬＱ46･ＬＱ47グリッドの第Ⅴ層(地山漸移層)上面で検出した。南側は農道開削により破壊されていた。また、床面中央から南西側は風倒木のため大きく撹乱されていた。西側で柱穴様ピットＰ46及びＳＩ17竪穴住居跡と重複するが、ＳＩ17竪穴住居跡より新しく、Ｐ46より古い。

［形態と規模］南側が破壊されているため全容を知り得ないが、平面プランはほぼ円形を呈すると思われる。現況では北東－南西2.60ｍ、北西－南東1.5ｍの不整な半円形を呈し、プラン確認面から床面までの深さは0.10～0.18ｍである。

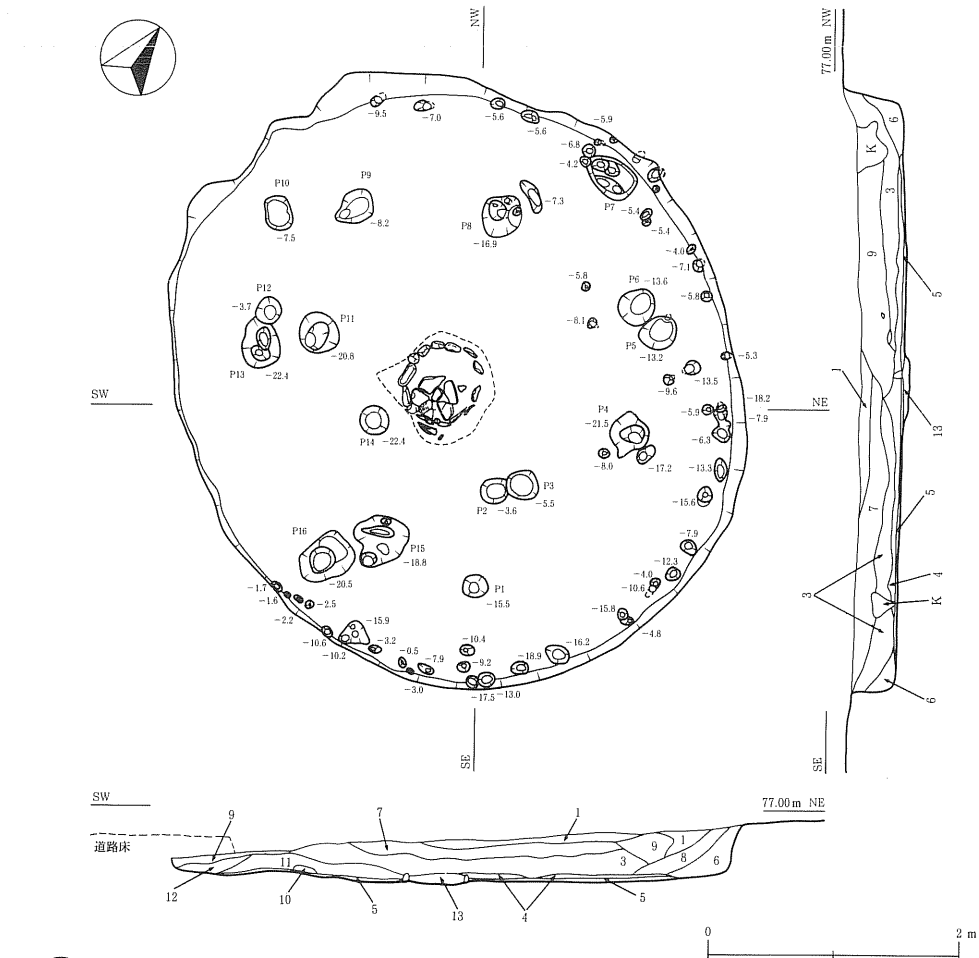
［壁］第Ⅴ層(地山漸移層)上面から第Ⅵ層(地山)中の河成礫層まで掘り込まれており、壁面は凹凸が激しいが固く締まっていた。

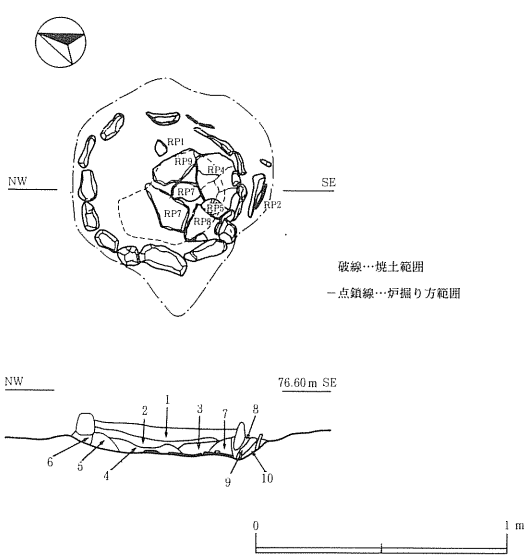
［床面］第Ⅵ層(地山)中に堆積する粘土混じりの河成礫層が露出して凹凸が激しい。

［柱穴］柱穴様ピットを西側壁寄りの床面に１箇、北側壁面下方の床面に壁柱穴と考えられる小さく浅い柱穴様ピットを34箇検出した。

［炉］風倒木痕により南東側を破壊されているが、円形の石囲炉である。

［出土遺物］埋土中から早期の貝殻文土器片２点、中期の深鉢形土器１個体分、石匙１点、篦状石器１点、磨製石斧１点が、床面上から後期の完形の台付浅鉢形土器１個体と深鉢形土器１個体分、壷形土器破片１点が出土した。





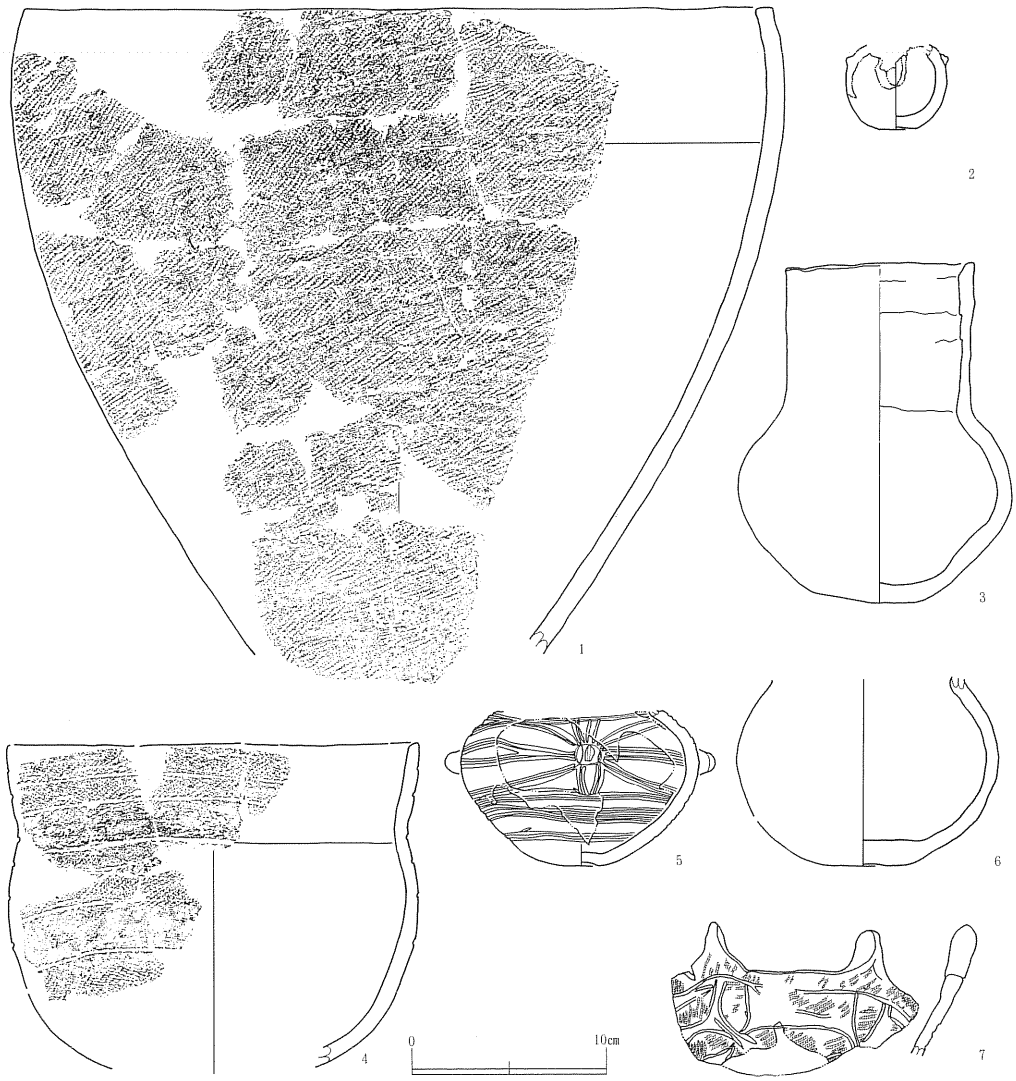
竪穴住居跡

1　黒褐色土(10YR3／1)地山粒を多量に混入する。粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3／2)地山粒・塊(大)を少量混入する。粘性あり。
3　黒褐色土(10YR3／2)地山粒・塊(小)を多量に混入する。粘性強い。
4　黄褐色土(10YR5／6)地山粒・塊(大・小)を多量に混入する。粘性あり。
5　黒褐色土(10YR2／2)縞状に同色の薄い層が何枚も堆積し、堅く締まっている。(貼床)
6　黒褐色土(10YR2／2)軟らかく、地山粒を多量に混入する。
7　黒褐色土(10YR3／2)地山粒・塊(大)を多量に混入する。
8　黒褐色土(10YR3／1)地山粒を極く少量混入する。粘性強い。
9　黒褐色土(10YR2／2)地山粒・塊(大・小)を多量に混入する。
10　黒褐色土(10YR3／2)地山粒・塊(大・小)を多量に混入する。粘性強い。
11　暗褐色土(10YR3／4)地山粒を多量に混入する。粘性強い。
12　暗褐色土(10YR3／3)道路堆積土。粘性強く非常に堅い。
13　炉内堆積土。
K　木の根による撹乱。

炉

1　黒褐色土(10YR2／3)炭化物と地山粒を少量混入する。
2　黒褐色土(10YR3／1)地山粒・塊(小)を多量に混入する。締まり強く粘性あり。
3　黒色土(10YR2／1)地山塊(小)を混入する。粘性強い。
4　黒褐色土(10YR2／3)地山塊(小)を混入する。締まり強く粘性あり。
5　黒褐色土(10YR2／2)地山粒と細砂を混入する。
6　橙色粘土(5YR6／6)よく締まっている。
7　黒色土(10YR2／1)地山塊(小)を多量に混入する。粘性やや強い。
8　にぶい褐色土(7.5YR5／3)地山粒・塊(小)を多量に混入する。
9　にぶい黄褐色土(10YR4／3)地山塊(小)を多量に混入する。
10　黄褐色土(10YR5／6)地山粒・塊(小)を多量に混入する。

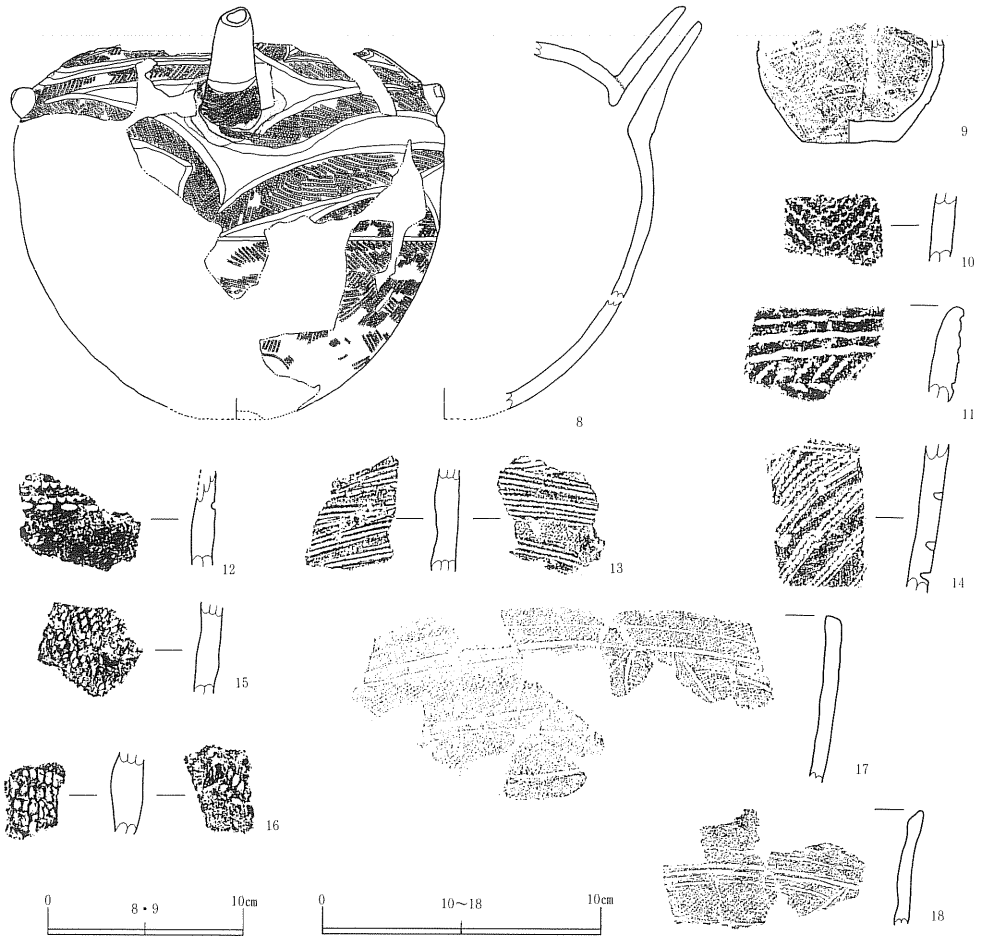
第36図　SI05竪穴住居跡・炉実測図



第37図　SI05竪穴住居跡出土遺物実測・拓影図

第23表　出土遺物観察表

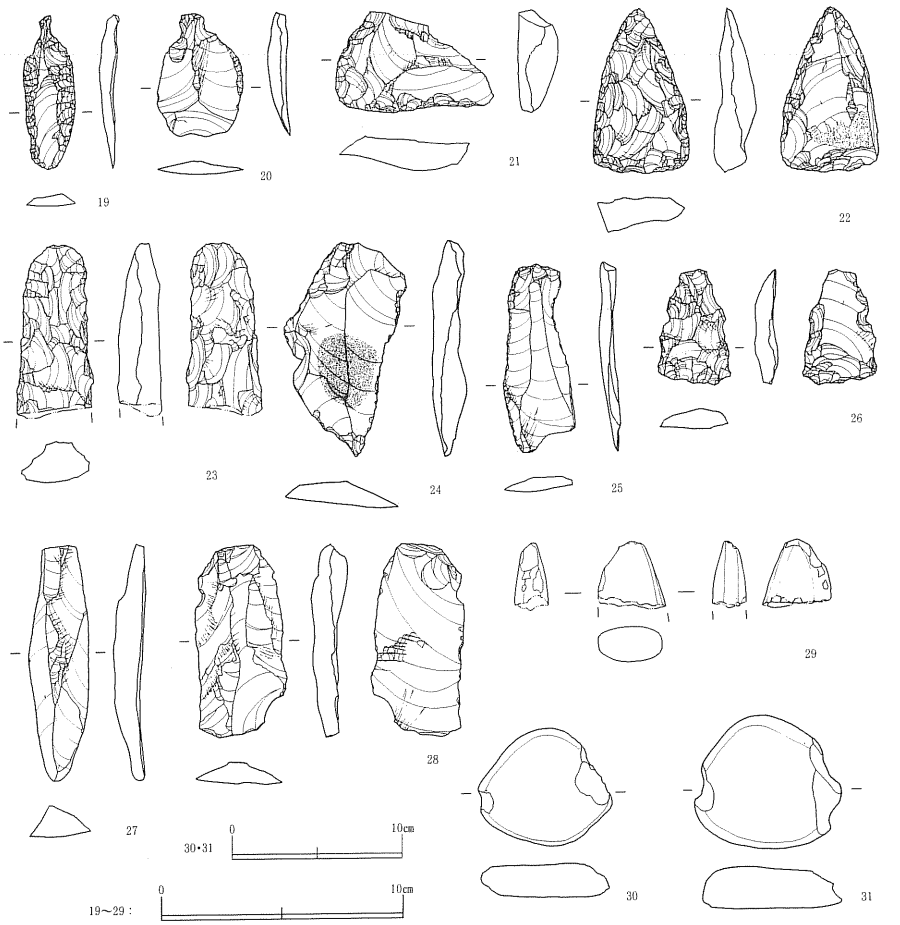
挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
37－1	SI05　炉内　RP3～7	深鉢口縁～胴部下半	LR縄文	無文	Ⅶ－2－A	
37－2	SI05　埋土中　RP4	注口土器　胴部	無文・貼瘤	無文	Ⅹ－8	
37－3	SI05　埋土中　RP17・28	長頸壷	篦なで	無文	Ⅸ－1－B	
37－4	SI05　埋土中　RP5・11	深鉢口縁～胴部下半	LR縄文・沈線文・磨消	無文	Ⅶ－10	
37－5	SI05　埋土中	壷？　胴部	沈線文	無文	Ⅸ－4	
37－6	SI05　埋土中　RP31	壷？　胴部	無文	無文	Ⅸ	
37－7	SI05　埋土中	深鉢口縁部	入組様帯状文	無文	Ⅶ－5	口唇に山形突起



第38図　SI05竪穴住居跡出土遺物実測・拓影図

第24表　出土遺物観察表

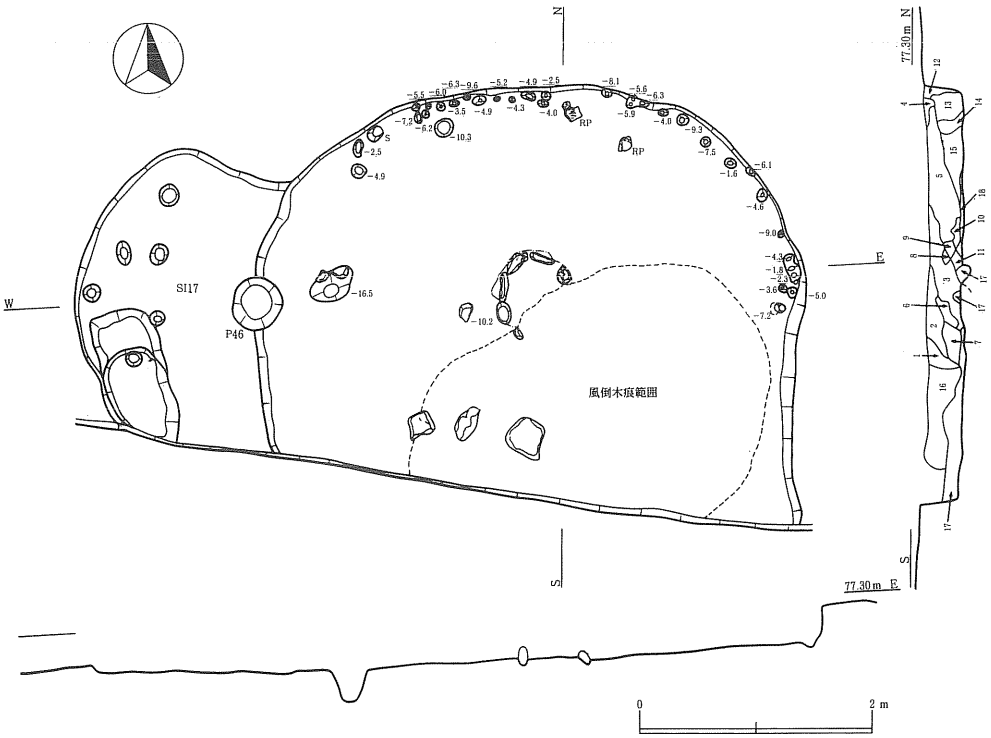
挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
38－8	SI05　埋土中　RP13	注口土器	入組様帯状文・貼瘤	無文	X－3－B	
38－9	SI05　埋土中　RP30	壷?胴中央～底	入組様帯状文	無文	Ⅸ－3	
38－10	SI05　床面	深鉢胴部	縦位羽状貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－6	
38－11	SI05　埋土中	深鉢口縁部	平行沈線文・横位羽状貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－15	
38－12	SI05　埋土中	深鉢口縁部	横条貝殻腹縁圧痕文・刺突文	無文	Ⅱ－17	
38－13	SI05　埋土中	深鉢胴部	貝殻条痕文	無文	Ⅲ－2	
38－14	SI05　埋土中	深鉢胴部	貝殻腹縁圧痕文・刺突文・沈線文	貝殻条痕文	Ⅱ－16	
38－15	SI05　埋土中	深鉢胴部	RL縄文	無文	V－1－A	
38－16	SI05　埋土中	深鉢胴部	RL縄文	RL縄文	V－2	
38－17	SI05　埋土中　RP14	深鉢口縁部	入組様帯状文	無文	Ⅶ－5	
38－18	SI05　埋土中	深鉢口縁部	入組様帯状文	無文	Ⅶ－5	

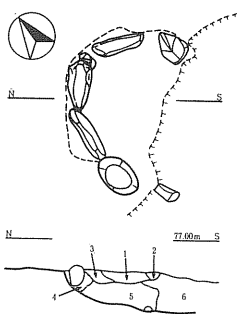


第39図　SI05竪穴住居跡出土遺物実測図

第25表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器　　種	計測値（mm・g）				石 質	分 類	備 考
			長 さ	最大幅	最大厚	重 さ			
39－19	SI05　埋土中	石匙	60	20	8.5	7	頁 岩	1 類	
39－20	SI05　埋土中	石匙	50	30	9	9	頁 岩	1 類	
39－21	SI05　埋土中	篦状石器	60	40	11	33	頁 岩	1 類	
39－22	SI05　埋土中	篦状石器	61	40	11	37	頁 岩	2 類	
39－23	SI05　埋土中	篦状石器	70	30	11	38	頁 岩		刃部欠損
39－24	SI05　埋土中	削器	81	41	10	40	頁 岩	2－A類	
39－25	SI05　埋土中	削器	71	21	8	14	頁 岩	1 類	
39－26	SI05　埋土中	篦状石器	41	30	10	12	頁 岩	4 類	
39－27	SI05　埋土中	石刃様剥片	91	21	10	19	頁 岩		
39－28	SI05　埋土中	剥片	80	31	11	36	頁 岩		
39－29	SI05　埋土中	磨製石斧	(21)	21	11	(39)	緑色凝灰岩	1－C類	刃部欠損
39－30	SI05　埋土中	石錘	51	41	10	156	安山岩	1 類	
39－31	SI05　炉内	石錘	60	51	11	227	安山岩	3 類	





竪穴住居跡

1　黒褐色土(10YR2／3)地山粒と地山塊(小)を極く少量混入する。
2　黒色土(10YR2／1)地山塊(小)を極く少量混入する。締まり強い。
3　褐色土(10YR4／4)地山粒・塊(小)を多量に混入する。
4　黒色土(10YR2／1)地山塊(小)を極く少量混入する。
5　黒色土(10YR2／1)地山粒・塊(小)を混入する。
6　黒褐色土(10YR2／3)地山粒を多量、焼土粒を極く少量混入する。粘性強い。
7　黒褐色土(10YR2／2)地山粒と地山塊(小)を少量混入する。粘性強い。
8　灰黄褐色土(10YR4／2)地山粒と地山塊(小)を極く少量混入する。
9　暗褐色土(10YR3／4)地山粒を多量に混入する。粘性強い。
10　褐灰色土(10YR4／1)地山粒・粘土粒を多量に混入する。粘性強い。
11　暗褐色土(10YR3／4)地山粒・炭化物を極く少量混入する。締まり強く粘性強い。
12　黒褐色土(10YR2／3)地山塊(小)を少量、炭化物を極く少量混入する。締まり強く粘性強い。
13　黒色土(10YR2／1)地山塊(小)を多量・炭化物を少量混入する。締まり強い。
14　黒褐色土(10YR2／2)地山粒を少量混入する。
15　黒色土(10YR2／1)地山塊(小)・炭化物を少量混入する。締まり強く粘性強い。
16　褐色土(10YR4／4)地山粒多量、地山塊少量、炭化物を極く少量混入する。(風倒木による撹乱)
17　黄褐色土(10YR5／6)地山粒を多量、炭化物・焼土粒を極く少量混入する。(風倒木による撹乱)
18　黒褐色土(10YR3／1)堅く締まっている。(貼床)

炉

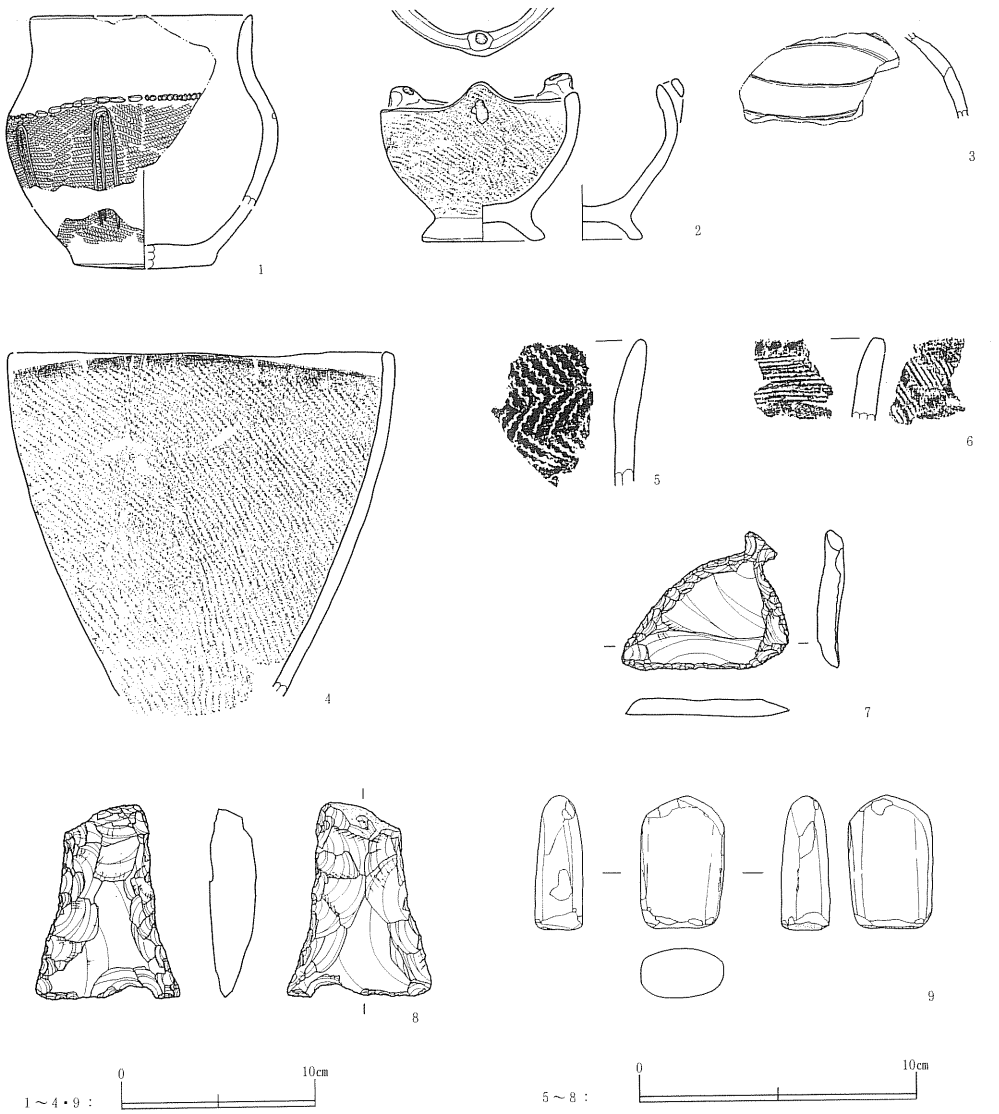
1　にぶい赤褐色焼土 (5YR5／4) 砂質の焼土。炭化物を極く少量混入する。堅く締まっている。
2　にぶい赤褐色焼土 (5YR4／4) 締まっている。
3　赤褐色焼土 (5YR4／6) 炭化物を少量混入する。軟らかい。
4　暗褐色土(10YR3／4)地山粒を少量混入する。締まっている。
5　明黄褐色土(10YR6／6)地山粒・塊(大・小)を多量に混入する。締まりなし。
6　黄褐色土(10YR5／6)地山粒・塊(大・小)を多量に混入する。(風倒木による撹乱)

第40図　SI07竪穴住居跡・炉実測図

ＳＩ08竪穴住居跡（第42図～第44図）

［検出位置と確認状況］ＭＡ50・ＭＡ51・ＭＢ50・ＭＢ51グリッドで検出した。範囲確認調査時に確認された竪穴住居跡であったが、第Ⅱ層・第Ⅲ層で平面的にプランを確認することができず、プランの確認が第Ⅴ層(地山漸移層)まで下がってしまった。第Ⅵ層(地山シラス)まで掘り込んで構築されている。

［形態と規模］平面プランは長軸(南－北)5.28ｍ、短軸(東－西)4.24ｍの不整な楕円形を呈し、

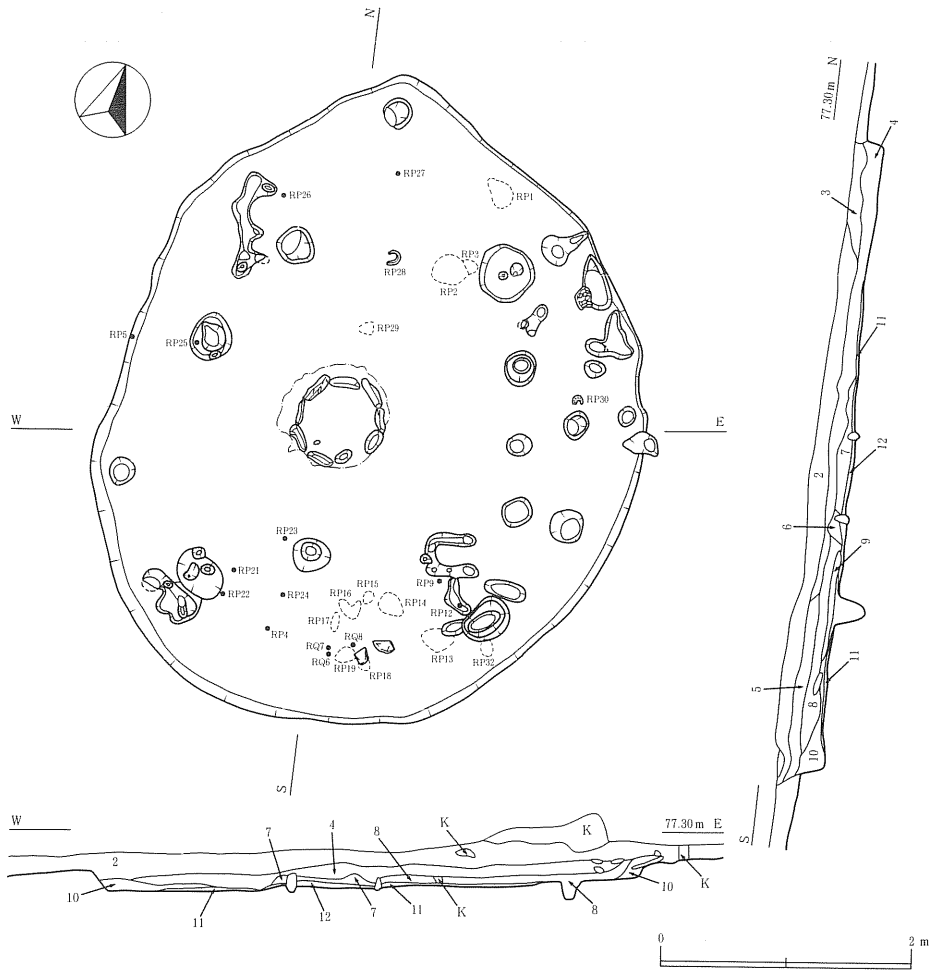


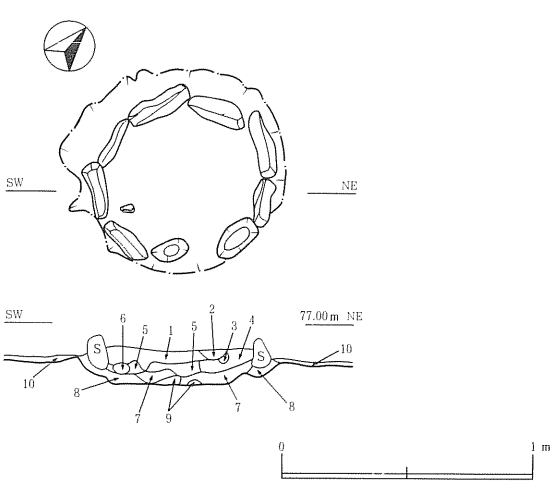
第41図　SI07竪穴住居跡出土遺物実測・拓影図

第26表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分類	備考
41－1	SI07　埋土中	深鉢	LR縄文・沈線垂下文・刺突文	無文	Ⅵ－5	
41－2	SI07　埋土中	台付浅鉢	RL縄文	無文	Ⅸ－1	
41－3	SI07　埋土中	壷？　肩部	孤状沈線文・赤色塗彩	無文	Ⅸ－5	
41－4	SI07　埋土中	深鉢口縁～胴	RL縄文	無文	Ⅶ－2－A	
41－5	SI07　埋土中	深鉢口縁部	横位羽状貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－5	
41－6	SI07　埋土中	深鉢口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－2	

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
41－7	SI07　埋土中	石匙	50	60	10	20	頁岩	3類	
41－8	SI07　埋土中	篦状石器	70	50	11	51	頁岩	2類	
41－9	SI07　埋土中	磨製石斧	41	30	11	135	緑色凝灰岩	1－C類	たたき石として再利用





竪穴住居跡

1　黒色土(10YR2／1)地山粒を極く少量混入する。
2　黒褐色土(10YR2／2)地山粒を少量・炭化物を極く少量混入する。粘性強い。
3　黒褐色土(10YR3／3)地山粒と炭化物を多量に混入する。粘性あり。
4　黒褐色土(10YR2／2)地山粒を多量・炭化物を極く少量混入する。粘性強い。
5　黒褐色土(10YR3／2)地山粒と炭化物を少量混入する。粘性あり。
6　暗褐色土(10YR3／4)地山粒を多量・炭化物を極く少量混入する。粘性あり。
7　灰黄褐色土(10YR4／2)地山粒と炭化物を少量混入、焼土を多量に混入する。
8　黒褐色土(10YR3／1)地山粒・炭化物(小)を多量に混入する。粘性あり。
9　黒褐色土(10YR2／2)地山粒を多量に混入する。粘性なく、堅く締まっている。
10　暗褐色土(10YR3／4)地山粒を多量に混入する。粘性強い。
11　黒褐色土(10YR3／1)縞状に同色の薄い層が何枚も堆積し、堅く締まっている。(貼床)
12　炉内堆積土。
K　木の根による撹乱。

炉

1　黒褐色土(10YR2／3)炭化物を混入する。締まり強い。
2　黒褐色土(10YR2／3)１より締まり弱く、粘性も弱い。
3　黒色土(10YR2／1)地山粒を多量に混入する。粘性なし。
4　黒褐色土(10YR3／2)地山粒を少量混入する。
5　橙色焼土(5YR6／6)堅く締まっている。
6　黒色土(10YR2／1)地山粒を混入する。
7　黒褐色土(10YR2／3)地山粒を混入する。
8　黄褐色土(10YR3／2)地山粒を多量に混入する。
9　黒褐色土(10YR3／1)地山粒と炭化物を混入する。よく締まっている。
10　黒褐色土(10YR3／1)竪穴住居跡貼床。

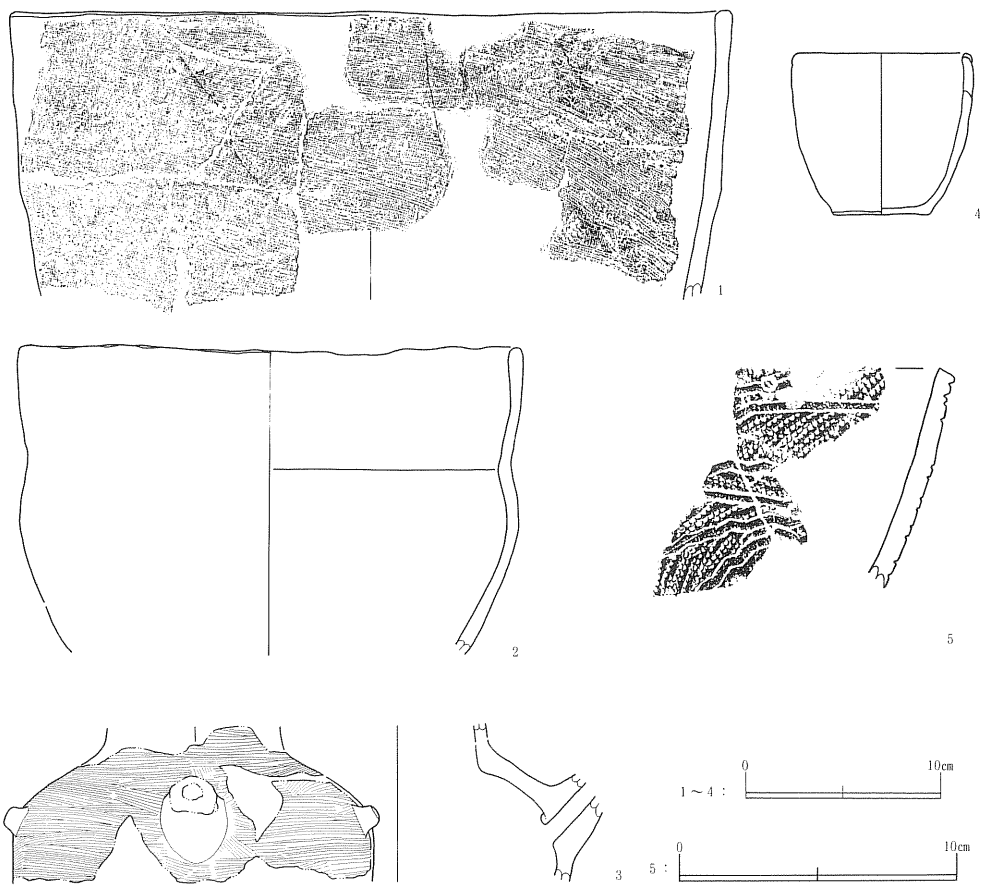
第42図　SI08竪穴住居跡・炉実測図

プラン確認面から床面までの深さは0.27～0.36ｍである。

［壁］外傾する壁面は第Ⅴ層が主体であり、やや締まりに欠け凹凸が激しい。

［床面］第Ⅵ層(地山シラス)を掘り込んでおり、踏み固められてほぼ平坦であった。この上面に1.5～2.8㎝の厚さの中に黒褐色土の極く薄い堅く締まった層とやや締まりのない層が互層となって２～３枚堆積していた。この堆積層中と下位には遺物の出土が皆無であることから、この黒褐色土の上面が最終段階の床上面と判断した。

［柱穴］柱穴様ピットを床面に14箇検出したが、上部構造を支える主柱の配置はP2～P4－P7－P11－P14にP1とP6を加えたものと推定した。その他壁際に不整なくぼみも検出した。



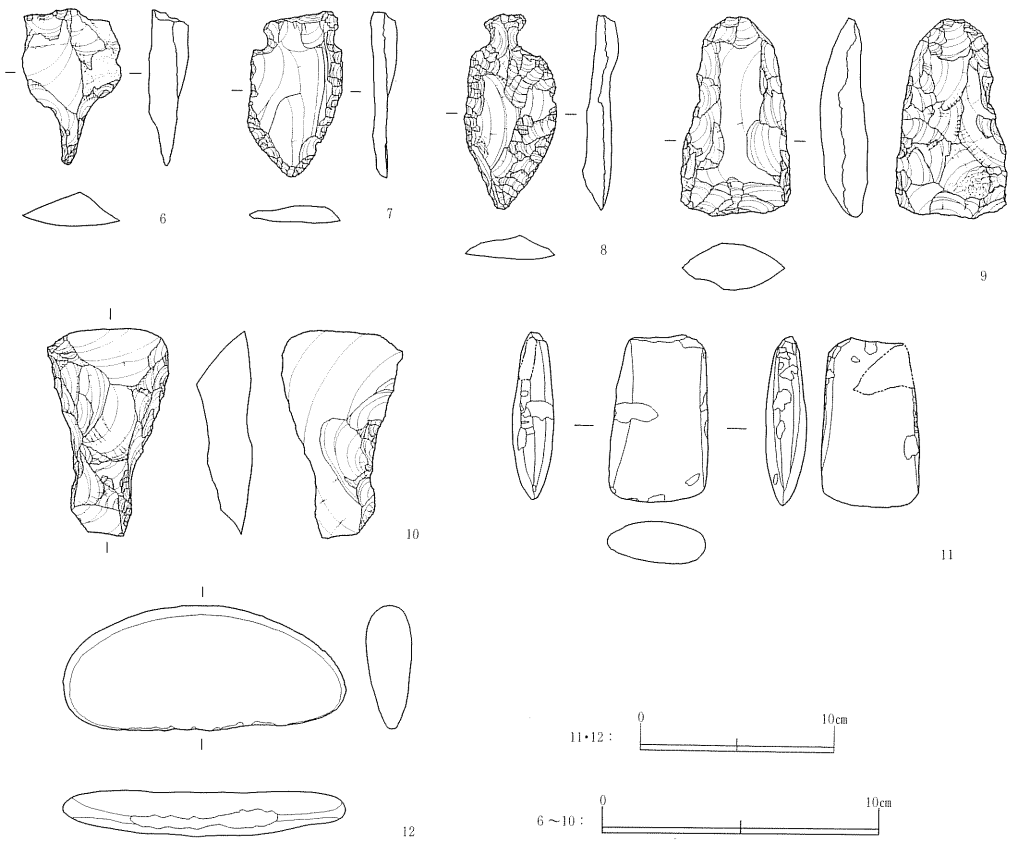
第43図　SI08竪穴住居跡出土遺物実測・拓影図

第27表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
43－１	SI08　床面	深鉢口縁部	刷毛目文	無文	Ⅶ－８	
43－２	SI08　埋土中　RP31	深鉢口縁～胴部下半	無文	無文	Ⅶ－13	
43－３	SI08　床面　RP30	注口上器肩部	刷毛目文	無文	Ⅶ－８	
43－４	SI08　床面　RP2･3	深鉢	無文	無文	Ⅶ－13	
43－５	SI08　床面	深鉢口縁部	縦条目撚糸圧痕文・平行波線文・刺突文	無文	Ⅱ－18－A	

［炉］床面中央部に長軸23～28cmの河原石を、南－北75cm、東－西70cmの略円形に配置した石囲い炉である。

［出土遺物］埋土中から後期の深鉢形土器１個体分、石錐１点、篦状石器１点、磨製石斧１点、半円状扁平打製石器１点、トランシェ様石器１点のほか石刃様剥片１点、剥片４点、石核１点が、床面から後期の深鉢形土器２個体分、注口土器１個体分、早期の貝殻文土器片１点、石匙２点が出土した。



第44図　SI08竪穴住居跡出土遺物実測図

第28表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器　　種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
44－6	SI08　埋土中	石錐	51	31	10	19	頁岩	1類	
44－7	SI08　床面	石匙	60	31	10	16	頁岩	1類	
44－8	SI08　床面	石匙	70	30	10	20	頁岩	1類	
44－9	SI08　床面	篦状石器	70	40	11	50	頁岩	2類	
44－10	SI08　埋土中	トランシェ様石器	71	11	40	53	頁岩	2類	
44－11	SI08　埋土中	磨製石斧	60	31	10	161	緑色凝灰岩	1－B類	
44－12	SI08　埋土中	半円状扁平打製石器	100	41	11	336	安山岩		

土　坑

ＳＫ06土坑（第45図、第49図１～６）

［検出位置と確認状況］ＬＴ51･ＭＡ51グリッドで検出した。プラン確認面の第Ｖ層(地山漸移層)から第Ⅵ層(地山シラス)まで掘り込んで構築されている。土坑プランは第Ｖ層で確認されたが、埋土中にある巨大な河原石については第Ⅲ層中位でその存在を確認できた。

［形態と規模］平面プランは東－西1.20ｍ、南－北1.16ｍの不整な円形を呈する。プラン確認面から底面までの深さは0.10～0.12ｍで断面形は鍋底形である。

［壁と底面の状況］壁面は凹凸が激しい。また底面にも細かい凹凸があり、浅いピットを14カ所検出した。

［出土遺物］埋土中から巨大な礫３点と掌大の偏平礫１点、拳大の角礫３点が、底面上に後期の深鉢形土器片９点と壷形土器肩部破片２点が出土した。

ＳＫ09土坑（第45図）

［検出位置と確認状況］ＭＣ53グリッドで検出した。プラン確認面の第Ｖ層(地山漸移層)から第Ⅵ層(地山シラス)まで掘り込んで構築されている。

［形態と規模］平面プランは長径(南－北)0.70ｍ、短径(東－西)0.58ｍの長円形を呈し、断面形は鍋底形である。プラン確認面から底面までの深さは0.09～0.11ｍである。

［壁と底面の状況］緩やかに外傾する壁面には小さな凹凸がみられ、凹凸のある底面には浅いピットを５箇確認できた。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

ＳＫ11土坑（第45図）

［検出位置と確認状況］ＬＴ51･52グリッドで検出したが、東半部分が調査対象区域外である。第Ｖ層(地山漸移層)と第Ⅵ層(地山シラス)を掘り込んでいるが、地山の窪みに構築されていた。上部に風倒木に因ると考えられる堆積土の乱れが観察された。

［形態と規模］平面プランはほぼ円形と推定され、長幅(北西－南東)1.33ｍ、短幅(北東－南西)58ｍ、プラン確認面から底面までの深さは0.20～0.24ｍである。断面形は鍋底形である。

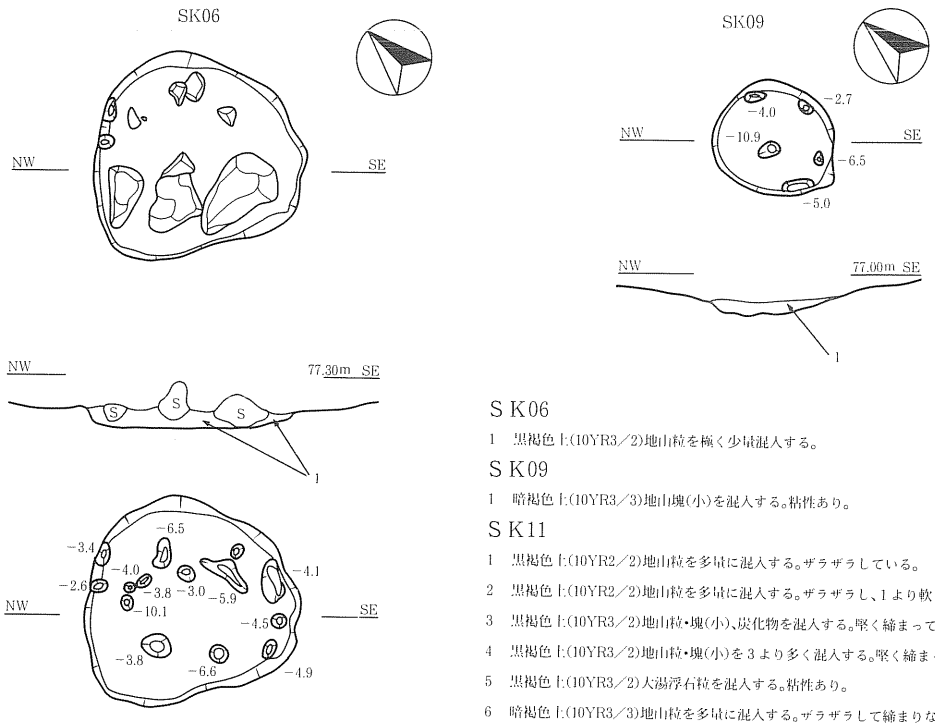
［壁と底面の状況］大きく外傾する壁面と底面には細かい凹凸が多い。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

ＳＫ13土坑（第46図、第49図）

［検出位置と確認状況］ＭＢ53グリッドで検出した。プラン確認面の第Ｖ層(地山漸移層)から第Ⅵ層(地山シラス)の河成礫層まで掘り込んで構築されている。

［形態と規模］平面プランは一辺1.10ｍ前後の不整な隅丸方形を呈する。深さは1.00～1.12ｍで、筒形を呈する。



ＳＫ06

1　黒褐色土(10YR3／2)地山粒を極く少量混入する。

ＳＫ09

1　暗褐色土(10YR3／3)地山塊(小)を混入する。粘性あり。

ＳＫ11

1　黒褐色土(10YR2／2)地山粒を多量に混入する。ザラザラしている。

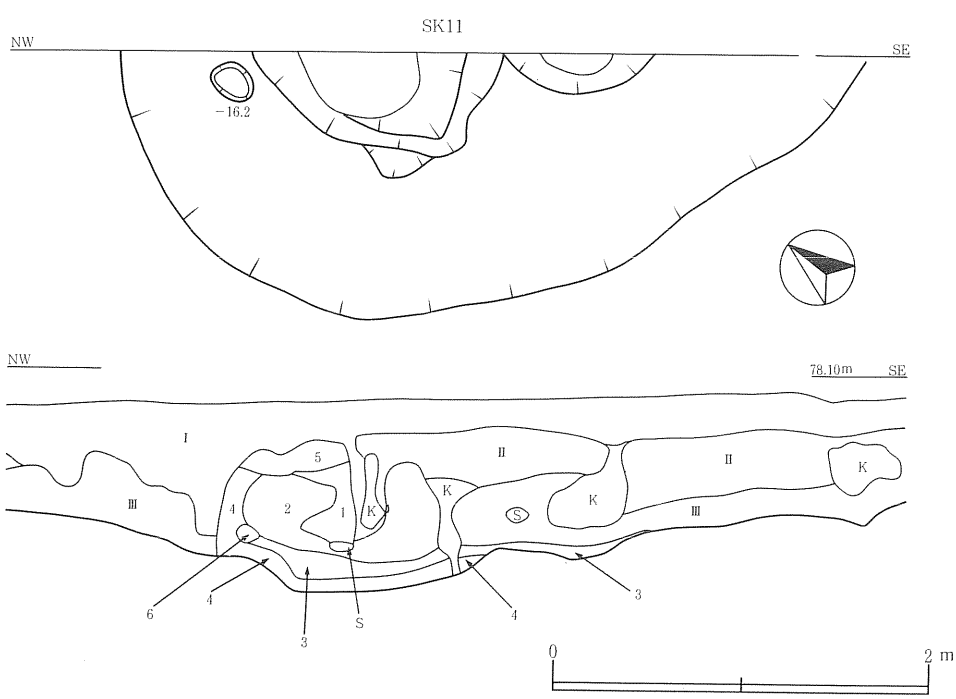
2　黒褐色土(10YR2／2)地山粒を多量に混入する。ザラザラし、1より軟らかい。

3　黒褐色土(10YR3／2)地山粒・塊(小)、炭化物を混入する。堅く締まっている。

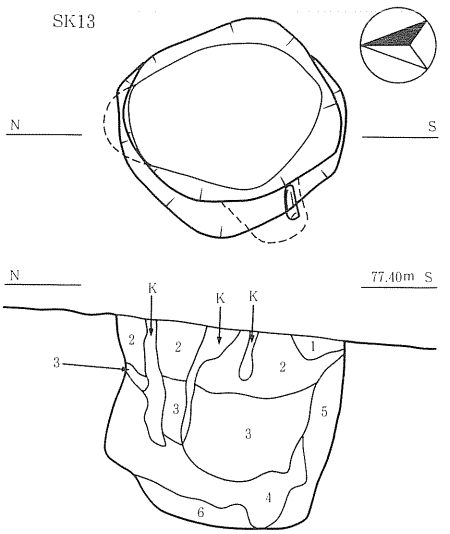
4　黒褐色土(10YR3／2)地山粒・塊(小)を3より多く混入する。堅く締まっている。

5　黒褐色土(10YR3／2)大湯浮石粒を混入する。粘性あり。

6　暗褐色土(10YR3／3)地山粒を多量に混入する。ザラザラして締まりなし。



第45図　SK06・SK09・SK11土坑実測図



ＳＫ13

1　暗褐色土(10YR3／3)地山粒・塊(小)を混入する。粘性あり。

2　暗褐色土(10YR3／4)地山粒・塊(小)を多量に混入する。堅く締まっている。

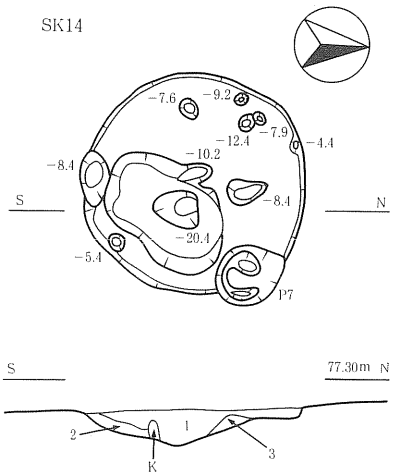
3　黒褐色土(10YR2／2)地山粒・塊(大・小)を多量に混入する。堅く締まっている。

4　褐色土(10YR4／6)地山粒・塊(大・小)を多量に混入する。粘性あり。

5　黄橙色土(10YR7／8)砂質の地山(掘り過ぎ)

6　黒褐色土(10YR3／2)粘土質の地山塊を多量に混入する。粘性強い。

K　木の根による撹乱。



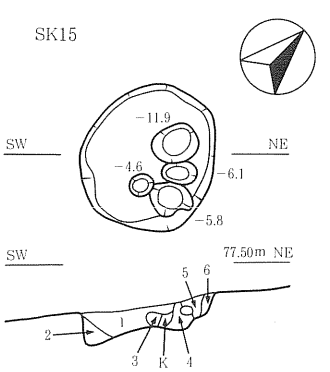
ＳＫ14

1　暗褐色土(10YR3／4)地山粒多量・炭化物を少量混入する。

2　暗褐色土(10YR3／3)地山粒を混入する。締まり強く粘性あり。

3　褐色土(10YR4／6)地山粒を多量に混入する。締まり強い。

K　木の根による撹乱。



ＳＫ15

1　黒褐色土(10YR3／1)地山粒を多量に混入する。締まっている。

2　暗褐色土(10YR3／3)地山粒・地山塊(小)を多量に混入する。

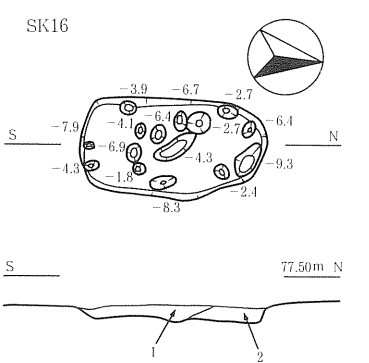
3　黒褐色土(10YR2／3)地山塊(小)を混入する。

4　暗褐色土(10YR3／3)地山粒・地山塊(小)を少量混入する。

5　暗褐色土(10YR3／4)地山粒を少量混入する。粘性あり。

6　にぶい黄褐色土(10YR4／3)地山塊(小)を多量に混入する。

K　木の根による撹乱。



ＳＫ16

1　暗褐色土(10YR3／3)地山粒・炭化物を混入する。締まり強い。

2　にぶい黄褐色土(10YR4／3)地山塊(小)を多量、炭化物を極く少量混入する。締まり強い。

0　2 m

第46図　SK13・SK14・SK15・SK16土坑実測図

［壁と底面の状況］壁面には礫も露出し凹凸が激しい。底面プランは卵形(不整楕円形)で凹凸が激しい。

［出土遺物］埋土中から石匙１点出土した。

ＳＫ14土坑（第46図）

［検出位置と確認状況］ＭＡ51･52グリッドで検出した。プラン確認面の第Ｖ層(地山漸移層)から第Ⅵ層(地山シラス)まで掘り込んで構築されている。柱穴様ピットＰ７と重複するがＰ７が新しい。

［形態と規模］平面プランは直径1.20～1.24ｍの略円形を呈する。プラン確認面から底面までの深さは0.05～0.24ｍである。断面形は鍋底形を呈する。

［壁と底面の状況］壁面はやや外傾する。凹凸の激しい底面は南側でさらに0.10～0.15ｍの深さで不整な楕円形に掘り窪めていた。底面で柱穴様ピット１箇と浅いピットを９箇検出した。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

ＳＫ15土坑（第46図）

［検出位置と確認状況］ＬＳ47グリッドで検出した。プラン確認面の第Ｖ層(地山漸移層)上面から第Ⅵ層(地山シラス)まで掘り込んで構築されている。

［形態と規模］長径(南－北)0.78ｍ、短径(東－西)0.68ｍの長円形を呈し、プラン確認面から底面までの深さは0.18～0.20ｍである。断面形は逆台形を呈する。

［壁と底面の状況］壁面はやや外傾する。凹凸の激しい底面は南側に傾斜していた。底面の東側に柱穴様ピット１箇と浅いピットを３箇検出した。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

ＳＫ16土坑（第46図）

［検出位置と確認状況］ＬＳ50グリッドで検出した。プラン確認面の第Ｖ層(地山漸移層)から第Ⅵ層(地山シラス)まで掘り込んで構築されている。

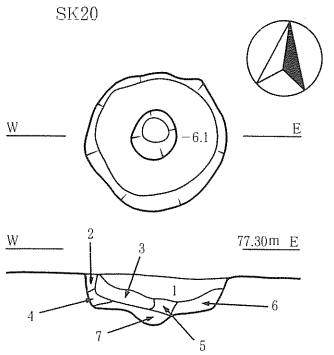
［形態と規模］平面プランは長軸(東－西)0.99ｍ、短軸(南－北)0.55ｍの楕円形を呈する。プラン確認面から底面までの深さは0.08～0.10ｍである。断面形は逆台形を呈する。

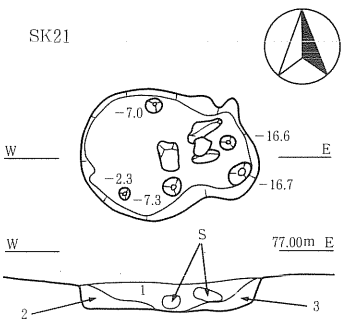
［壁と底面の状況］外傾する壁面には凹凸が激しい。底面も若干の凹凸がある。底面で柱穴様ピット１箇のほか、浅く小さなピットを14箇検出した。浅く小さなピットのうち８箇は壁下方の底面に検出した。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

ＳＫ20土坑（第47図）

［検出位置と確認状況］ＬＲ47グリッドで検出した。プラン確認面の第Ｖ層(地山漸移層)上面から第Ⅵ層(地山シラス)まで掘り込んで構築されている。





ＳＫ20

1　黒褐色土(10YR3／2)地山粒・炭化物を混入する。締まり強い。

2　黄褐色土(10YR5／6)地山粒を混入する。軟らかい。

3　黒褐色土(10YR2／2)地山粒を多量に混入する。堅く締まっている。

4　褐色土(10YR4／4)地山粒を多量に混入する。軟らかい。

5　明黄褐色土(10YR6／6)地山粒を混入する。軟らかい。

6　明黄褐色土(10YR6／6)地山粒を極く少量混入する。軟らかい。

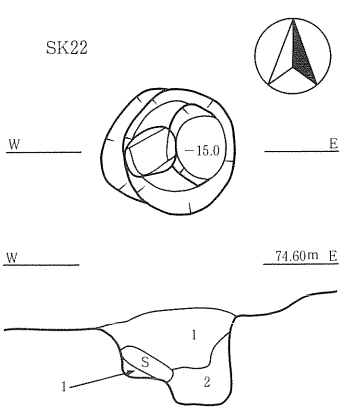
7　褐色土(10YR4／6)地山粒を混入する。軟らかい。

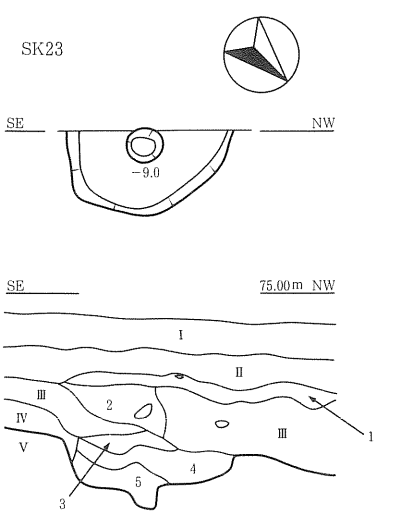
ＳＫ21

1　黒褐色土(10YR3／2)地山粒・塊(小)を少量混入する。

2　黄褐色土(10YR5／6)地山粒を混入する。締まっている。

3　にぶい黄褐色土(10YR5／3)地山粒・塊(小)を少量混入する。粘性あり。





ＳＫ22

1　黒褐色土(10YR2／3)地山粒を多量に混入する。軟らかい。

2　にぶい黄褐色土(10YR4／3)地山粒・塊(小)を多量に混入する。粘性強い。

ＳＫ23

1　黒褐色土(10YR3／2)地山粒を少量混入する。

2　黒褐色土(10YR2／3)地山粒・塊(小)を多量に混入する。

3　暗褐色土(10YR3／4)地山粒を多量に混入する。

4　にぶい黄褐色土(10YR4／3)地山粒を多量に混入する。

5　にぶい黄褐色土(10YR4／3)地山粒・塊(小)を多量に混入する。粘性強い。

Ⅰ　黒褐色土(10YR2／2)表土。　　Ⅱ　黒色土(10YR2／1)腐植土。

Ⅲ　暗褐色土(10YR3／4)地山粒混入。　Ⅳ黒褐色土(10YR3／2) 地山粒混入。

Ⅴ　明黄褐色土(10YR6／6)地山。

第47図　SK20・SK21・SK22・SK23土坑実測図

［形態と規模］平面プランは直径0.73～0.79ｍの略円形を呈する。プラン確認面から底面までの深さは0.21～0.23ｍである。断面形は鍋底形を呈する。

［壁と底面の状況］壁面にはやや凹凸がある。底面にも若干の凹凸があり、ほぼ中央部で直径0.22～0.26ｍ、深さ0.06ｍの浅い柱穴様ピットを１箇検出した。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

ＳＫ21土坑（第47図）

［検出位置と確認状況］ＬＴ48グリッドで検出した。プラン確認面の第Ｖ層(地山漸移層)上面から第Ⅵ層(地山シラス)まで掘り込んで構築されている。

［形態と規模］平面プランは長径(東－西)0.96ｍ、短径(南－北)0.70ｍの不整な長円形を呈する。プラン確認面から底面までの深さは0.13～0.17ｍである。断面形は鍋底形を呈する。

［壁と底面の状況］壁面は凹凸が激しい。底面はほぼ平坦であるが、壁面下の底面には小さな柱穴様ピットを５箇検出した。

［出土遺物］底面の中央東側に５点の河原石が出土した。その他の遺物は出土しなかった。

ＳＫ22土坑（第47図）

［検出位置と確認状況］№3トレンチのＭＧ56グリッドで検出した。第Ｖ層(地山)を掘り込んで構築していた。

［形態と規模］平面プランは長径(東－西)0.76ｍ、短径(南－北)0.68ｍのほぼ円形を呈する。プラン確認面から底面までの深さは0.41～0.48ｍである。断面形は段差のあるＵ字形を呈する。

［壁と底面の状況］壁面は外傾していた。ほぼ平坦な底面の東側で直径0.35～0.45ｍ、深さ0.15ｍの柱穴様ピットを検出した。

［出土遺物］西側の壁に寄りかかるように河原石が１点底面に出土した。その他の遺物は出土しなかった。

ＳＫ23土坑（第47図）

［検出位置と確認状況］№3トレンチのＭＧ55グリッドで検出した。プラン確認面の第Ⅳ層から第Ｖ層(地山)を掘り込んで構築していた。南半部分は発掘対象区域外である。

［形態と規模］南半部分は発掘対象区域外であるが、平面プランは円形を呈すると思われる。現況の長幅(南東－北西)は0.9ｍ、短幅(北東－南西)は0.46ｍである。トレンチ壁面の観察では、深さ0.40ｍである。断面形は鍋底形を呈する。

［壁と底面の状況］壁面は外傾していた。底面は中央に向かって傾斜しており、中央部で直径0.18～0.20ｍ、深さ0.09ｍの柱穴様ピットを１箇検出した。

［出土遺物］遺物は出土しなかった。

フラスコ(袋)状土坑

ＳＫＦ10フラスコ(袋)状土坑（第48図）

［検出位置と確認状況］ＭＣ54グリッドでＳＩ03竪穴住居跡中に検出した。プラン確認時に重複しているのを見逃してしまったため、住居跡の埋土とともに掘り込み、壁面の一部と底部しか確認できなかった。底部上に住居跡の貼床痕跡もなく、若干残存する住居跡埋土に本土坑の壁の一部が確認できたことから、住居跡よりも新しいと判断した。

［形態と規模］農道開削による法面カットなどにより全容と規模を明らかにすることができなかった。残存する底部は長径(南－北)1.23ｍ、短径(東－西)1.12ｍの長円形を呈し、プラン確認面からの深さは0.68～0.82ｍである。断面形は袋状を呈する。

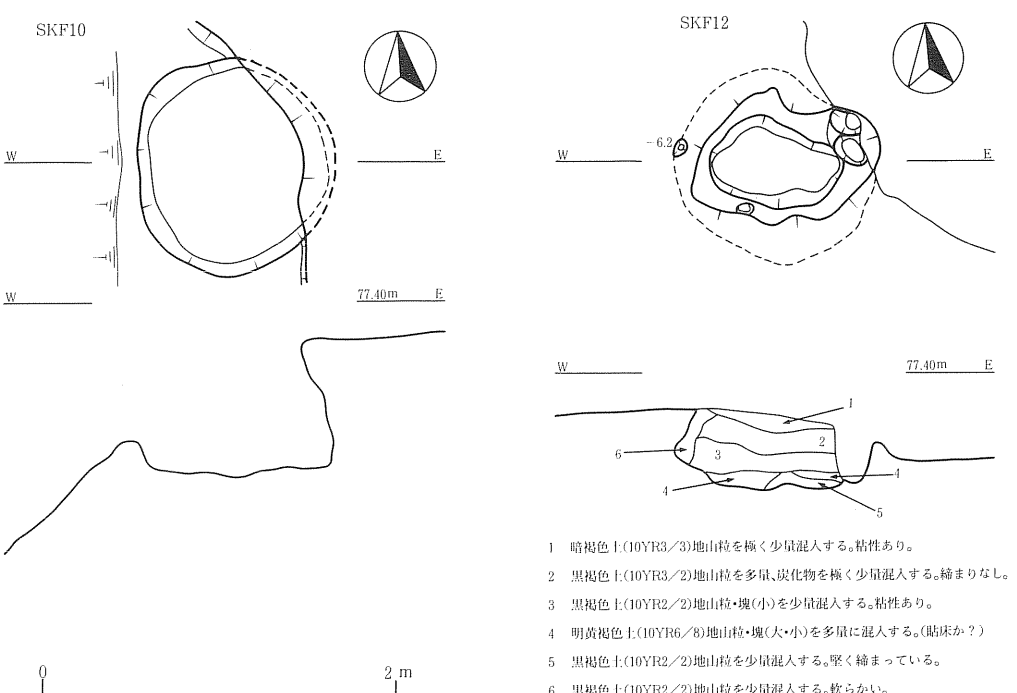
［壁と底面の状況］砂礫を混入する第Ⅵ層(地山シラス)まで掘り込んでおり、オーバーハングする壁は崩れやすい。底面は地山の礫が露出し凹凸がある。

［出土遺物］埋土中から偏平な川原石が２点出土した。

ＳＫＦ12フラスコ(袋)状土坑（第48図、第49図８）

［検出位置と確認状況］ＭＢ54グリッドでＳＩ02竪穴住居跡と重複して検出した。本土坑の壁面の一部が住居跡に破壊されており、本土坑が古い。

［形態と規模］開口部は推定長径(東－西)0.9ｍ、短径(南－北)0.7ｍの不整長円形、底部は長



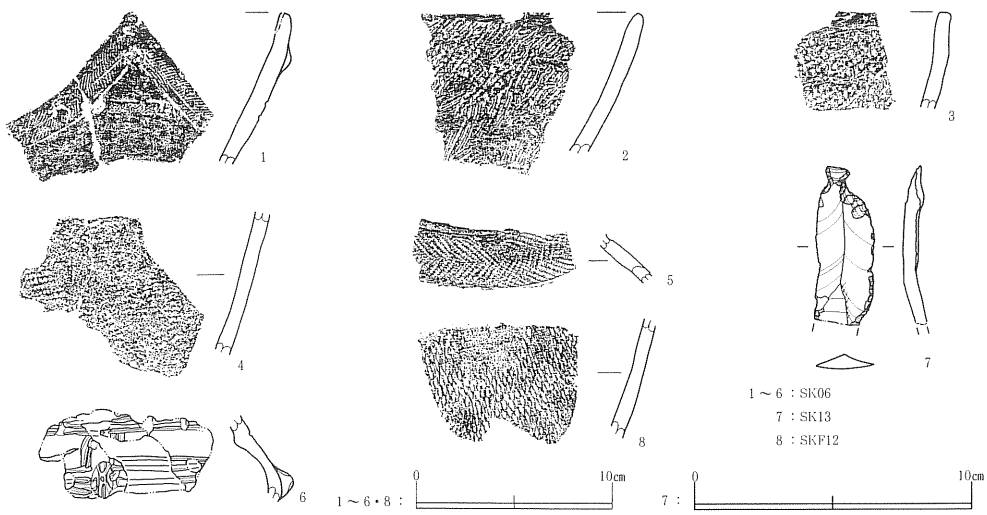
1　暗褐色土(10YR3／3)地山粒を極く少量混入する。粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3／2)地山粒を多量、炭化物を極く少量混入する。締まりなし。
3　黒褐色土(10YR2／2)地山粒・塊(小)を少量混入する。粘性あり。
4　明黄褐色土(10YR6／8)地山粒・塊(大・小)を多量に混入する。(貼床か？)
5　黒褐色土(10YR2／2)地山粒を少量混入する。堅く締まっている。
6　黒褐色土(10YR2／2)地山粒を少量混入する。軟らかい。

第48図　SKF10・SKF12フラスコ（袋）状土坑実測図

径(南－北)1.12ｍ、短径(東－西)0.95ｍの不整長円形を呈し、プラン確認面からの深さは0.35～0.46ｍである。断面形は袋状を呈する。

［壁と底面の状況］固く締まった第Ⅴ層(地山漸移層)と第Ⅵ層(地山シラス)を掘り込んで造られており、オーバーハングする壁は固く締まっていた。底面は中央部が0.05～0.07ｍさらに掘り下げられ、堅く締まった明黄褐色土が堆積していた。貼床ではないかと考えられた。

［出土遺物］埋土中から後期の深鉢形土器片１点が出土した。



第49図　SK06土坑・SK13土坑・SKF12フラスコ（袋）状土坑出土遺物実測・拓影図

第29表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分類	備考
49－1	SK06　床面　PR8・10	深鉢口縁部	磨消縄文・貼瘤	無文	Ⅶ－6	
49－2	SK06　床面　RP5	深鉢口縁部	RL縄文・刷毛目文	無文	Ⅶ－2	
49－3	SK06　床面　RP2	深鉢口縁部	LR縄文	無文	Ⅶ－2	
49－4	SK06　床面	深鉢口縁部	RL縄文	無文	Ⅶ－2	
49－5	SK06　埋土中	壷？　肩部	羽状縄文	無文	Ⅸ－8	
49－6	SK06　埋土中　RP6	壷？　肩部	沈線文・貼瘤	無文	Ⅸ－4	
49－8	SKF10　埋土中	深鉢胴部	単軸絡条体	無文	Ⅶ－11	

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
49－7	SK13　埋土中	石匙	51	20	8	6	頁岩	1類	先端部欠損

配石遺構

中央部平坦面の第Ⅱ層から第Ⅲ層にかけて拳大～人頭大以上の河原石が多数出土した（第50図・第51図）。このうちまとまりのある２カ所を配石遺構としてとらえた。

ＳＱ01配石遺構（第52図、第53図１～６）

［検出位置］　ＬＳ49・ＬＳ50・ＬＴ49・ＬＴ50グリッドの第Ⅱ層で検出した。

［形態と規模］東－西3.5ｍ、南－北3.5ｍの範囲で幅1.5ｍのＬ字を縁取りするように人頭大およびそれ以上の巨大な河原石・角礫を並べ、その縁取りの中の一隅にさらに人頭大の河原石や

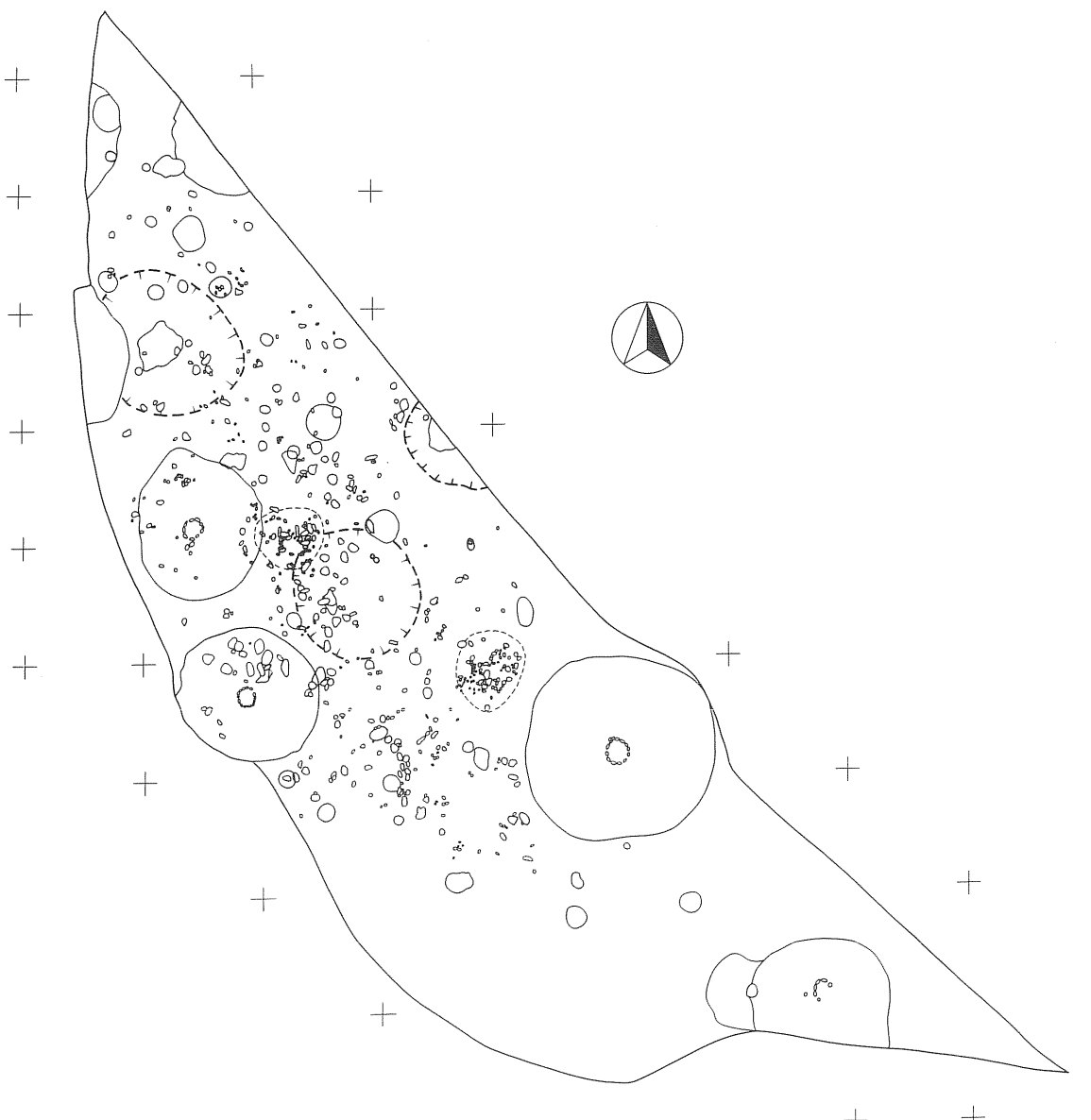
それ以上の河原石を積み上げていた。配石下および周辺で落ち込み等は検出できなかった。

［出土遺物］河原石の間から早期の貝殻文土器片３点とトランシェ様石器１点、削器１点のほか石刃様剥片２点が出土した。

ＳＱ02配石遺構（第52図、第53図７～12）

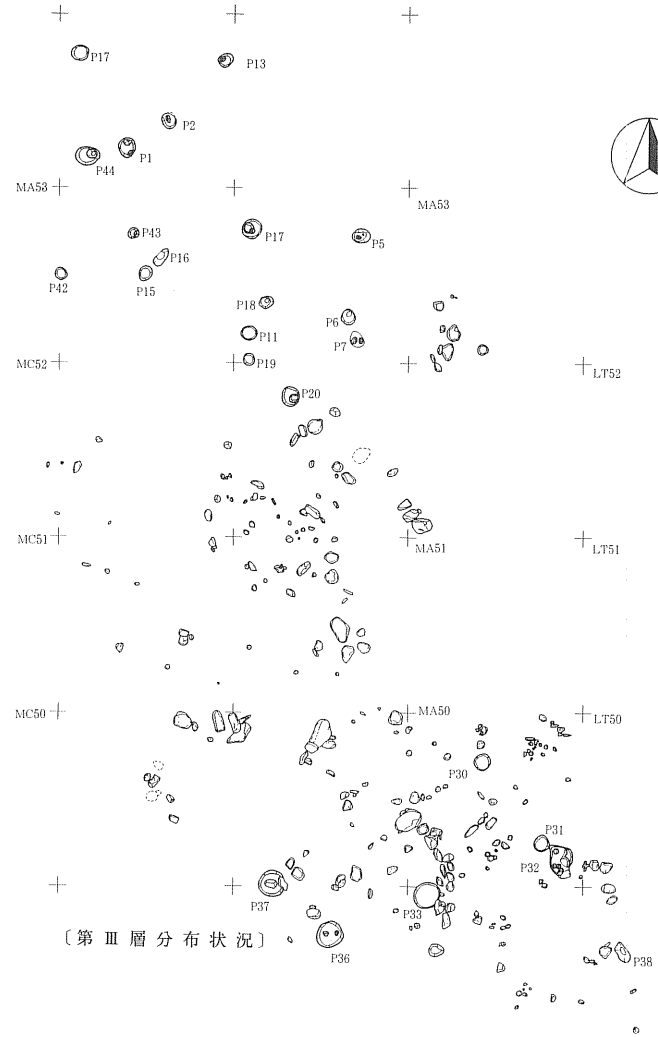
［検出位置］ＭＡ50･51グリッドの第Ⅱ層で検出した。

［形態と規模］一辺2.5ｍの方形に拳大～人頭大以上の河原石で縁取りし、北側半分に河原石を敷き並べていた。配石下および周辺で土坑･落ち込み等は検出できなかった。



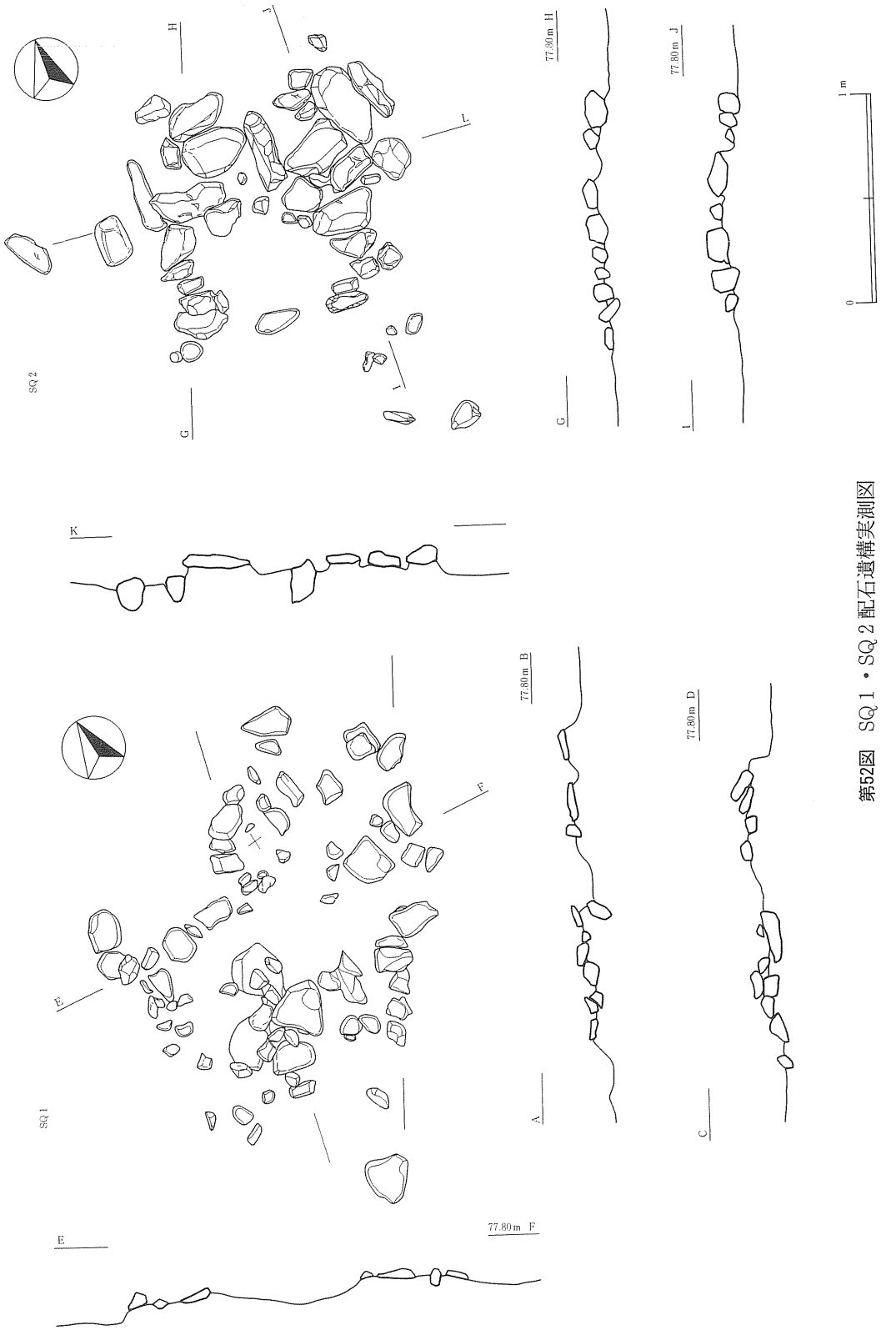
第50図　礫群分布状況図

〔第Ⅱ層分布状況〕

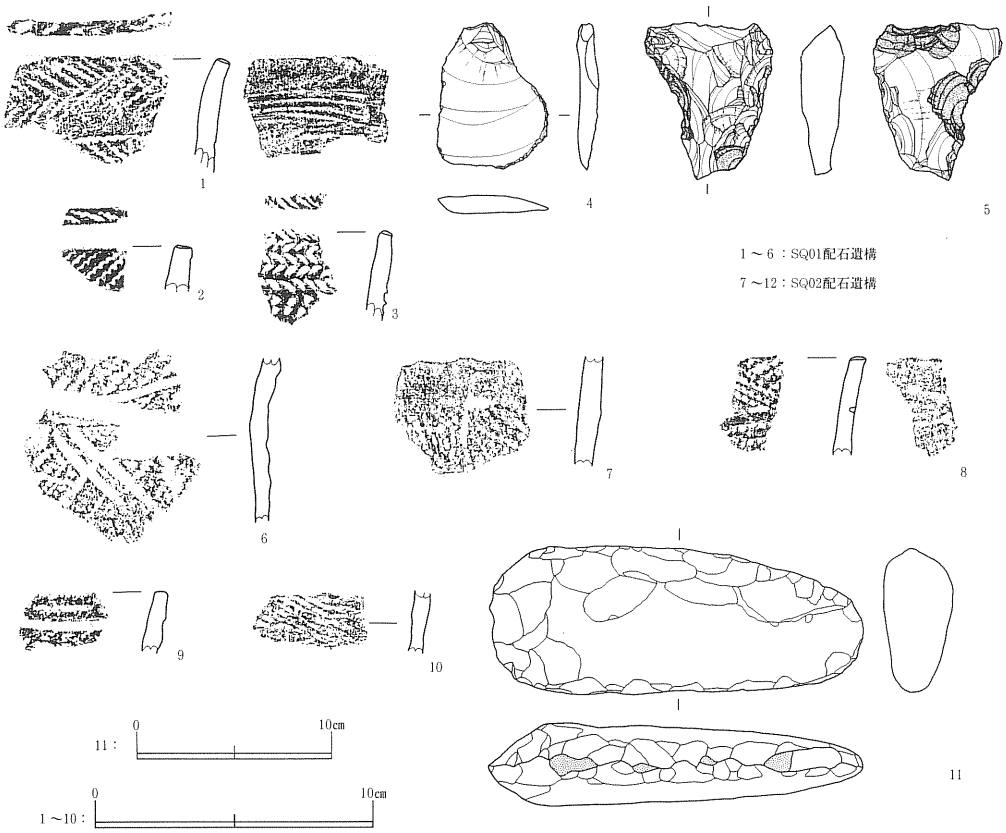


〔第Ⅲ層分布状況〕

第51図　第Ⅱ層・第Ⅲ層出土礫分布状況図



第52図　SQ１・SQ２配石遺構実測図



第53図　SQ01配石遺構・SQ02配石遺構出土遺物実測・拓影図

第30表　出土遺物観察表

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分類	備考
53－1	SQ01	深鉢口縁部	横位羽状貝殻腹縁圧痕文	貝殻条痕文	Ⅱ－5	口唇貝殻腹縁圧痕文
53－2	SQ01	深鉢口縁部	斜条貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－3	口唇貝殻腹縁圧痕文
53－3	SQ01	深鉢口縁部	矢羽根状沈線文	無文	Ⅳ－1	口唇刻目
53－6	SQ02	深鉢胴部	RL縄文・沈線文	無文	Ⅳ－3	
53－7	SQ02	深鉢胴部	単軸絡条体	無文	Ⅶ－11	
53－8	SQ02	深鉢胴部	斜条貝殻腹縁圧痕文・刺突文	貝殻条痕文	Ⅱ－7	
53－9	SQ02	深鉢口縁部	沈線文	無文	Ⅶ－10	
53－10	SQ02	深鉢胴部	縄L	無文	Ⅶ－2－A	

挿図番号	遺構名・層位・遺物番号	器種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
53－4	SQ01	篦状石器	50	40	8	12	頁岩	3類	
53－5	SQ01	トランシェ様石器	51	41	11	34	頁岩	2類	
53－11	SQ02　RQ1	半円状扁平打製石器	190	71	40	876	安山岩		

［出土遺物］礫と礫の間から早期の土器片１点、後期の土器片４点、前期の半円状扁平打製石器１点が出土した。

［その他］河原石は火熱を受けたものが多く、当初「石囲炉」として使用したものと考えたが、火熱を受けた部分に規則性がなく再利用されたものと判断した。

柱穴様ピット（第６図）

第Ⅱ層から第Ⅴ層にかけて竪穴住居跡等の外部あるいは埋土中に46箇検出した。検出状況と埋土の土性から43箇は中～後期の柱穴様ピットと判断した。

第３節　遺構外出土遺物（第54図～第72図）

（１）　トレンチ出土の遺物（第54･55図）

南東側平坦面に設定したNo.1トレンチ、No.2トレンチでは、埋没した谷状地形を検出した。No.1トレンチでは、堆積土層の中位に古代の降下火山灰である大湯浮石層が認められ、この火山灰の上位から早期の貝殻条痕文土器片１点と管状土製品１点が、下位から中期の深鉢形土器片１点、後期の深鉢形土器２個体分、擦石１点が出土した(第54図)。管状土製品は撹乱された表土（客土）からの出土であった。

No.2トレンチでの遺物の出土はなかった。

北西側平坦面に設定したNo.3トレンチでは土器の出土はなく、第Ⅰ層から削器１点、磨製石斧破片３点の出土であった(第55図)。磨製石斧破片３点は擦切技法によって製作されたものである。破断面の観察では横斧的な（手斧的な）使用により破損したとみられる。

（２）　中央部平坦面のグリッド出土の土器（第57図～第64図）と石器（第65図～第72図）

中央部平坦面では原則として遺構内の遺物以外は、グリッドと層位毎に収納した。トレンチャーによる撹乱溝の遺物もＳＤNo.とグリッド名を付して収納した。

土器は縄文時代早期の土器群のあと、中期の土器群、後期の土器群と順に掲載した。

石器はトランシェ様石器、石鏃、石槍、石錐、石匙、篦状石器、掻器、削器、磨製石斧、石錘、くぼみ石、擦石、半円状扁平打製石器、鉢状石製品、円盤状石製品、石刃様剝片等の順に掲載した。また、拓影図･実測図の下部には観察表を掲載した。

（３）　遺物の分類基準

土器

本遺跡の発掘調査では、遺構内･外から20箱分の土器･土製品が出土したが、竪穴住居跡や土坑等からは完形･復原土器が多く出土し、遺構外あるいはトレンチャーによる撹乱部分からは破片が多く出土した。このため、土器の分類にあたっては完形･復原土器、破片を併せて分類した。出土した土器は、縄文時代早期･中期･後期に属するが、後期のものが多く早期がそれに次ぐ。中期のものは僅少である。

早期の土器は、図上復原を含めても復原できたものが僅少であることから施文原体と文様構成を主に分類した。

中期と後期の土器は、完形･復原土器が多いことから器形と文様構成から分類した。器形に

ついては深鉢形土器・浅鉢形土器・壷形土器・注口土器・香炉形土器・異形台付土器・台付浅鉢形土器・台付皿形土器に分類した。深鉢形・浅鉢形・皿形は口径と高さの比率により区分した。すなわち器高が口径以上のものを深鉢形、器高が口径の２／３以下～１／３以上のものを浅鉢形と区分した。

第Ⅰ群土器　　縄文時代早期の無文の土器を一括した。

第Ⅱ群土器　　縄文時代早期の殻表面が放射肋で刻まれ、殻内面にも刻みをもつ二枚貝の貝殻を主要な施文原体とする土器を一括した。貝殻の使用部位・手法・文様構成により20類に細分した。

第１類　器面に対し、貝殻の腹縁をほぼ垂直にして押圧した縦条腹縁圧痕文を施文した土器。

第２類　器面に対し、貝殻の腹縁をほぼ平行にして押圧した横条腹縁圧痕文を施文した土器。

第３類　器面に対し、貝殻の腹縁を30～60度傾けて押圧した斜条腹縁圧痕文を施文した土器。

第４類　斜条腹縁圧痕文の傾きの異なるものを鋸歯状に組み合わせ、横方向に施文した土器。

第５類　斜条腹縁圧痕文の傾きの異なるものを組み合わせ、結束させた単位文様を横方向に施文した横位羽状腹縁圧痕文を施文した土器。

第６類　斜条腹縁圧痕文の傾きの異なるものを組み合わせ、結束させた単位文様を縦方向に施文した縦位羽状腹縁圧痕文を施文した土器。

第７類　斜条腹縁圧痕文の傾きの異なるものを菱形に組み合わせた土器。

第８類　器面に貝殻の腹縁をあて、上下に支点を変えながら押圧移動させた貝殻腹縁連続波状圧痕文を施文した土器。

第９類　器面に貝殻の腹縁をあて、連続的に押圧しながら引きずる貝殻腹縁押し引き文を施文した土器。

第10類　器面に対して殻内面を上に向け、殻表面の放射肋で刻まれた面を横方向に押圧施文した貝殻殻表圧痕文を施文した土器。

第11類　貝殻の放射肋あるいは刻みによる凹凸面を器面に当て、凹凸に平行に引きずり施文する貝殻条痕文を施文した土器。

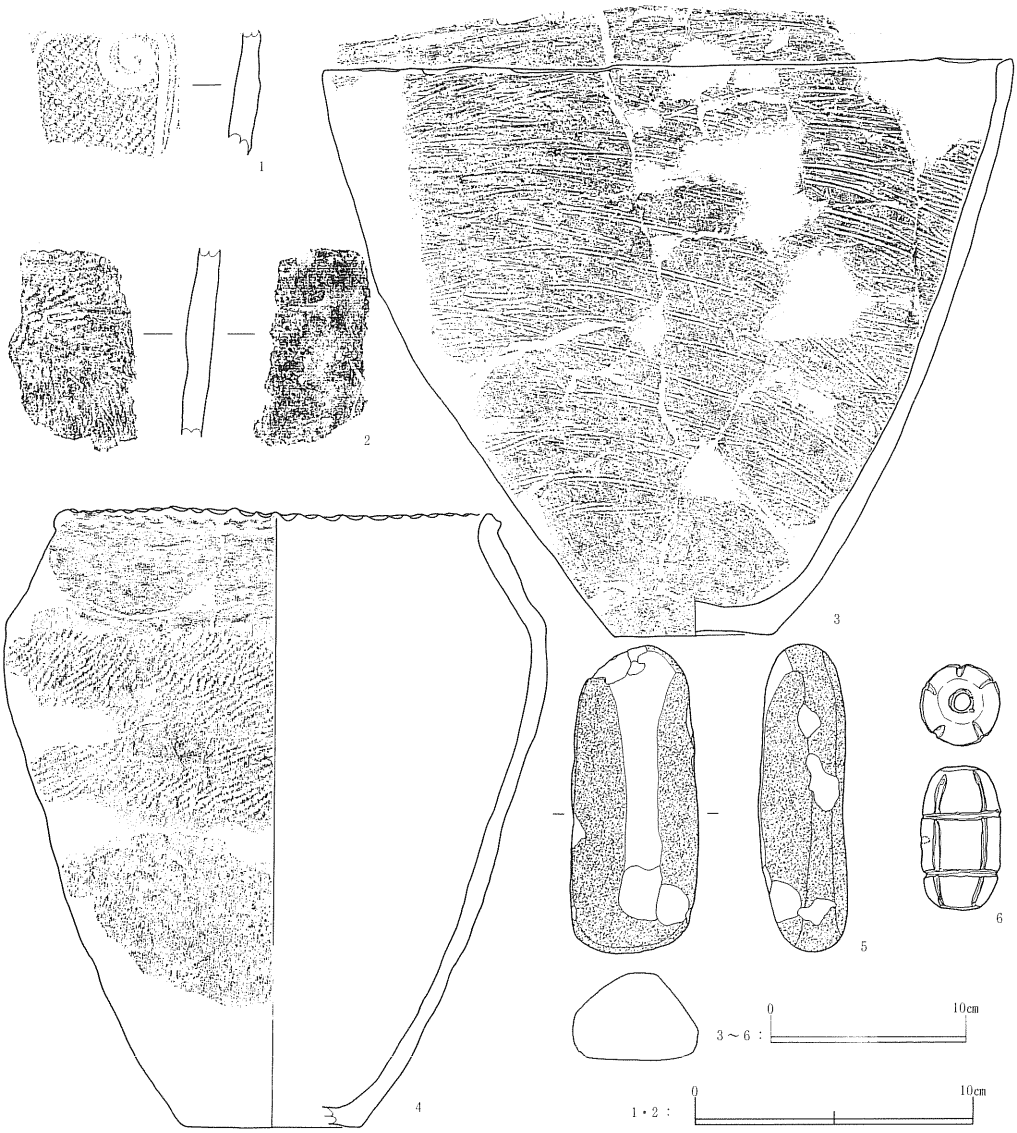
第12類　縦条の貝殻腹縁文を地文として細い平行沈線文を付加した文様構成をもつ土器。

第13類　２種類の貝殻腹縁圧痕文を施文した土器。

第14類　横条の貝殻腹縁文にクランク状沈線文を付加した文様構成をもつ土器。

第15類　横位の羽状貝殻腹縁文を地文として平行沈線文を付加した文様構成をもつ土器。

第16類　３条１単位の平行する貝殻腹縁文によるクランク状区画文を施文し、屈曲部や接点に棒状工具による刺突文（円形刺痕）を施文した土器。

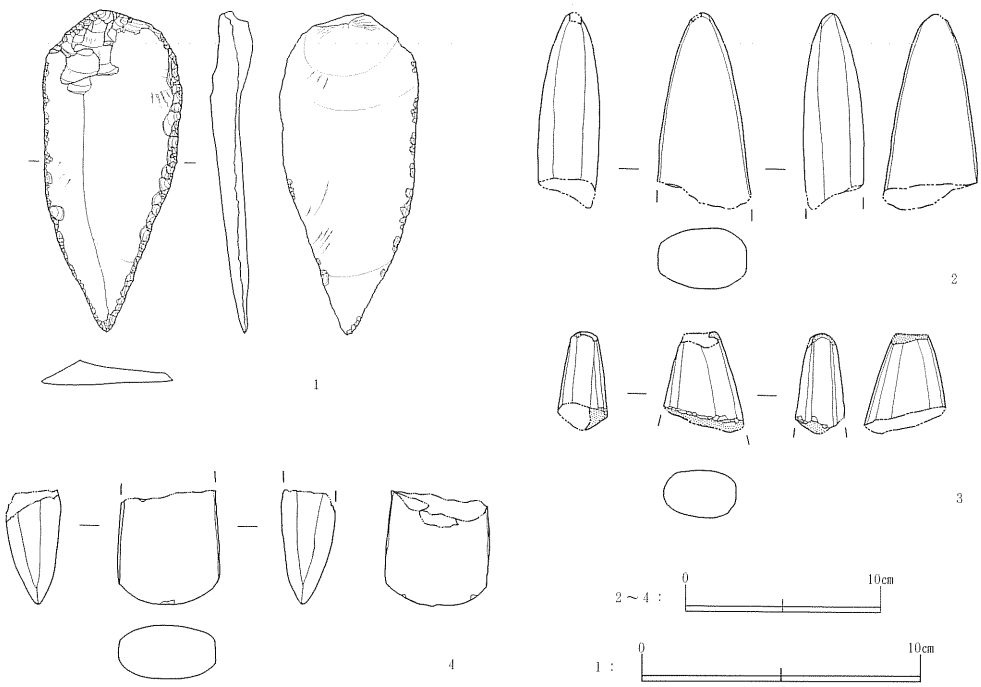


第54図　No.１トレンチ出土遺物実測・拓影図

第31表　出土遺物観察表

挿図番号	トレンチ・層位	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分類	備考
54－１	No.1トレンチ　火山灰層下位	深鉢胴部	太いRL縄文・沈線文	無文	Ⅵ－３－Ｃ	
54－２	No.1トレンチ　火山灰層上位	深鉢口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－１	
54－３	No.1トレンチ　火山灰層下位	深鉢	刷毛目文	無文	Ⅶ－８	
54－４	No.1トレンチ　火山灰層下位	深鉢	LR縄文	無文	Ⅶ－12	口唇指頭圧痕文

挿図番号	トレンチ・層位	器種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
54－５	No.1トレンチ　火山灰層下位	擦石	11	41	30	778	安山岩	１類	
54－６	No.1トレンチ　Ⅰ層	管状土製品	75	40		122			貫通孔有り



第55図　No.３トレンチ出土遺物実測図

第32表　出土遺物観察表

挿図番号	トレンチ・層位	器　　種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
55－１	No.3トレンチ	削器	111	50	11	50	頁岩	１類	
55－２	No.3トレンチ	磨製石斧	(70)	30	20	(215)	緑色凝灰岩	１－C	刃部欠損
55－３	No.3トレンチ	磨製石斧	(31)	30	11	(73)	緑色凝灰岩	１－V	刃部欠損
55－４	No.3トレンチ	磨製石斧	(40)	31	20	(136)	緑色凝灰岩	２類	

第17類　貝殻腹縁圧痕文と刺突文を施文した土器を一括したが、貝殻腹縁圧痕文の施文方法により細分した。

第17類－A　横条貝殻腹縁圧痕文を施文した土器。

第17類－B　斜条貝殻腹縁圧痕文を施文した土器。

第17類－C　縦位貝殻腹縁圧痕文を施文した土器。

第17類－D　横位貝殻腹縁圧痕文を施文した土器。

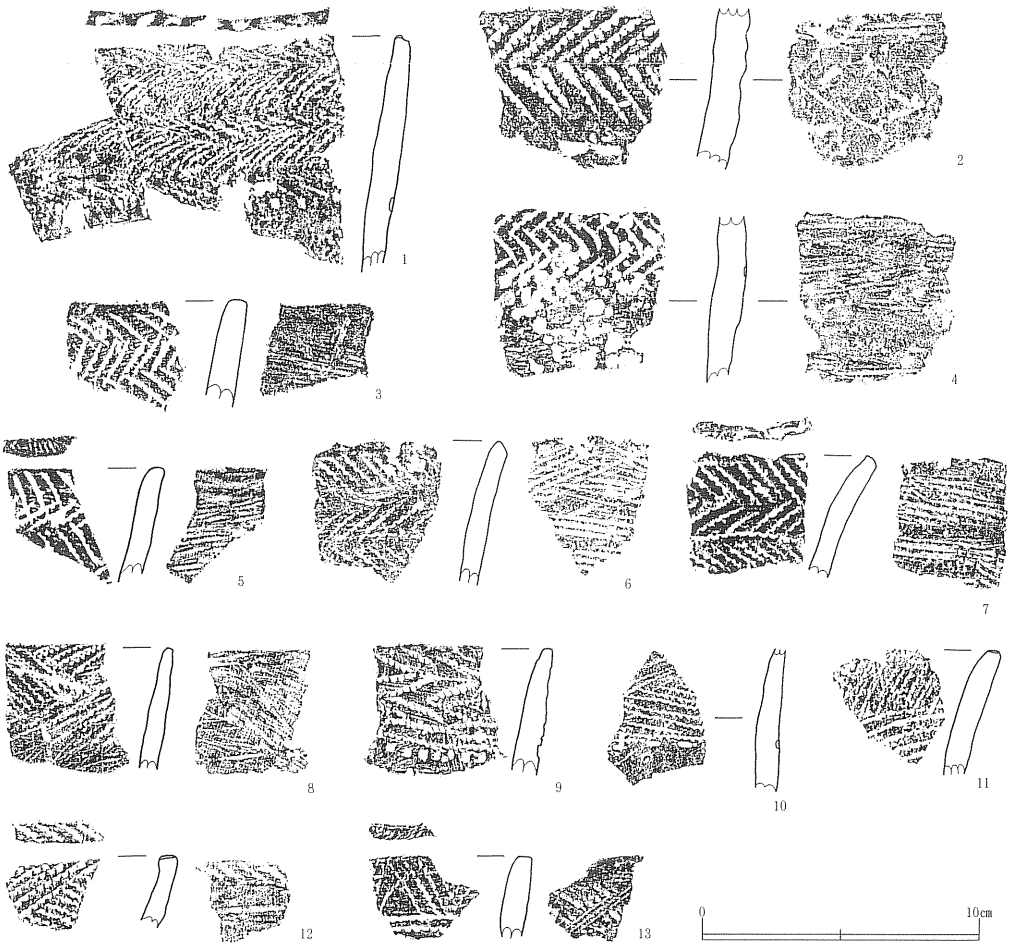
第17類－E　２種類以上の貝殻腹縁圧痕文を施文した土器。

第18類　斜位の貝殻腹縁文を地文として平行沈線文と刺突文を付加した文様構成をもつ土器。沈線文と刺突文の施文工具により２種に細分した。

第18類－A　半截竹管状工具による平行沈線文と竹管状工具による刺突文。

第18類－B　篦状工具による平行沈線文と棒状工具による刺突文（円形刺痕）。

第19類　貝殻腹縁圧痕文と半截竹管による押し引き文および貝殻条痕文を施文した土器。



第56図　遺構外出土遺物拓影図

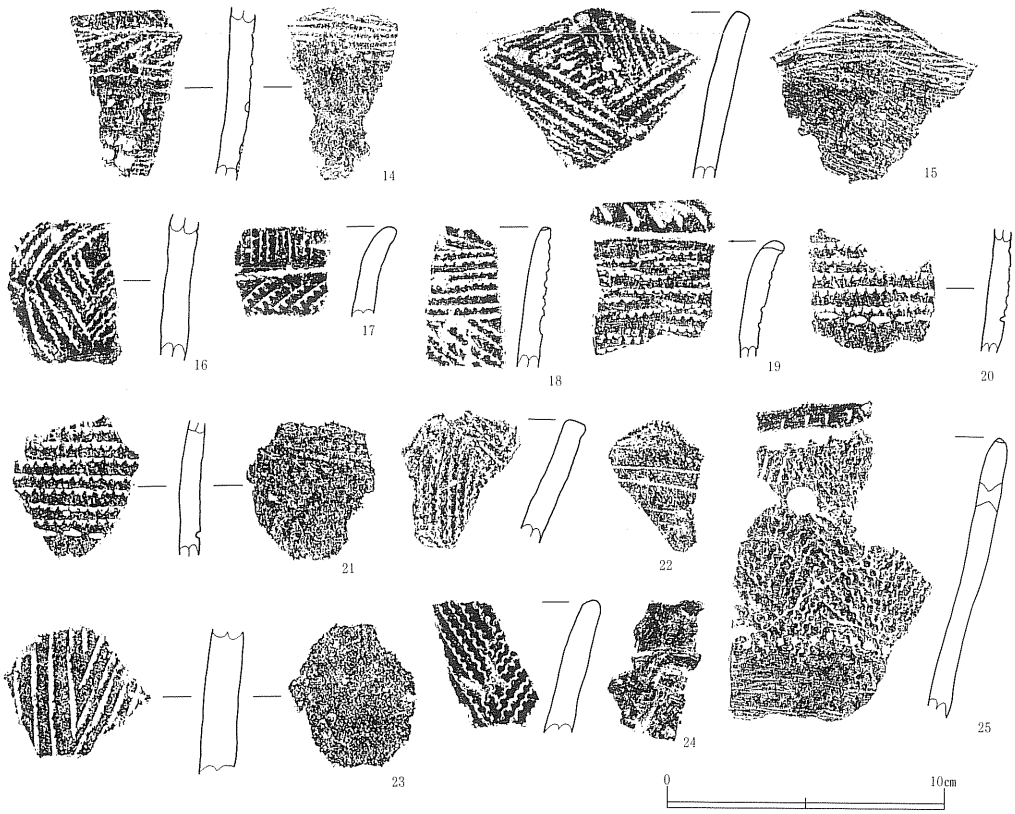
第33表　出土遺物観察表

挿図番号	グリッド名・層位	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
56－１	MA50 Ⅲ・LT49 Ⅳ	深鉢口縁部	横位羽状貝殻腹縁圧痕文・刺突文	無文	Ⅱ－17－D	口唇貝殻腹縁圧痕文
56－２	MB51 Ⅲ	深鉢口縁部	横位羽状貝殻腹縁圧痕文・刺突文	無文	Ⅱ－17－D	
56－３	LT48 Ⅱ	深鉢口縁部	横位羽状貝殻腹縁圧痕文	貝殻条痕文	Ⅱ－５	
56－４	LT48 Ⅲ	深鉢口縁部	横位羽状貝殻腹縁圧痕文	貝殻条痕文	Ⅱ－５	
56－５	LS48 Ⅱ	深鉢口縁部	横位羽状貝殻腹縁圧痕文	貝殻条痕文	Ⅱ－５	口唇貝殻腹縁圧痕文
56－６	LT50 Ⅱ	深鉢口縁部	横位羽状貝殻腹縁圧痕文	貝殻条痕文	Ⅱ－５	
56－７	LT49 Ⅲ	深鉢口縁部	横位羽状貝殻腹縁圧痕文	貝殻条痕文	Ⅱ－５	口唇貝殻腹縁圧痕文
56－８	MA49 Ⅲ	深鉢口縁部	斜条貝殻腹縁圧痕文	貝殻条痕文	Ⅱ－３	
56－９	LP47 Ⅱ	深鉢口縁部	横位羽状貝殻腹縁圧痕文・刺突文	無文	Ⅱ－17－D	
56－10	LT49 Ⅱ	深鉢胴部	横位羽状貝殻腹縁圧痕文・刺突文	無文	Ⅱ－17－D	
56－11	MB52 Ⅲ	深鉢口縁部	横位羽状貝殻腹縁圧痕文・斜条貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－４	
56－12	MB52 Ⅱ	深鉢口縁部	斜条貝殻腹縁圧痕文	貝殻条痕文	Ⅱ－３	口唇貝殻腹縁圧痕文
56－13	MB52 Ⅰ	深鉢口縁部	縦横斜格子状貝殻腹縁圧痕文・横斜格子状貝殻腹縁圧痕文	貝殻条痕文	Ⅱ－４	口唇貝殻腹縁圧痕文

第20類　貝殻腹縁押し引き文を地文とし、沈線文を付加した土器。

第Ⅲ群土器 縄文時代早期の貝殻条痕文の施文された土器を一括した。２類に細分した。

第１類　貝殻条痕文を器表面のみに施文した土器。



第57図　遺構外出土遺物拓影図

第34表　出土遺物観察表

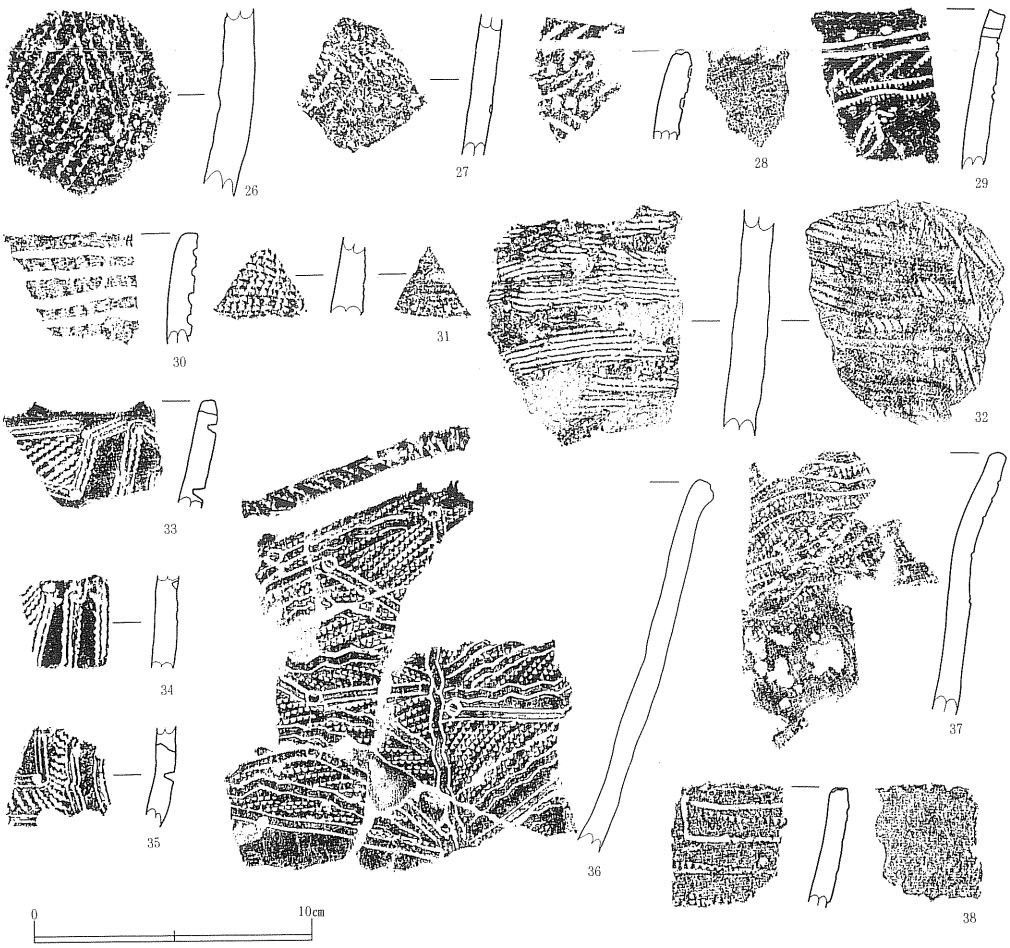
挿図番号	グリッド名・層位	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
57－14	MA49　Ⅲ	深鉢胴部	縦条貝殻腹縁圧痕文・斜条貝殻腹縁痕文・刺突文	貝殻条痕文	Ⅱ－17－E	
57－15	MA49　Ⅲ	深鉢口縁部	菱形斜条貝殻腹縁圧痕文	貝殻条痕文	Ⅱ－７	
57－16	LT52　Ⅱ	深鉢胴部	菱形斜条貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－７	
57－17	MA50　Ⅱ	深鉢口縁部	縦条貝殻腹縁圧痕文・斜条貝殻腹縁痕文	無文	Ⅱ－13	
57－18	MB51　Ⅲ	深鉢胴部	縦条貝殻腹縁圧痕文・斜条貝殻腹縁痕文	無文	Ⅱ－13	
57－19	LS50　Ⅲ	深鉢口縁部	貝殻腹縁文連続波状圧痕文	無文	Ⅱ－８	□唇貝殻腹縁圧痕文
57－20	MA52　Ⅱ	深鉢胴部	横条貝殻腹縁圧痕文・刺突文	無文	Ⅱ－17－A	
57－21	MA51　Ⅱ	深鉢胴部	横条貝殻腹縁圧痕文・刺突文	無文	Ⅱ－17－A	
57－22	LT51　Ⅱ	深鉢口縁部	斜条貝殻腹縁圧痕文・縦条貝殻腹縁痕文	無文	Ⅱ－13	
57－23	MB53　Ⅱ	深鉢胴部	縦位羽状貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－６	
57－24	LT50　Ⅱ	深鉢口縁部	縦位羽状貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－６	
57－25	LT51　Ⅲ	深鉢口縁部	横位羽状貝殻腹縁圧痕文・刺突文	無文	Ⅱ－17－C	□唇貝殻腹縁圧痕文・補修孔

第２類　貝殻条痕文を器表面と裏面に施文した土器。

第Ⅳ群土器　　縄文時代早期の沈線あるいは刺突文で文様構成する土器を一括した。２類に細分した。

第１類　短かい沈線を矢羽根状に数段施文した土器。

第２類　四角い刺突文を数段施文した土器。



第58図　遺構外出土遺物拓影図

第35表　出土遺物観察表

挿図番号	グリッド名・層位	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
58－26	LR46　Ⅱ・Ⅲ	深鉢胴部	菱形斜条貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－７	
58－27	LS48　Ⅰ	深鉢胴部	斜条貝殻腹縁圧痕文・刺突文	無文	Ⅱ-17-B	
58－28	MA53　Ⅱ	深鉢口縁部	斜条貝殻腹縁圧痕文・刺突文	無文	Ⅱ-17-B	口唇貝殻腹縁圧痕文
58－29	LS49　Ⅳ	深鉢口縁部	斜条貝殻腹縁圧痕文・横条貝殻腹縁圧痕文・沈線文・刺突文	無文	Ⅱ－13	
58－30	LT51　Ⅲ	深鉢口縁部	貝殻腹縁押し引き文・沈線文	無文	Ⅱ－20	
58－31	MA52　Ⅱ	深鉢胴部	貝殻腹縁押し引き文	無文	Ⅱ－９	
58－32	LP47　Ⅲ	深鉢胴部	貝殻腹縁押し引き文	無文	Ⅱ－11	
58－33	MA50　Ⅱ	深鉢口縁部	斜条貝殻腹縁圧痕文・棒状刺突文	無文	Ⅱ－16	
58－34	LS49　Ⅴ	深鉢胴部	斜条貝殻腹縁圧痕文・棒状刺突文	無文	Ⅱ－16	
58－35	LT50　Ⅱ	深鉢胴部	斜条貝殻腹縁圧痕文・棒状刺突文	無文	Ⅱ－16	
58－36	MA49　Ⅲ・MB50　Ⅱ	深鉢口縁部	斜条貝殻腹縁圧痕文・沈線文・棒状刺突文	無文	Ⅱ-18-A	口唇貝殻腹縁圧痕文
58－37	MA52　Ⅱ	深鉢口縁部	斜条貝殻腹縁圧痕文・沈線文・棒状刺突文	無文	Ⅱ-18-B	
58－38	MA51　Ⅱ	深鉢口縁部	横条貝殻腹縁圧痕文・クランク状貝殻腹縁圧痕文	無文	Ⅱ－14	

第Ⅴ群土器　　縄文時代早期の縄文を主要な施文原体とする土器である。施文部位により２類に細分した。

第１類　器表面のみに縄文を施文した土器であるが、裏面の調整により２種に細分した。

第１類－Ａ　裏面が無文の土器。

第１類－Ｂ　裏面に条痕がみられる土器。

第２類　縄文を器表面と裏面に施文した土器。

第Ⅵ群土器　　縄文時代中期の深鉢形土器を一括した。

第１類　口縁部に大形の弁状突起をもつ深鉢形土器で文様構成により細分した。

第１類－Ａ　大形の弁状突起をもつ肥厚した口縁で、頸部に刻み目状の撚糸圧痕列の施文した隆帯を巡らして口縁部文様帯を区画し、隆帯間に押圧縄文を充填した土器。

第１類－Ｂ　表裏に粘土紐を貼付した大形の弁状突起をもち、縄文地に２～３条１組の直線的な沈線文を垂下・横走させる土器。

第２類　胴部中央がやや膨らむ器形を呈し、太いＲＬ縄文を地文とする土器で沈線文のモチーフにより細分した。

第２類－Ａ　胴部中央に緩やかな波状沈線文を一巡させて文様帯を区画し、上半に２条１組の沈線による幅広な波状文を一巡させ口縁部を磨消している土器。

第２類－Ｂ　３条１組の平行沈線文で上下を区画し、連続波状文を充填施文した土器。

第３類　縄文を地文として施文の後、幅広の沈線文を横走・垂下させた土器。口縁形状と部位により細分した。

第３類－Ａ　平縁の口縁を呈する破片。

第３類－Ｂ　波状口縁を呈する破片。

第３類－Ｃ　胴部のみの破片。

第４類　外反する口縁部を磨消し、胴部にＲＬ縄文を地文として施文する。２条１単位の沈線による垂下文を描く土器。

第５類　肩部の張った器形を呈し、口縁部は磨消し、肩部以下にＲＬ縄文を地文として施文する。２～３条１単位の沈線による垂下文を描く土器。刺突文の有無で細分した。

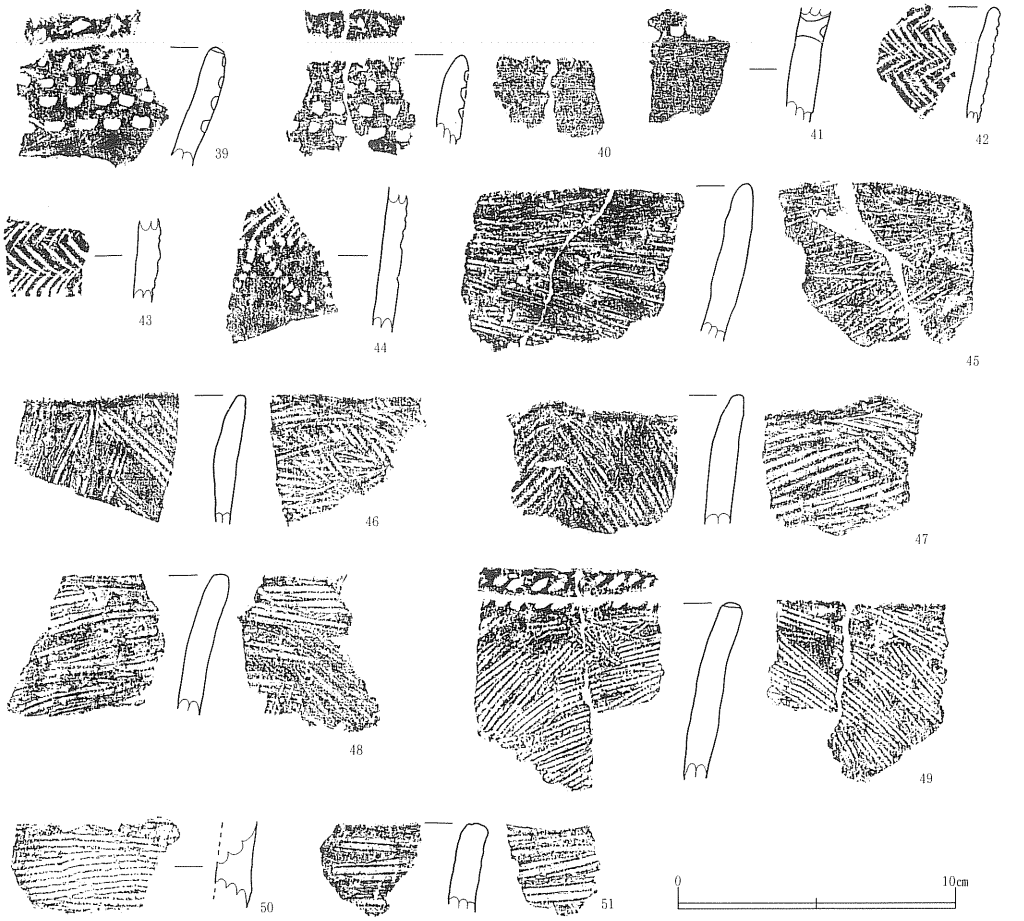
第５類－Ａ　肩部に刺突列を１条巡らす土器。

第５類－Ｂ　刺突文の施文されない土器。

第Ⅶ群土器　　縄文時代後期の深鉢形土器を一括した。器形と文様構成により13類に分類した。

第１類　平縁の口縁部に２個１単位と１個１単位の小さな山形突起をもち、胴部上半に波状の帯縄文を主体とする文様帯をもつ土器。

第２類　口縁部が内湾気味に立ち上がる器形で器表全面に縄文を施文した土器。口縁形状に



第59図　遺構外出土遺物拓影図

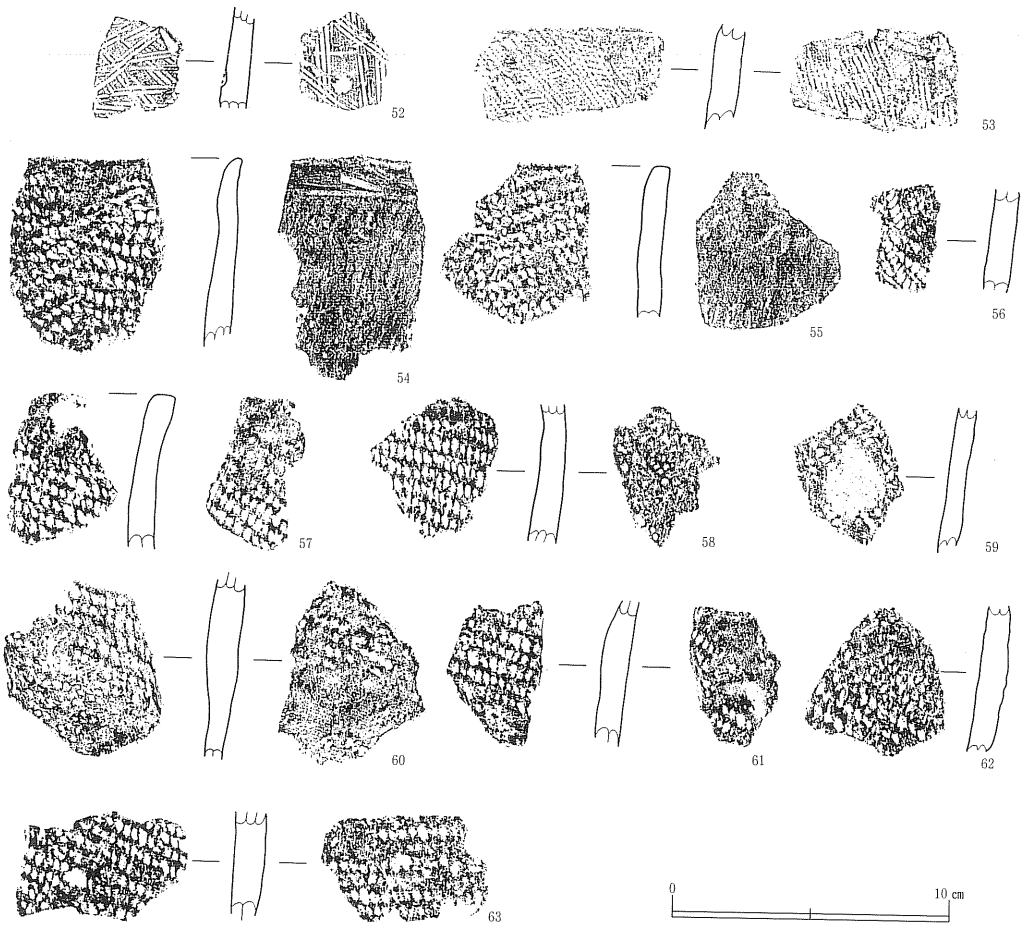
第36表　出土遺物観察表

挿図番号	グリッド名・層位	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
59－39	MA52　Ⅱ	深鉢口縁部	刺突文	無文	Ⅳ－２	口唇刻目
59－40	MA52　Ⅱ	深鉢口縁部	刺突文	無文	Ⅳ－２	口唇刻目
59－41	MA52　Ⅱ	深鉢胴部	矢羽根状沈線文	無文	Ⅳ－２	補 修 孔
59－42	MA52　Ⅱ	深鉢口縁部	矢羽根状沈線文	無文	Ⅳ－１	口唇刻目
59－43	MA52　Ⅱ	深鉢胴部	矢羽根状沈線文・刺突文	無文	Ⅳ－１	
59－44	MA52　Ⅱ	深鉢胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅳ－１	
59－45	MB57　Ⅰ	深鉢口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	
59－46	LT48　Ⅳ	深鉢口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	
59－47	MA51　Ⅱ	深鉢口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	
59－48	MA53　Ⅱ	深鉢口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	
59－49	MB53　Ⅱ	深鉢口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	口唇刻目
59－50	LP47　Ⅱ	深鉢胴部	貝殻条痕文	無文	Ⅲ－１	
59－51	LT57　Ⅱ	深鉢口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	

より細分した。

第２類－Ａ　平縁の口縁を呈する土器。

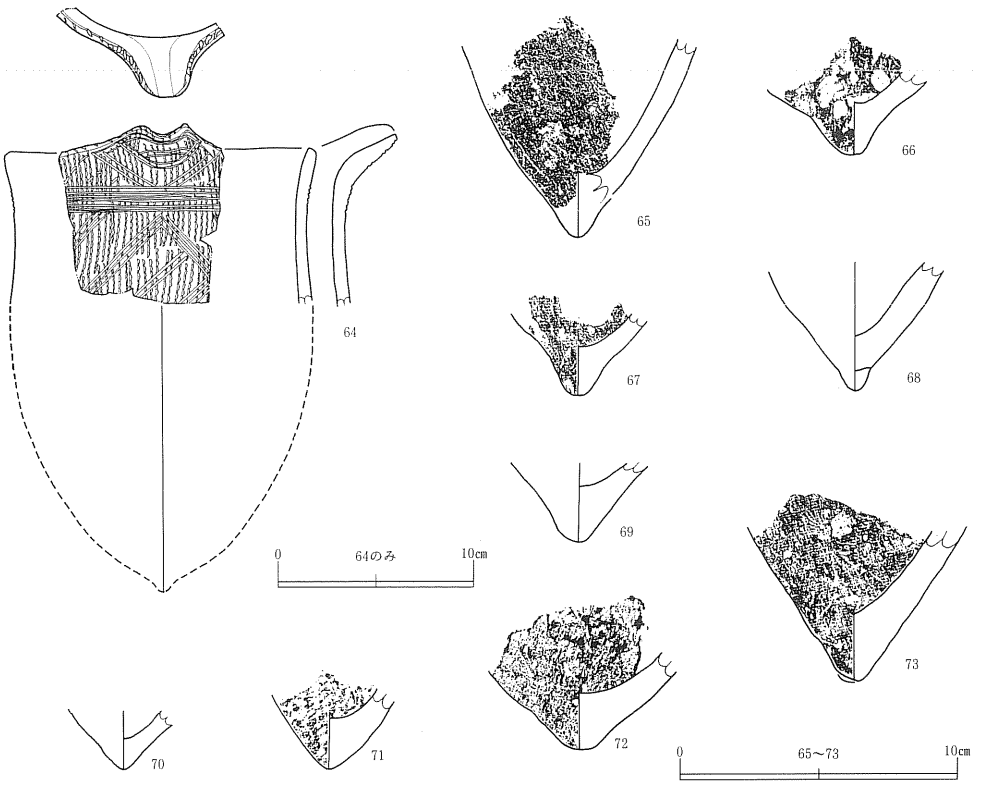
第２類－Ｂ　小波状の口縁を呈する土器。



第60図　遺構外出土遺物拓影図

第37表　出土遺物観察表

挿図番号	グリッド名・層位	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
60－52	LT50　Ⅱ	深鉢胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	
60－53	MB53　Ⅱ	深鉢胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	Ⅲ－２	
60－54	LT51　Ⅱ	深鉢口縁部	RL縄文	無文	Ⅴ－１－A	
60－55	LT51　Ⅱ	深鉢口縁部	RL縄文	無文	Ⅴ－１－A	
60－56	LS48　Ⅳ	深鉢胴部	RL縄文	無文	Ⅴ－１－A	
60－57	MB51　Ⅱ	深鉢口縁部	RL縄文	RL縄文	Ⅴ－２	
60－58	MC50　Ⅲ	深鉢胴部	RL縄文	RL縄文	Ⅴ－２	
60－59	LQ47　Ⅱ	深鉢胴部	RL縄文	無文	Ⅴ－１－A	
60－60	MB51　Ⅱ	深鉢胴部	RL縄文	RL縄文	Ⅴ－２	
60－61	MB51　Ⅱ	深鉢胴部	RL縄文	RL縄文	Ⅴ－２	
60－62	MA49　Ⅱ	深鉢胴部	RL縄文	無文	Ⅴ－１－A	
60－63	LT51　Ⅱ	深鉢胴部	RL縄文	RL縄文	Ⅴ－２	



第61図　遺構外出土遺物実測・拓影図

第38表　出土遺物観察表

挿図番号	グリッド名・層位	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分類	備考
61－64	LS48　Ⅲ	片口付深鉢口縁部	縦条貝殻腹縁圧痕文・平行沈線文	無文	Ⅱ－12	口唇貝殻腹縁圧痕文
61－65	LT49　Ⅲ	深鉢底部	無文	無文	Ⅰ	
61－66	MA51　Ⅲ	深鉢底部	無文	無文	Ⅰ	
61－67	LT48　Ⅲ	深鉢底部	無文	無文	Ⅰ	
61－68	MA53　Ⅲ	深鉢底部	無文	無文	Ⅰ	
61－69	MA51　Ⅲ	深鉢底部	無文	無文	Ⅰ	
61－70	MA52　Ⅰ	深鉢底部	無文	無文	Ⅰ	
61－71	MA49　Ⅲ	深鉢底部	RL縄文	無文	Ⅰ－1－A	
61－72	MA53　Ⅰ	深鉢底部	無文	無文	Ⅰ	
61－73	LT50　Ⅱ	深鉢底部	無文	無文	Ⅰ	

第３類　平縁の口縁を呈し、入組様の帯状文を施文した土器。貼瘤の付加の有無により細分した。

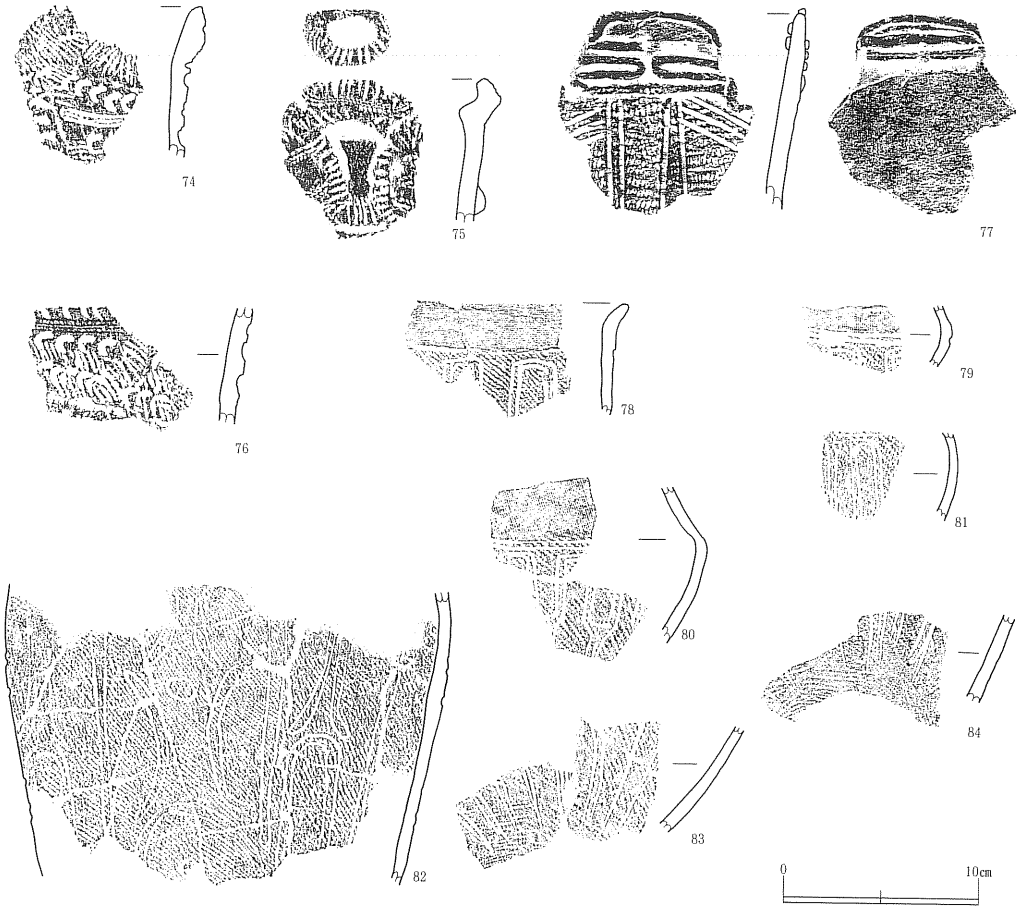
第３類－Ａ　貼瘤のある土器。

第３類－Ｂ　貼瘤のない土器。

第４類　波状の口縁で入組様の帯状文と貼瘤を施文した土器。

第５類　口縁部に小さく鋭い山形突起をもつ土器。

第６類　貼瘤を施文した大きな波状口縁をもつ土器。



第62図　遺構外出土遺物拓影図

第39表　　第39表　出土遺物観察表

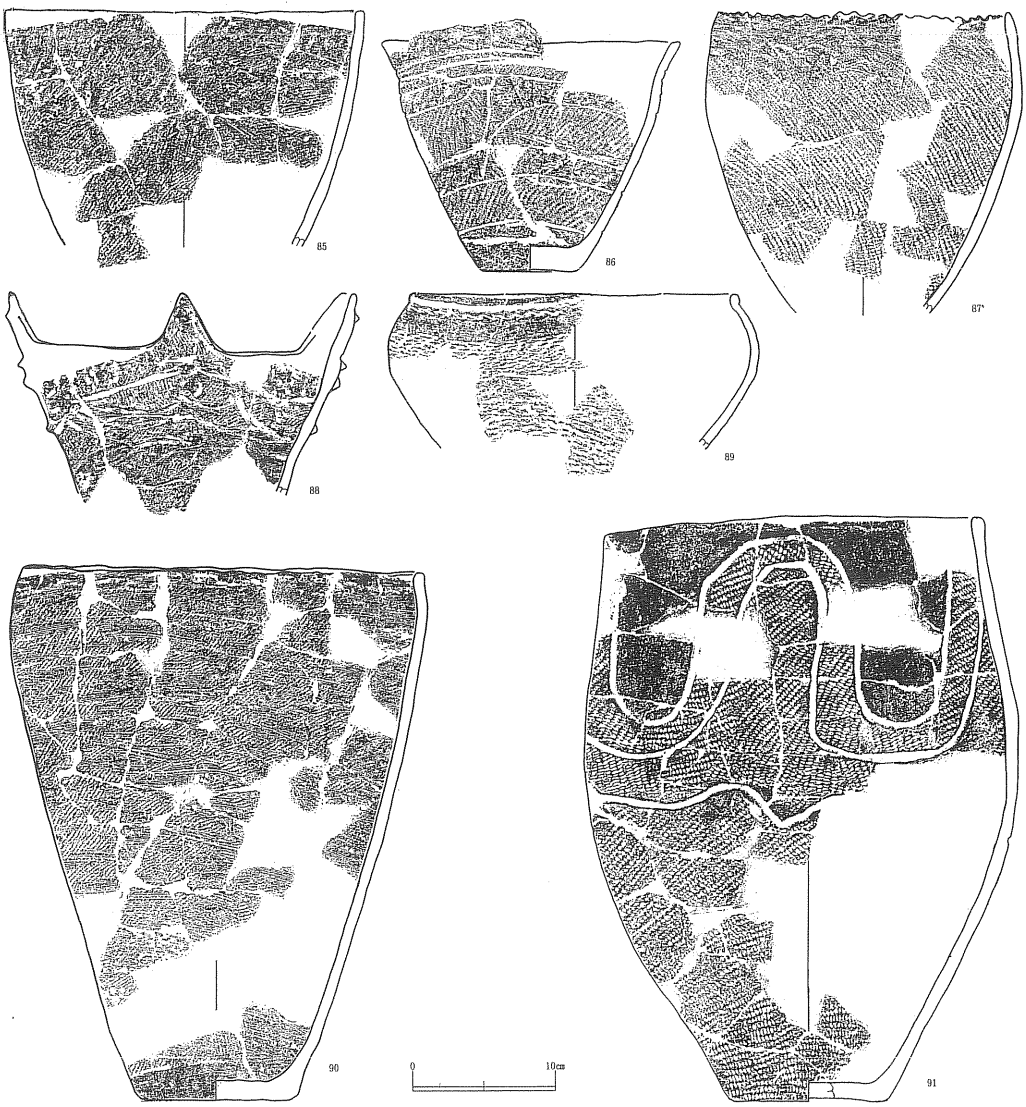
挿図番号	グリッド名・層位	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分類	備考
62－74	MA53　Ⅰ	深鉢口縁部	隆帯・押圧縄文	無文	Ⅳ－1－A	
62－75	MA52　Ⅰ	深鉢口縁部	隆帯・押圧縄文	無文	Ⅳ－1－A	
62－76	MA53　Ⅰ	深鉢口縁部	隆帯・押圧縄文	無文	Ⅳ－1－A	
62－77	LS49　Ⅱ	深鉢口縁部	粘土紐付・RL縄文・沈線文	無文	Ⅳ－1－B	
62－78	MA49　Ⅱ	深鉢口縁部	RL縄文・沈線垂下文	無文	Ⅳ－4	
62－79	LS47　Ⅲ	深鉢胴部	RL縄文・平行沈線文・沈線垂下文	無文	Ⅳ－5	
62－80	LS48　Ⅱ	深鉢胴部	RL縄文・平行沈線文・沈線垂下文	無文	Ⅳ－5	
62－81	LT48　Ⅱ	深鉢胴部	RL縄文・平行沈線文・沈線垂下文	無文	Ⅳ－5	
62－82	MA49　Ⅱ・Ⅲ	深鉢胴部	RL縄文・沈線垂下文・楕円形文・円形文	無文	Ⅳ－5	
62－83	LS48　Ⅱ	深鉢底辺部	RL縄文・沈線垂下文	無文	Ⅳ－5	
62－84	LT48　Ⅱ	深鉢底辺部	RL縄文・沈線垂下文	無文	Ⅳ－5	

第７類　矢羽根状の沈線文と貼瘤を施文した土器。

第８類　器表全面に刷毛目文を施文した土器。

第９類　羽状縄文を施文した土器。

第10類　平行沈線文と磨消縄文を施文した土器。



第63図　遺構外出土遺物拓影図

第40表　出土遺物観察表

挿図番号	グリッド名・層位	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分類	備考
63－85	LS49Ⅱ	深鉢目縁～胴上半	LR縄文	無文	Ⅶ－2－A	
63－86	LR48・LP49Ⅱ	深鉢	入組様帯状文・沈線文・充填縄文	無文	Ⅶ－3－B	
63－87	LQ47Ⅰ	深鉢目縁～胴下半	LR縄文	無文	Ⅶ－2－B	口唇指頭圧痕文
63－88	LS48Ⅱ・LS49Ⅱ	深鉢目縁～胴上半	人組様状文・貼瘤	無文	Ⅶ－4	
63－89	MA51Ⅲ・MB53Ⅱ・Ⅲ	深鉢目縁～胴上半	綾操文・縄巻撚糸	無文	Ⅶ－12	
63－90	MA49Ⅱ・MA50Ⅲ	深鉢	刷毛目文・RL縄文	無文	Ⅶ－2－B	
63－91	MA49Ⅱ・Ⅲ	深鉢	RL縄文・波状沈線文・磨消縄文	無文	Ⅵ－2－A	

第11類　撚糸文を施文した土器。

第12類　小波状の口縁で肩部が張り出す器形を呈し、縄文を施文した土器。

第13類　無文の土器。

第Ⅷ群土器　　縄文時代後期の浅鉢形土器。器形から２類に細分した。

第１類　底径が口径の１／３程度で、底部から口縁部へ急激に立ち上がる土器。

第２類　底径が口径の１／４程度で、底部から口縁部へ緩やかに立ち上がる土器で口縁部の形状からさらに２細分した。

第２類－Ａ　平縁の口縁を呈する土器。

第２類－Ｂ　平縁の口縁に三頭１単位の突起を付加した土器。

第Ⅸ群土器　　縄文時代後期の壷形土器を一括するが、器形と文様構成により８類に細分した。

第１類　フラスコ型の長頸壷形土器。体部への文様施文の有無により２種に細分する。

第１類－Ａ　体部に２条１単位の平行沈線文を網目状に施文した長頸壷形土器。

第１類－Ｂ　体部が無文の長頸壷形土器。

第２類　大きく外傾する口縁部をもち、貼瘤のある長頸壷形土器。

第３類　体部に入組様の帯状文を施文した壷形土器。

第４類　体部に沈線文を施文し、沈線の交差部分に貼瘤を付加した壷形土器。

第５類　２条の沈線を弧状に施文し、赤色顔料を塗布した壷形土器。

第６類　茄子型の器形で無文の壷形土器。

第７類　無頸の壷形土器。

第８類　羽状縄文を施文した壷形土器。

第Ⅹ群土器　　縄文時代後期の注口土器を一括するが、器形と文様構成により８類に細分した。

第１類　体部に２段の綾繰り様の帯状文を施文した土器。

第２類　体部に巴形様の帯状文と貼瘤を施文した土器。

第３類　体部に入組様の帯状文を施文した土器。貼瘤の付加の有無により細分した。

第３類－Ａ　貼瘤のある土器。

第３類－Ｂ　貼瘤のない土器。

第４類　体部に刷毛目文と貼瘤を施文した土器。

第５類　２条の沈線(肩部下方・体部下半)で体部を文様区画した土器。

第６類　肩部に沈線文と刺突文および貼瘤を施文した土器。

第７類　肩部と注口部に沈線文と貼瘤を施文した土器。

第８類　肩部に貼瘤を施文した土器。

第Ⅺ群土器　　縄文時代後期の香炉形土器である。

第ＸⅡ群土器　　縄文時代後期の異形台付土器で文様構成により２細分した。

第１類　入組様の帯状文と貼瘤を施文した土器。

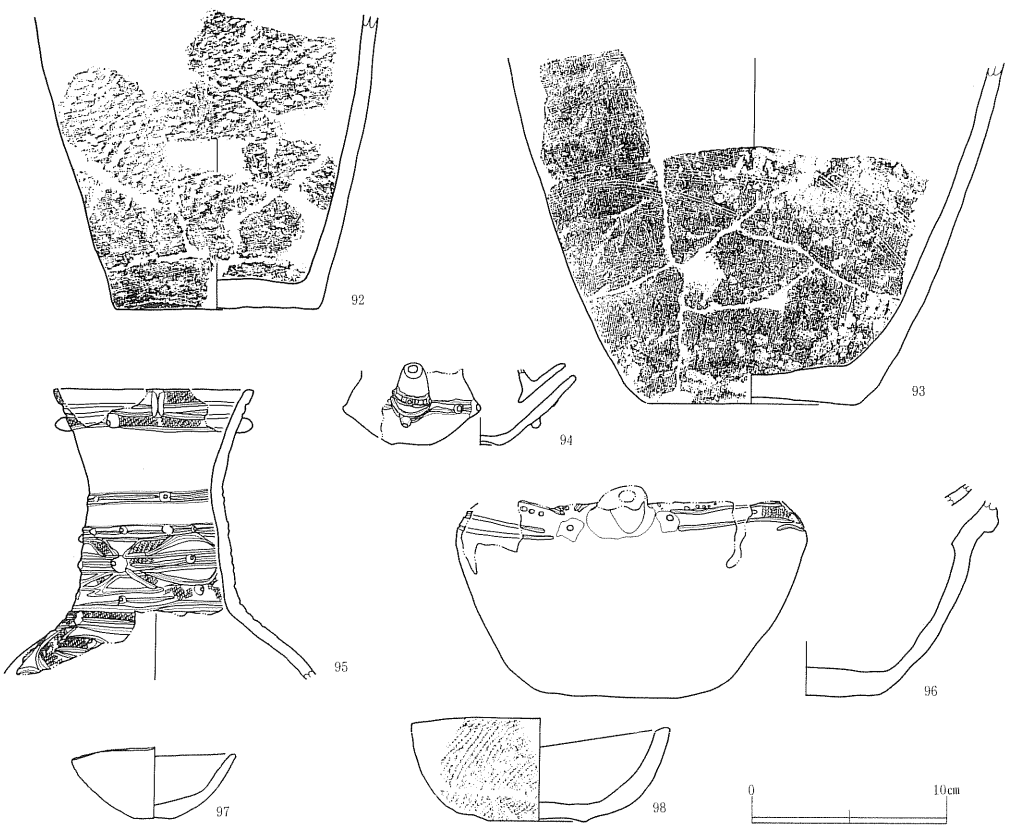
第２類　刻み目を充填した平行沈線文を施文した土器。

第ＸⅢ群土器　縄文時代後期の台付浅鉢形土器を一括するが、器形で２類に細分した。

第１類　平縁の口縁の３カ所に、貫通孔をもつ突起を付けた土器。

第２類　平縁の口縁で無文の土器。

第ＸⅣ群土器　縄文時代後期の台付皿形土器である。



第64図　遺構外出土遺物実測・拓影図

第41表　出土遺物観察表

挿図番号	グリッド名・層位	器種・部位	外面施文・調整	内面施文・調整	分　類	備　　考
64－92	MA49　Ⅲ	深鉢底部	RL縄文	無文		
64－93	LS49　Ⅱ・MA50　Ⅲ	深鉢底部	刷毛目文	無文		
64－94	LS49　Ⅱ	注口土器　注口部	平行沈線・貼瘤	無文	Ⅹ－7	
64－95	LS48　Ⅱ・LT48　Ⅱ	長頸壺　頸部	入組様帯状文・充填縄文・沈線文・貼瘤	無文	Ⅳ－2	
64－96	LS47　Ⅲ・LS48　Ⅱ	注口土器　胴部	平行沈線文・刺突文・貼	無文	Ⅹ－6	
64－97	LO44	浅鉢	無文	無文	Ⅶ－2－A	
64－98	LT48　Ⅱ・LS49　Ⅱ	浅鉢	LR縄文	無文	Ⅷ－1	

石器・石製品

石器・石製品は石鏃、石錐、石槍、石匙、篦状石器、掻器、削器、トランシェ様石器、打製石斧、磨製石斧、半円状扁平打製石器、くぼみ石、石錘、擦石、石臼状石製品、円盤状石製品が出土した。このうち出土量が多い石鏃、石錐、石槍、石匙、篦状石器、掻器、削器、トランシェ様石器、磨製石斧、くぼみ石、石錘、擦石を形態的に分類した。

石鏃　形態から１類：凹基無茎式、２類：平基有茎式、３類：凸基有茎式、４類：円基式の４類に分類した。

石錐　形態と調整技法から１類：三角形を呈する剥片の２辺に二次調整を加えて錐部を作出したもの、２類：一端が細くなる剥片に両側縁の両面から二次調整を加えたものの２類に分類した。

石槍　１類：尖頭部が鋭角で、幅が狭く断面形が凸レンズ状を呈するもの、２類：尖頭部・基部とも鈍角で幅が狭く断面形が凸レンズ状を呈するものの２類に分類した。

石匙　つまみの中軸線と器中軸線あるいは刃部(側縁)の交わる角度によって、１類：縦型、２類：横型、３類：斜型の３類に分類した。

篦状石器　第一次剥離でできた剥片の縁辺あるいは自然面に細かい剥離調整して刃部を作出したもので、平面形と刃部の形態から、１類：撥形を呈し、直刃・片刃、２類：撥形を呈し、直刃・両刃、３類：撥形を呈し、丸刃・片刃、４類：撥形を呈し、丸刃・両刃、５類：短冊形を呈し、直刃・片刃、６類：短冊形を呈し、丸刃・片刃の６類に分類した。

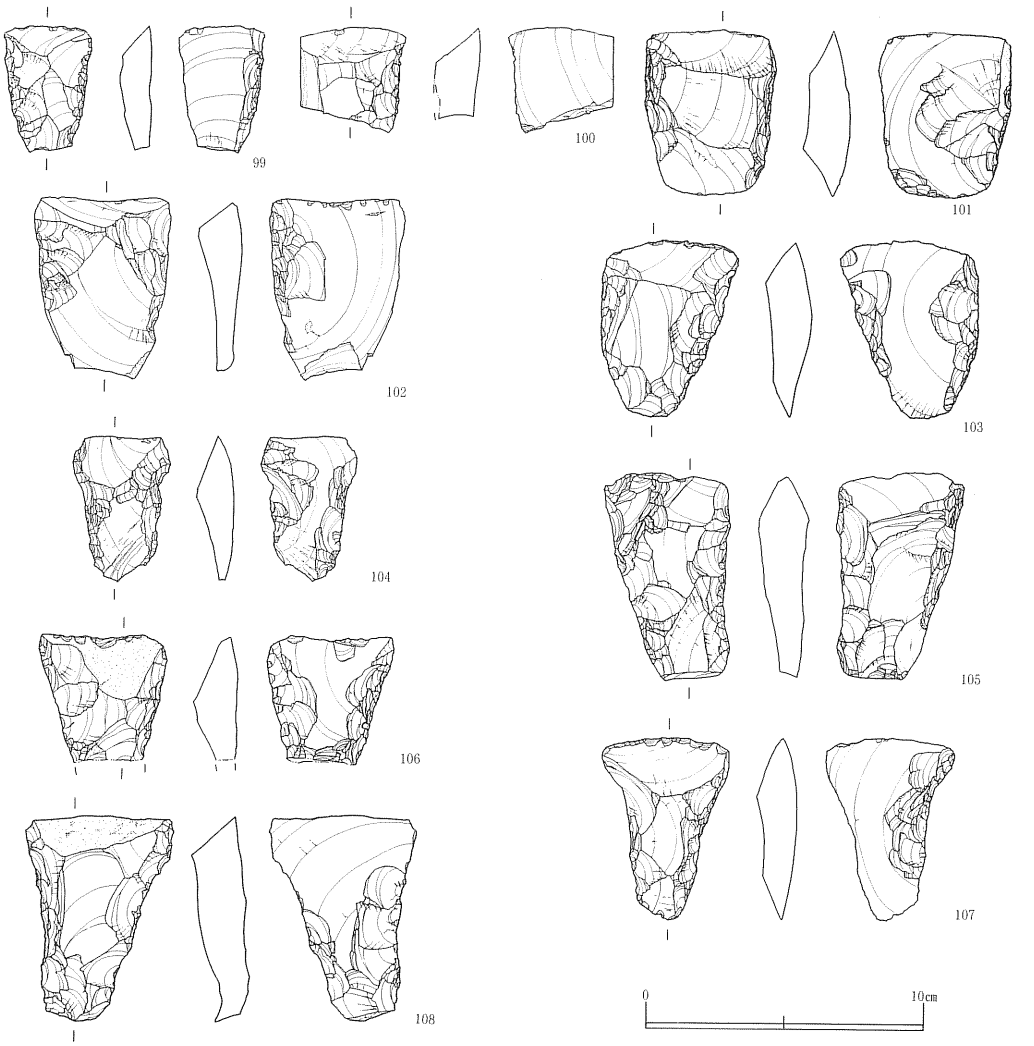
掻器　分厚い剥片に片面調整による急角度の刃部を作出したもので、１類：全周に加撃し円形に刃部を作出したもの、２類：剥片の一端に刃部を作出したものの２類に分類した。

削器　剥片の縁辺に連続的な二次調整によって刃部を作出したもので、１類：細長くてやや厚い剥片の両側縁に急角度の刃部を作出したもの、２類：弧状の剥片の側縁に調整を加えたもので、調整が一側縁（２類－Ａ）と両側縁（２類－Ｂ）に加えたものがある。

トランシェ様石器　第一次剥離でできた剥片の鋭い縁辺あるいは自然面を刃部とした石器。平面形から１類：側縁が直線になるもの、２類：側縁がくびれるもの、３類：側縁がふくらみをもつものの３類に分類した。

磨製石斧　製作方法と刃部形状から分類した。１類：擦切技法により切断・製作したもので、直刃・両凹刃(１類－Ａ)、円刃・両凸刃(１類－Ｂ)、刃部欠損(１類－Ｃ)に３細分できる。２類：礫を打撃・研磨して製作したもので、円刃・弱凸強凸片刃である。使用による刃潰れが見られるものもある。

くぼみ石　敲打によるくぼみが、１類：片面にのみ、２類：両面に有するものの２類に分類した。

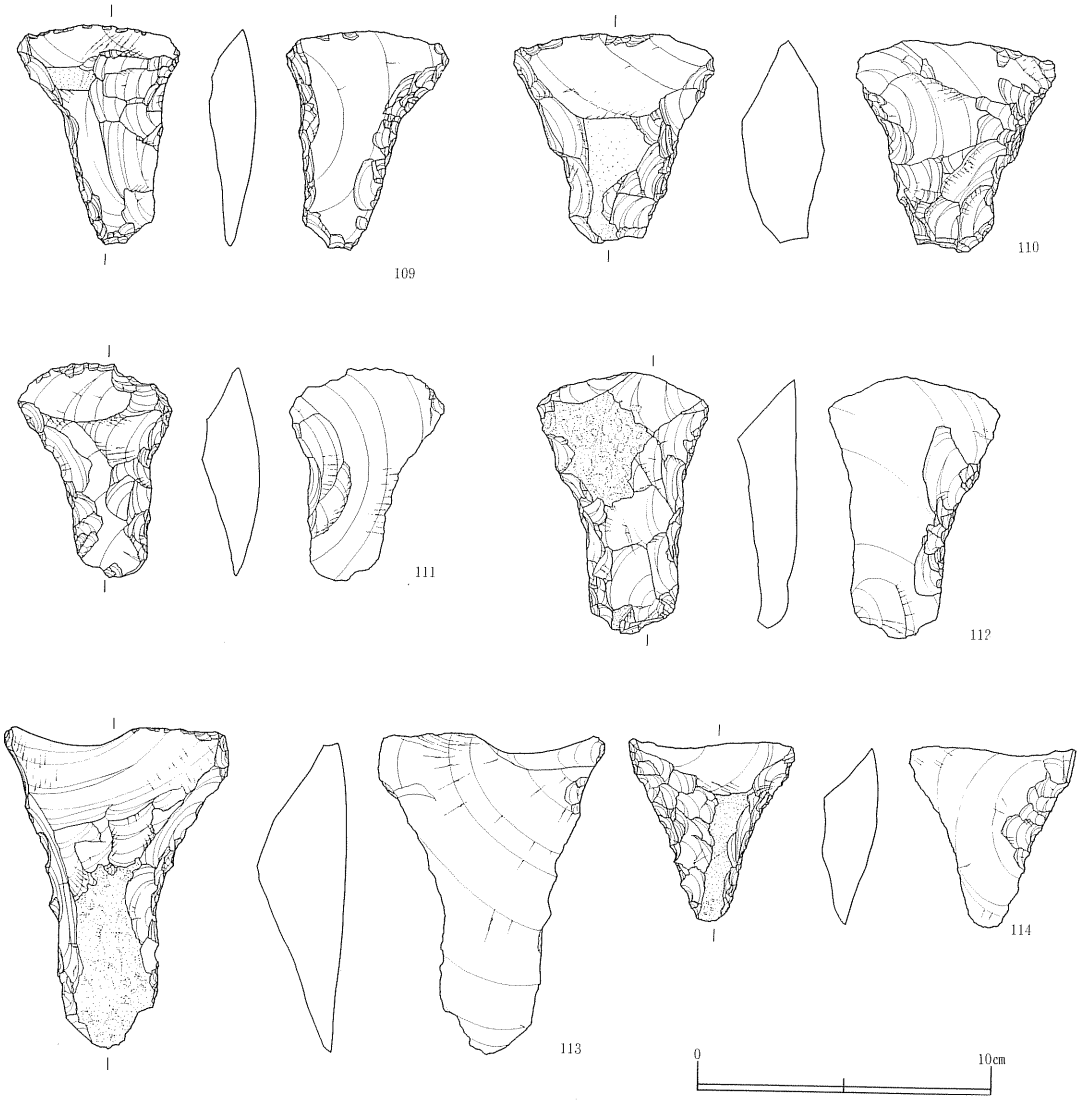


第65図　遺構外出土遺物実測図

第42表　出土遺物観察表

挿図番号	グリッド名・層位	器　種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
65－99	LR47　Ⅰ	トランシェ様石器	41	30	10	16	頁　岩	１類	
65－100	MB53　Ⅱ	トランシェ様石器	31	31	11	24	頁　岩	２類	
65－101	MB52(SD1)	トランシェ様石器	60	41	11	54	頁　岩	３類	
65－102	MA49　Ⅲ	トランシェ様石器	61	41	11	44	頁　岩	３類	
65－103	LQ47(SD1)	トランシェ様石器	60	50	11	43	頁　岩	３類	
65－104	MA　Ⅲ	トランシェ様石器	50	31	10	20	頁　岩	２類	
65－105	LS50　Ⅲ	トランシェ様石器	71	41	11	59	頁　岩	１類	
65－106	MB54　Ⅳ	トランシェ様石器	(41)	41	11	(32)	頁　岩	１類	
65－107	MA49　Ⅳ	トランシェ様石器	61	41	11	31	頁　岩	２類	
65－108	LS50　Ⅰ	トランシェ様石器	70	50	20	65	頁　岩	１類	

石錘　扁平な礫に両面から打ち欠きののち敲打を行って抉りを完成させたもので、平面形と抉



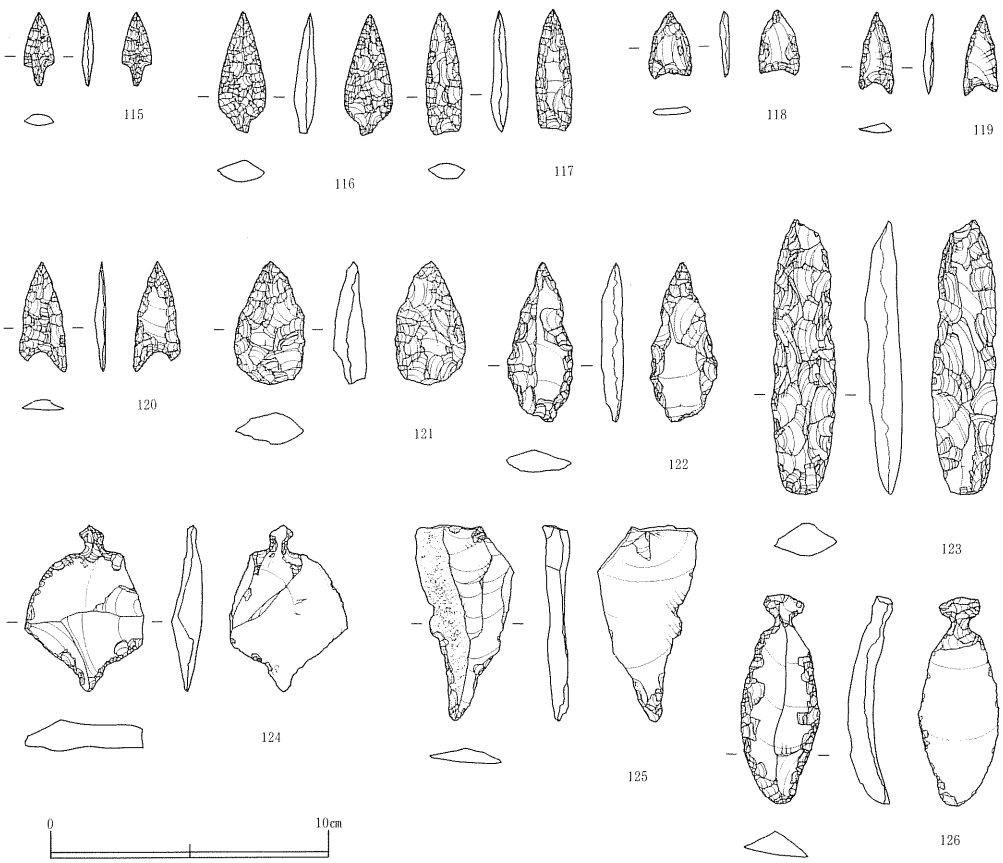
第66図　遺構外出土遺物実測図

第43表　出土遺物観察表

挿図番号	グリッド名・層位	器　種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
66－109	MB52　Ⅳ	トランシェ様石器	71	51	11	54	頁　岩	２類	
66－110	MB53　Ⅲ	トランシェ様石器	70	61	20	10	頁　岩	４類	
66－111	MA51　Ⅲ	トランシェ様石器	70	50	20	48	頁　岩	２類	
66－112	LP47　Ⅲ	トランシェ様石器	81	51	20	85	頁　岩	２類	
66－113	LT48　Ⅲ	トランシェ様石器	110	71	30	16	頁　岩	５類	
66－114	MA52　Ⅱ	トランシェ様石器	60	51	11	41	頁　岩	３類	

りの位置から、１類：長楕円形で長軸の両端に抉りをもつもの、２類：長楕円形で短軸の両端に抉りをもつもの、３類：円形で両端に抉りをもつものの３類に分類した。

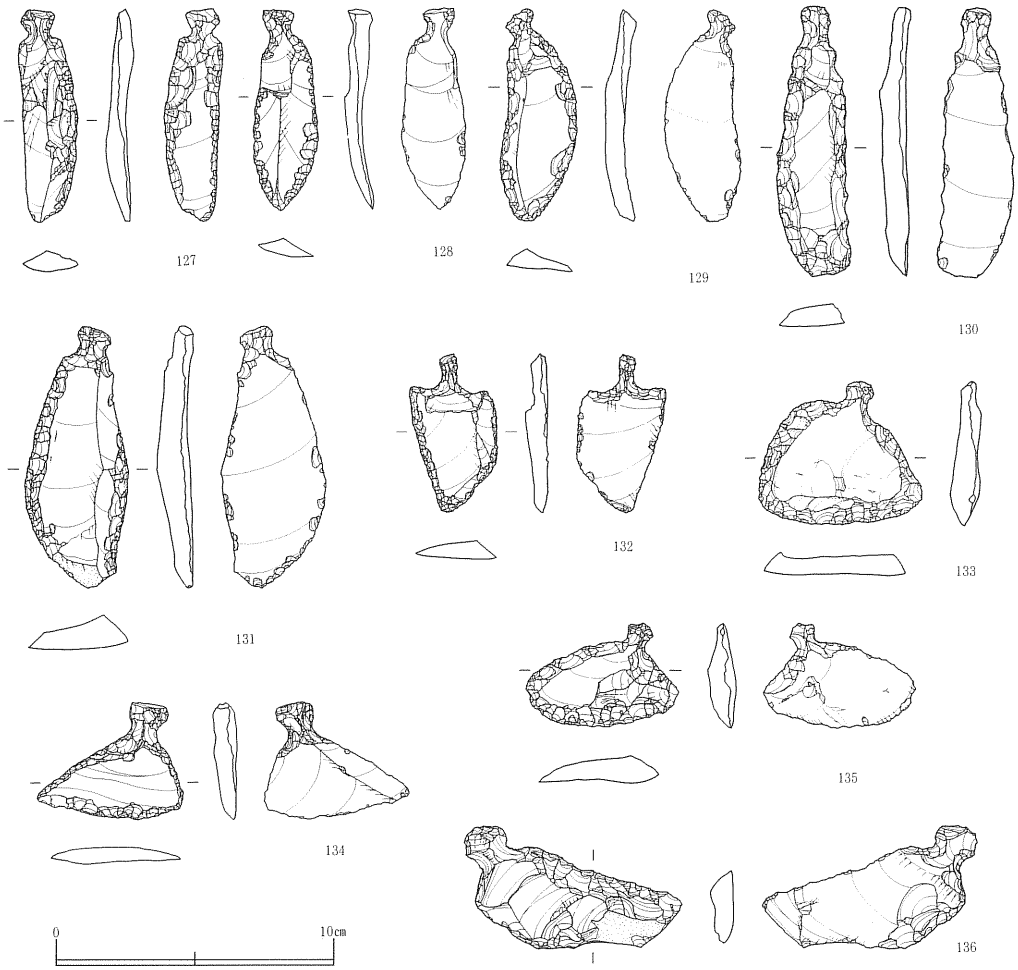
擦石　擦面の範囲から、１類：礫材の表面全部、２類：礫材の一側縁の２類に分類した。



第67図　遺構外出土遺物実測図

第44表　出土遺物観察表

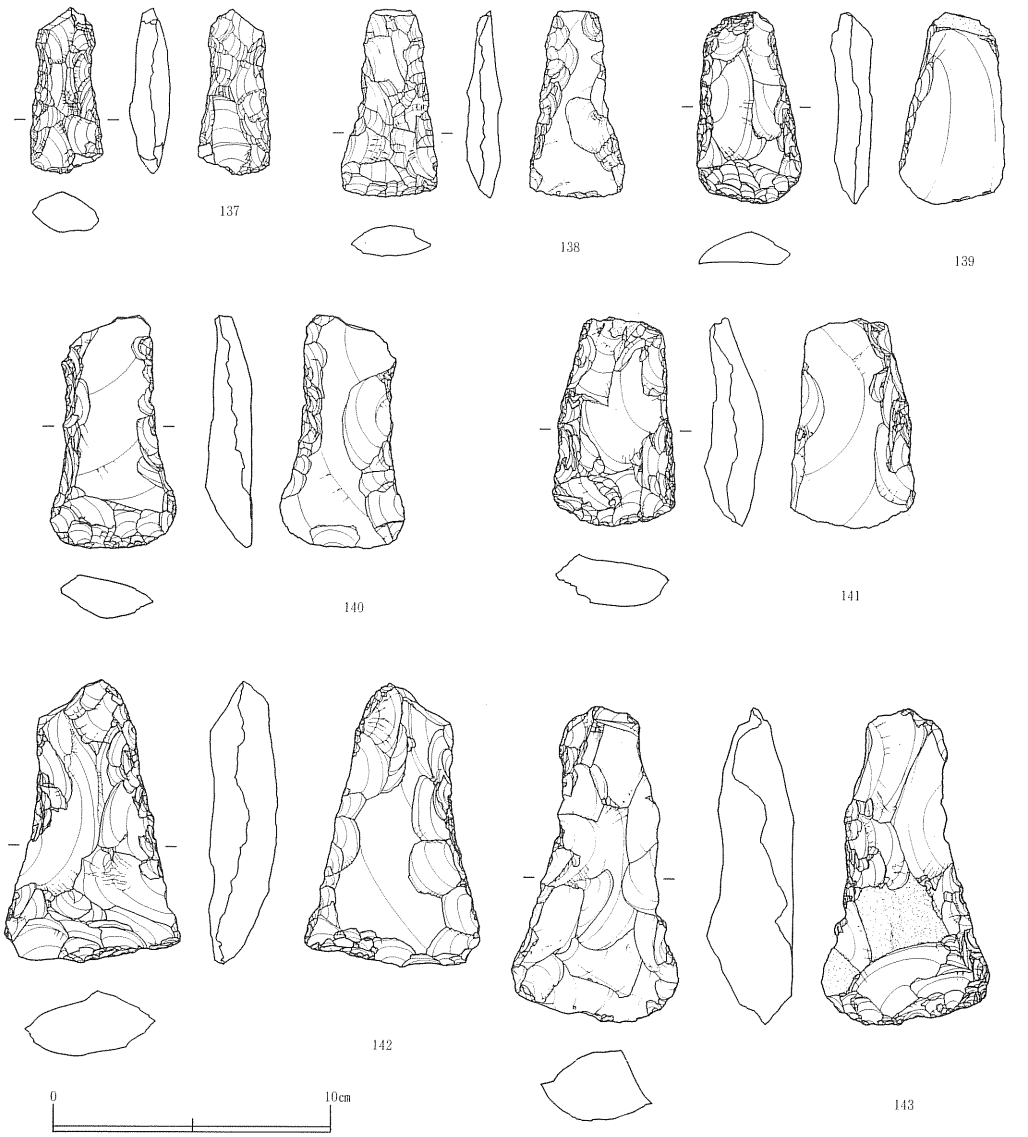
挿図番号	グリッド名・層位	器　種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
67－115	MA53　Ⅰ	石鏃	21	11	4	1	頁　岩	2類	
67－116	LS48　Ⅱ	石鏃	40	11	8	4	頁　岩	3類	
67－117	MA50　Ⅲ	石鏃	40	10	7	3	頁　岩	1類	
67－118	MA53　Ⅱ	石鏃	20	11	3	1	頁　岩	1類	
67－119	MB52　Ⅲ	石鏃	30	10	4	1	頁　岩	1類	
67－120	MA52　Ⅱ	石鏃	40	11	4	1	頁　岩	1類	
67－121	MB53　Ⅱ	石鏃	41	21	10	6	頁　岩	4類	
67－122	MB52　Ⅱ	石槍	51	20	8	13	頁　岩	1類	
67－123	MC53　Ⅲ	石槍	91	20	10	27	頁　岩	2類	
67－124	MB51　Ⅱ	石錐	60	40	10	19	頁　岩	1類	石匙の再利用
67－125	MA52　Ⅱ	石錐	70	31	10	14	頁　岩	2類	
67－126	LS49　Ⅱ	石匙	71	21	11	17	頁　岩	1類	



第68図　遺構外出土遺物実測図

第45表　出土遺物観察表

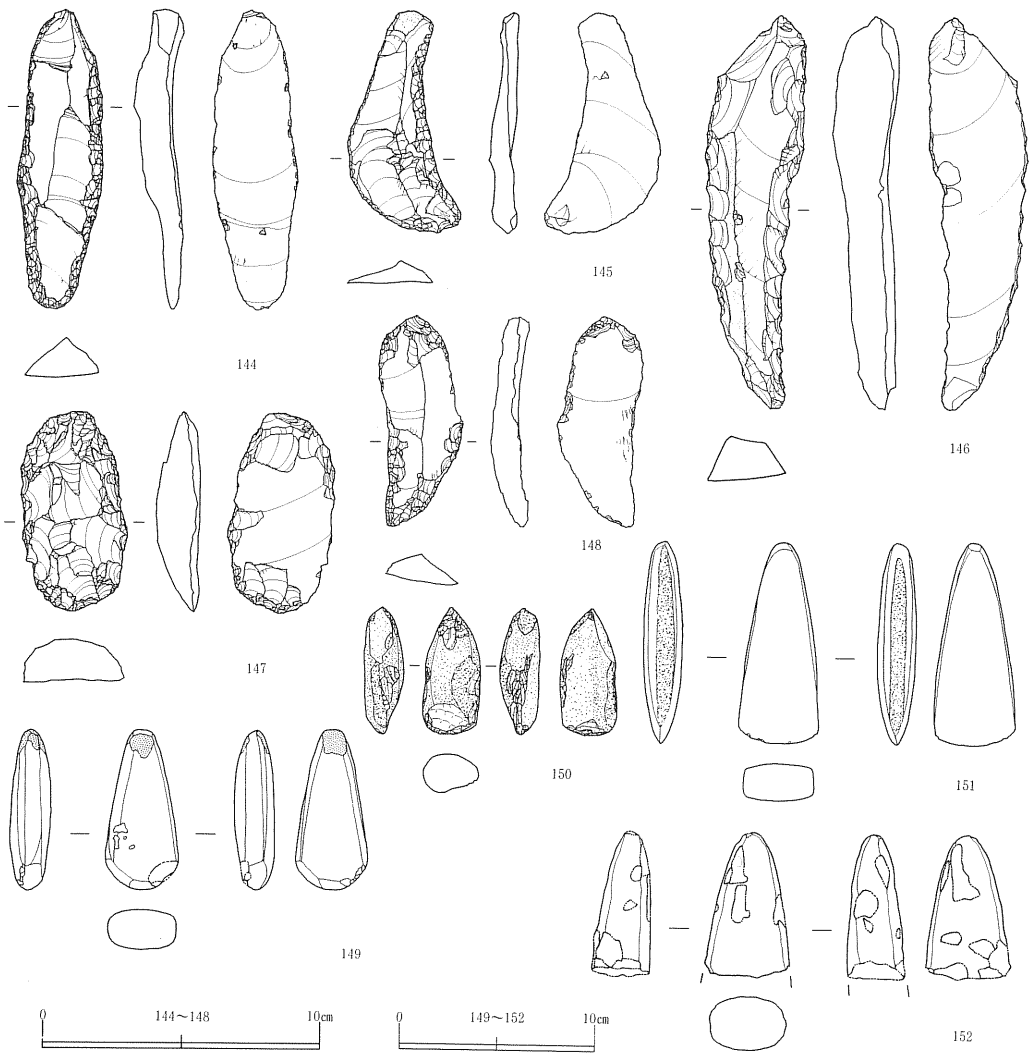
挿図番号	グリッド名・層位	器　種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
68－127	LT50　Ⅱ	石匙	71	20	10	12	頁　岩	１類	
68－128	LQ47　Ⅰ	石匙	70	20	10	9	頁　岩	１類	
68－129	LT49　Ⅱ	石匙	71	21	10	14	頁　岩	１類	
68－130	LT51　Ⅱ	石匙	91	20	10	25	頁　岩	１類	
68－131	LT50　Ⅱ	石匙	90	31	10	33	頁　岩	１類	
68－132	MA53　Ⅱ	石匙	51	30	8	9	頁　岩	１類	
68－133	LR48　Ⅱ	石匙	51	50	10	26	頁　岩	２類	
68－134	LS48　Ⅱ	石匙	50	40	9	12	頁　岩	２類	
68－135	LS48　Ⅱ	石匙	50	31	10	15	頁　岩	２類	
68－136	LR49　Ⅱ	石匙	71	40	8	26	頁　岩	３類	



第69図　遺構外出土遺物実測図

第46表　出土遺物観察表

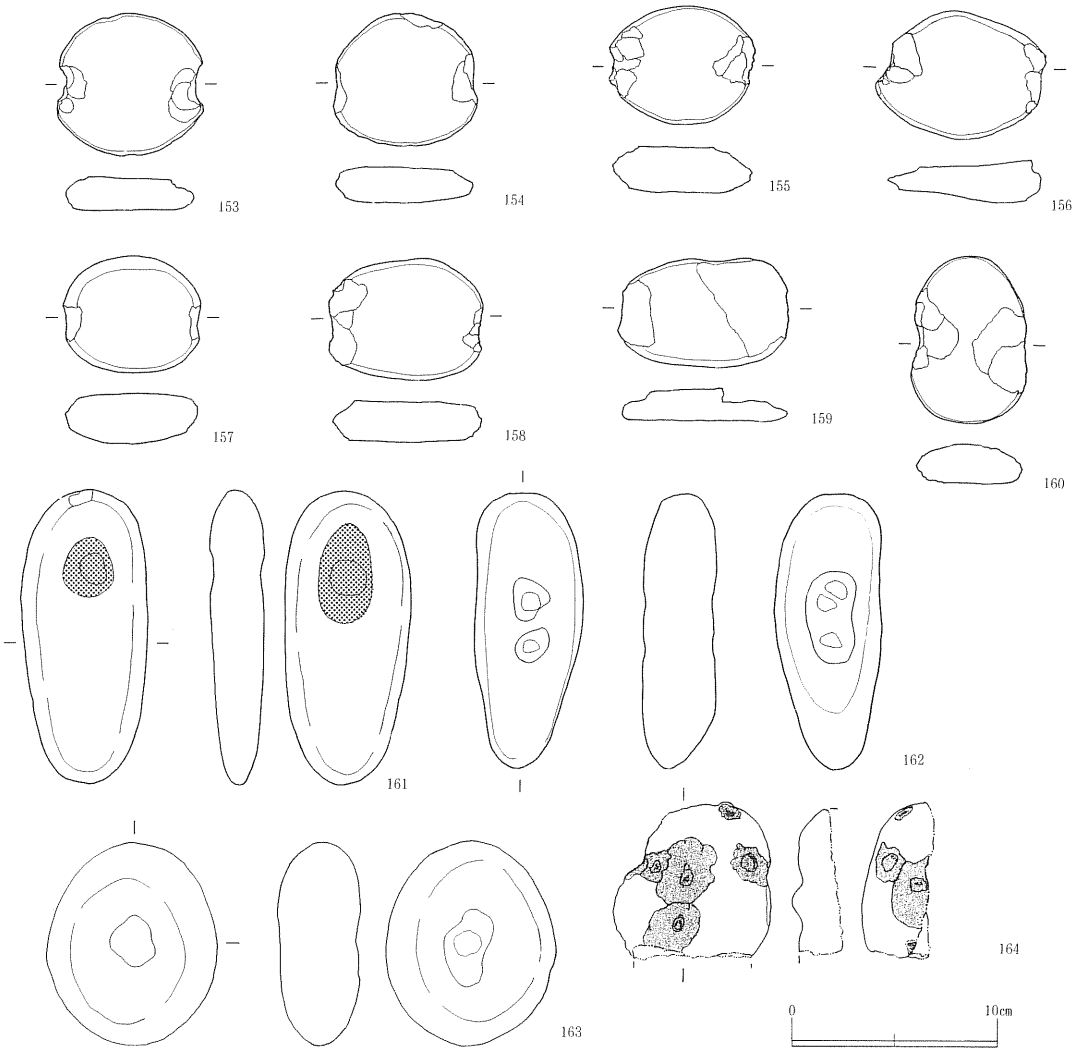
挿図番号	グリッド名・層位	器　種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
69－137	LS49　Ⅱ	篦状石器	60	21	10	63	頁　岩	５類	
69－138	MB52　Ⅳ	篦状石器	61	31	10	25	頁　岩	２類	
69－139	MA50　Ⅲ	篦状石器	61	31	11	35	頁　岩	４類	
69－140	LS48　Ⅱ	篦状石器	80	41	11	56	頁　岩	３類	
69－141	MA51　Ⅱ	篦状石器	71	41	20	60	頁　岩	４類	
69－142	MA50　Ⅲ	篦状石器	100	60	21	126	頁　岩	２類	
69－143	MB52　Ⅲ	篦状石器	110	60	30	159	頁　岩	２類	



第70図　遺構外出土遺物実測図

第47表　出土遺物観察表

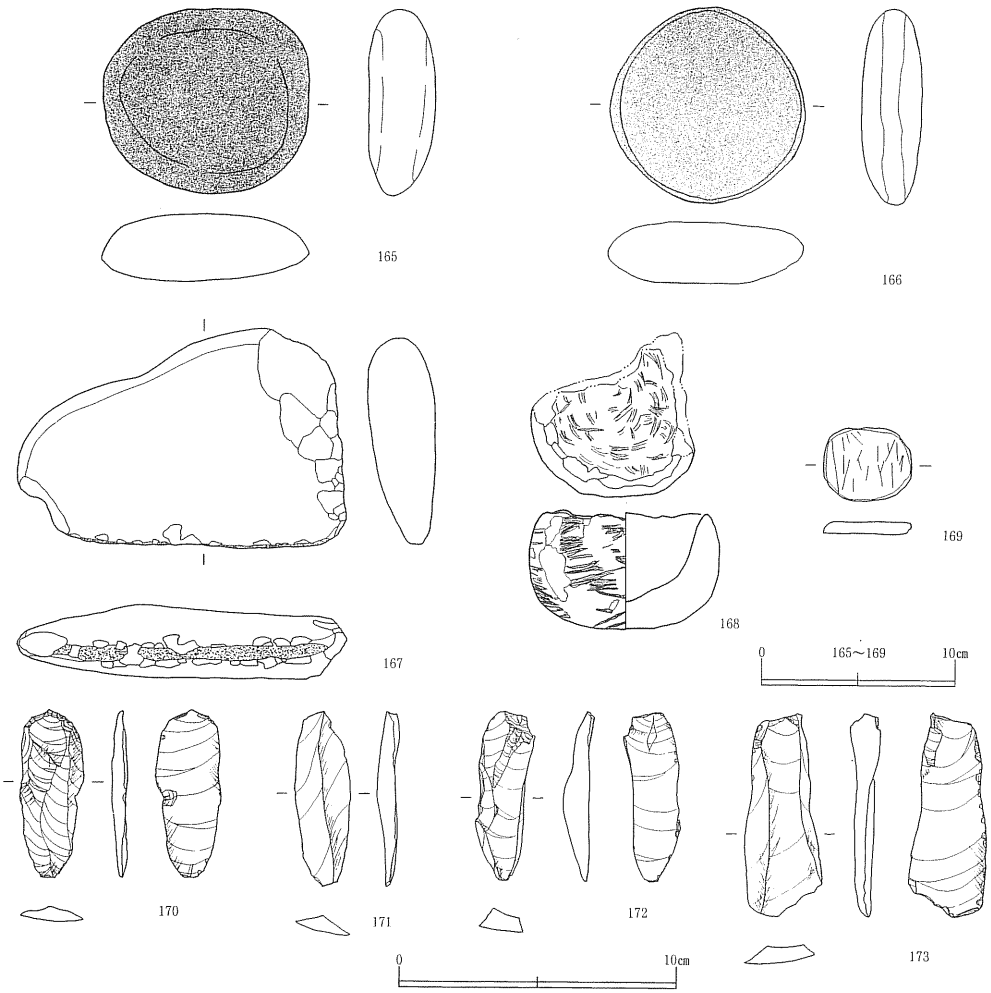
挿図番号	グリッド名・層位	器　種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
70－144	LQ48　Ⅰ	掻器	101	30	11	37	頁　岩	1類	
70－145	MA50　Ⅲ	削器	80	40	10	16	頁　岩	2－A類	
70－146	MB53　Ⅱ	削器	140	31	20	85	頁　岩	2－B類	
70－147	MA50　Ⅲ	掻器	70	31	11	47	頁　岩	1類	
70－148	LS48　Ⅱ	削器	71	30	10	21	頁　岩	2－B類	
70－149	LP47　Ⅲ	磨製石斧	51	21	11	100	緑色凝灰岩	1－B類	
70－150	MB50　Ⅲ	磨製石斧	41	20	10	54	緑色凝灰岩	2類	
70－151	MB51　Ⅱ	磨製石斧	70	21	10	136	緑色凝灰岩	1－B類	
70－152	MA53　Ⅱ	磨製石斧	(50)	30	20	(128)	緑色凝灰岩	1－C類	



第71図　遺構外出土遺物実測図

第48表　出土遺物観察表

挿図番号	グリッド名・層位	器　種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
71－153	LS48　Ⅱ	石錐	50	41	10	119	安山岩	３類	
71－154	MA49　Ⅲ	石錐	41	41	10	128	安山岩	３類	
71－155	MB50　Ⅲ	石錐	50	40	11	112	安山岩	１類	
71－156	MA50　Ⅱ	石錐	51	40	11	115	安山岩	１類	
71－157	LT51　Ⅱ	石錐	41	40	11	151	安山岩	１類	
71－158	MA49　Ⅲ	石錐	50	40	10	126	安山岩	１類	
71－159	MA53　Ⅱ	石錐	51	31	10	119	安山岩	１類	
71－160	LT51　Ⅱ	石錐	51	31	10	114	安山岩	２類	
71－161	LT49　Ⅰ	くぼみ石	100	40	11	329	安山岩	２類	
71－162	LT48(SD6)	くぼみ石	91	31	21	364	安山岩	２類	
71－163	LT49　Ⅱ	くぼみ石	70	51	21	401	安山岩	２類	
71－164	MA49　Ⅱ	くぼみ石	(50)	(50)	(11)	(194)	安山岩	１類	



第72図　遺構外出土遺物実測図

第49表　出土遺物観察表

挿図番号	グリッド名・層位	器　種	計測値（mm・g）				石質	分類	備考
			長さ	最大幅	最大厚	重さ			
72－165	LR48　Ⅲ	擦石	71	61	21	523	安山岩	１類	
72－166	LT52　Ⅱ	擦石	70	70	20	480	安山岩	１類	
72－167	表面採集	半円状偏平打製石器	120	80	20	972	安山岩		
72－168	LT48　Ⅱ	鉢状石製品	61	40		207	凝灰岩		
72－169	MA50　Ⅱ	円盤状石製品	31	21	5	16	凝灰岩		
72－170	MB53　Ⅲ	剥片	60	20	6		頁　岩		
72－171	MA49　Ⅱ	剥片	60	20	9		頁　岩		
72－172	LT48　Ⅲ	剥片	60	20	10		頁　岩		
72－173	MA53　Ⅱ	剥片	70	31	10		頁　岩		

第5章　まとめ

今回の寒沢遺跡の発掘調査では、農道建設予定地内の800㎡という限られた範囲にもかかわらず、縄文時代早期・中期・後期の遺構・遺物を多く検出・出土した。個別の遺構・遺物については前章で述べているが、ここでは発掘調査の成果と今後の課題を抽出してみたい。

縄文時代早期の尖底土器群について

縄文時代早期の尖底土器群については、層位的にあるいは原位置で確認できたものが少ないことに加え、貝殻腹縁文系、貝殻条痕文系、縄文系、無文系の各土器が同一レベル・層位で共伴出土したことから編年的な作業の良好な資料とは言い難い。土器の器形は全容の判るものがわずか1点であり、破片資料から判断せざるを得ない状況であるが、体部の形状には砲弾形とキャリパー形の2種類が、底部の形状には砲弾形と乳房・乳頭形の2種類がある。口縁部形状は平縁、波状(大・小)が見られるが、器形との関係については不明である。口縁部形状については、施文文様との関係が認められる。例えば縦位羽状貝殻腹縁圧痕文の施文されたものや沈線文・刺突文の付加された文様のものには口縁部形状が波状を呈し、横位羽状貝殻腹縁圧痕文など横方向に展開する文様のものは平縁が多い。また、口唇部への施文も指頭圧痕文、刻み目(刺突文)、貝殻腹縁圧痕文、貝殻腹縁押し引き文などが観察される。これらの相関関係については今後検討を加える必要がある。

貝殻腹縁文系の土器を一括した第Ⅱ群土器のうち、第1類～第13類は吹切沢式系統の土器、第14類～第18類が物見台式系統の土器の範疇と捉えることができよう。さらに第Ⅱ群土器第16類と分類した土器は、物見台式系統の千歳式土器b類に比定できる。また、第Ⅱ群土器第18類と分類した土器は、プロポーション(器形)が吹切沢式系、文様構成が物見台式系という2系統の要素が認められる土器である。

第Ⅳ群土器第1類と分類した短い沈線を矢羽根状に数段施文した土器は、横位羽状貝殻腹縁圧痕文のモチーフを短い沈線で描出したと考えると、常世式の範疇で捉え得る土器であろう。

早期の土器の中で特筆されるのは、第61図64の片口付の貝殻文土器片の出土である。従来、片口付土器の初見は関東地方縄文時代前期の関山式土器とされてきたが、本遺跡の出土例はそれよりも古い早期に製作されたことを示している。本遺跡の片口付の貝殻文土器は、地文の貝殻腹縁圧痕文の施文方向に違いが見られるものの平行沈線文によるモチーフが近似する青森県三沢市根井沼(1)遺跡出土例に類例を求め得ると考える。

貝殻腹縁文・貝殻条痕文など貝殻文系の尖底土器群や無文の尖底土器群の編年的位置等についても、施文原体・文様構成とともにさらに分析し、周辺の鳶ケ長根　遺跡・本道端遺跡・横沢遺跡・野沢岱遺跡・野沢岱Ⅰ遺跡・山館上ノ山遺跡などと比較検討することにより米代川上流域

の早期土器の様相が明らかになろう。

縄文時代後期の竪穴住居跡と土器について

縄文時代後期の竪穴住居跡は7軒検出したが、全容の把握できたものは3軒のみであり、竪穴住居跡の配置についても狭い調査範囲の中では規則性を見いだすことはできない。竪穴住居跡の規模はＳＩ01が他の竪穴住居跡(ＳＩ02～05･07･08)よりも大きいが、共伴した土器の文様構成などに若干の差異が認められることから、この7軒の竪穴住居跡が同時期に営まれたとすることはできない。

全容の把握できた竪穴住居跡では上部構造を支える主柱穴の配置に規則性が見られなかったが、壁際の床面に小さな柱穴が巡っており、土壁の崩落を防ぐ「しがらみ」のための棒杭を打ち込んだ痕である所謂「壁柱穴」と判断した。また、個々の竪穴住居跡でも説明しているが、地山の「床面」の上に黒褐色土の極く薄い堅く締まった層とやや締まりのない層が互層になって堆積しているのを観察でき、この黒褐色土の堆積層中と下位には遺物の出土が皆無であり、地山の「床面」を竪穴住居廃棄時の最終床面とすると、全遺物が床面から浮上した状態になり廃棄後に投･廃棄された遺物であり竪穴住居跡の埋没開始後に黒褐色土がほぼ水平に互層堆積するまで遺物の投･廃棄が絶無であったことになり不自然である。このことから互層となった黒褐色土は、地山の「床面」の上に敷かれた有機質の敷物に由来する腐植土であり、黒褐色土の上面を竪穴住居廃棄時の最終床面と判断した。今後の発掘調査時には「貼床」の有無とともに有機質の敷物に由来する腐植土の有無等についてもさらに細かい観察と記録が必要である。

後期の竪穴住居跡群と配石遺構･礫群との関係は、ＳＩ05･ＳＩ08竪穴住居跡の埋土上位に礫が分布していることから少なくとも配石遺構･礫群がこの2軒の竪穴住居跡よりも新しいことは明白である。この配石遺構･礫群の性格･用途等については不明である。

後期の土器群の中では後期後葉の十腰内Ⅳ･Ⅴ式という所謂「瘤付土器」と呼ばれる一群の土器が多く出土した。入組様帯状文の施文された注口土器、深鉢形土器、壷形土器、異形台付土器に貼瘤されたものが多い。貼瘤のある深鉢形土器は、共伴する粗製の深鉢形土器に比べ小型のものが多いことから、同一器種の中でも器形の大小、あるいは使用目的により施文文様が異なるのかさらに検討しなければならない。各竪穴住居跡から出土した土器の器種構成から、深鉢形土器、壷形土器、注口土器が寒沢遺跡の基本3点セットでこれに他の器種(鉢形土器、香炉形土器、台付土器、異形台付土器など)が付加されているように観察される。この基本3点セットに付加される土器の種類、あるいは付加の有無のもつ意味を検討しなければならない。

米代川上流域における後期後葉の十腰内Ⅳ･Ⅴ式という所謂「瘤付土器」の様相については、今後さらに寒沢遺跡出土の後期土器群と、中山遺跡･萩峠遺跡･小坂町中小坂遺跡の土器群などを比較検討することにより把握できると考える。

また、このほかに灰白色や淡黄色を呈する頁岩の石刃様剥片や石核も多く出土しているが、縄文時代の剥片石器を製作している頁岩とは色調が異なっており、明確に旧石器時代の遺物とは認定できなかったが今後注意する必要があろう。

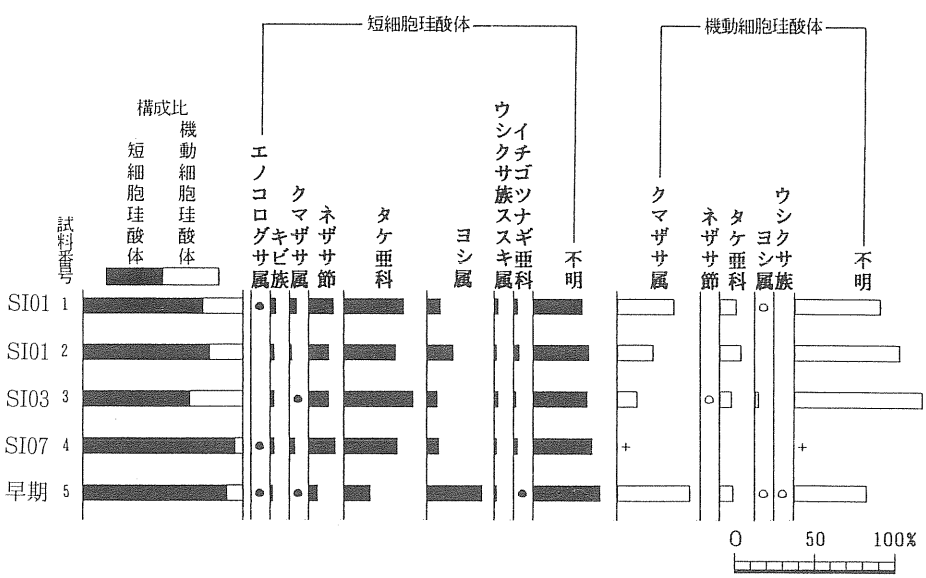
広い舌状台地とその斜面に立地する「寒沢遺跡」の推定面積のわずか0.8％しか調査していないので「寒沢遺跡」の全体像にせまることは不可能であるものの、寒沢Ⅱ遺跡調査区分の成果と合わせて推察すると、縄文時代早期から後期に至るまで居住域＝ムラが台地上を移動しながら営まれ、不用となった生活用具と食物残滓は特定の斜面に捨てられたと考えられる。

寒沢遺跡の発掘調査では、遺跡の営まれた時代の自然環境・植生の資料を得ることを目的に、後世の撹乱や混入の恐れがない縄文時代早期の土器１点(第10図１)、縄文時代後期の３軒の竪穴住居跡(ＳＩ01・ＳＩ03・ＳＩ07)内の土器４点(第21図２・第24図25・第31図１・第41図２)の中から植物珪酸体分析用の土壌試料を採取し、分析を行った。

その結果、早期と後期の試料で植物珪酸体組成に差異が認められた。早期では、クマザサ属機動細胞が多いものの、ヨシ属短細胞も多く検出される特徴があることから、縄文時代早期は、クマザサ属などのササ類が生育していたが、湿地や河川沿いにヨシ属が生育していたと考えることができる。一方、後期ではネザサ節・クマザサ属を含むタケ亜科が多産し、キビ族・ヨシ属・ススキ属・イチゴツナギ亜科などを伴うことから、検出されたイネ科植物が周辺に生育していたことに由来する可能性がある。これは、隣接する冷水山根遺跡（中期末葉）、寒沢Ⅱ遺跡（後期）でもクマザサ属・ネザサ節を含むタケ亜科が卓越する傾向がみられることから、縄文時代中期～後期には本遺跡を含めた広い範囲でササ類が生育し、黒ボク土の形成過程にササ類が関係していた可能性が高い。

縄文時代早期と後期ではイネ科植物に差異が認められたが、これが米代川とその支流の河川の氾濫や遺跡周辺の土壌の堆積過程によるものか、人為的なものなのか現段階では判断できない。遺跡の北側に米代川の支流である中山沢(川)が流れており中山沢の支谷・支流もあり、調査区域内にも埋没した谷状地形があることから、これらにヨシ属の生育していたことは充分考えられることである。今後の発掘調査においては、集落＝ムラの生活領域の環境をより具体的に復原するためにも植生分析等の資料を多く採取・分析する必要がある。

種　類(Taxa)　　試料番号	1	2	3	4	5
イネ科葉部短細胞珪酸体					
キビ族エノコログサ属	1	-	-	1	3
キビ族	9	6	4	7	12
タケ亜科クマザサ属	11	5	2	9	5
タケ亜科ネザサ節	47	45	25	56	47
タケ亜科	116	123	91	115	149
ヨシ属	24	62	12	23	328
ウシクサ族ススキ属	6	5	4	4	14
イチゴツナギ亜科	5	11	3	7	7
不明キビ型	48	41	17	60	100
不明ヒゲシバ型	9	14	7	10	71
不明ダンチク型	35	76	46	53	225
イネ科葉身機動細胞珪酸体					
タケ亜科クマザサ属	37	22	12	4	47
タケ亜科ネザサ節	-	-	1	-	-
タケ亜科	11	13	7	-	8
ヨシ属	1	-	2	-	1
ウシクサ族	-	-	-	-	1
不明	56	66	81	15	47
合　計					
イネ科葉部短細胞珪酸体	311	388	211	345	961
イネ科葉身機動細胞珪酸体	105	101	103	19	104
検　出　個　数	416	489	314	364	1065



各土器内の植物珪酸体組成
　出現率は、検出された短細胞珪酸体、機動細胞珪酸体ともにそれぞれの総数を基数として百分率で算出した。なお、●○は1%未満、＋は機動細胞珪酸体で100個未満の検出を示す。

遺跡調査前遠景(中山遺跡側から撮影)

遺跡調査前遠景(寒沢Ⅱ遺跡側から撮影)

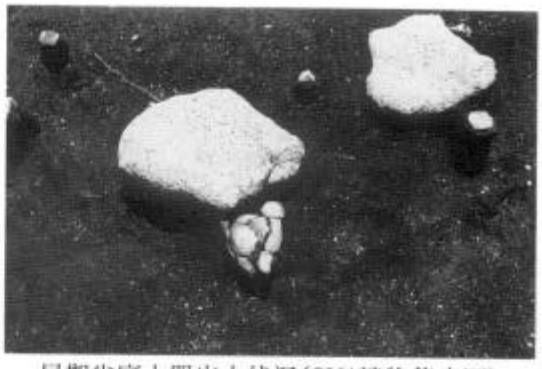
中央部平坦面完掘状況(南東側から撮影)

中央部平坦面北西側完掘状況
(南西側から撮影)

中央部平坦面南東側完掘状況
(北西側から撮影)

図版2

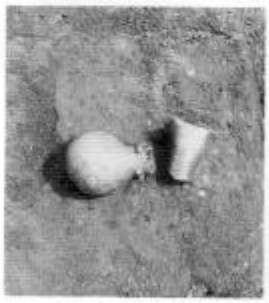
早期ＳＫ19土坑完掘状況(北東側から撮影)



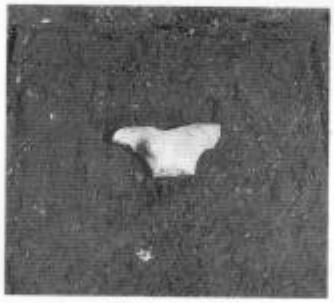
早期尖底土器出土状況(SU1遺物集中区)

後期ＳＩ01竪穴住居跡遺物出土状況

注口土器・異形台付土器出土状況



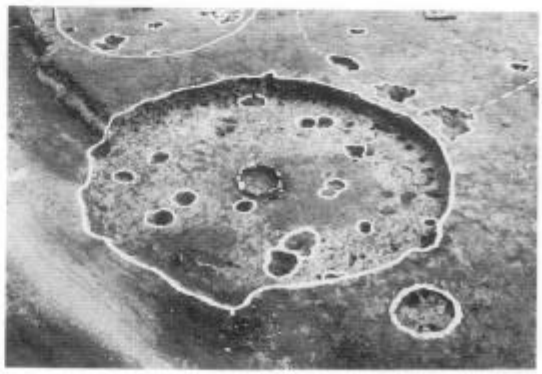
長頸壷形土器
出土状況



土偶出土状況

アスファルト出土状況

後期ＳＩ02・03竪穴住居跡完掘状況

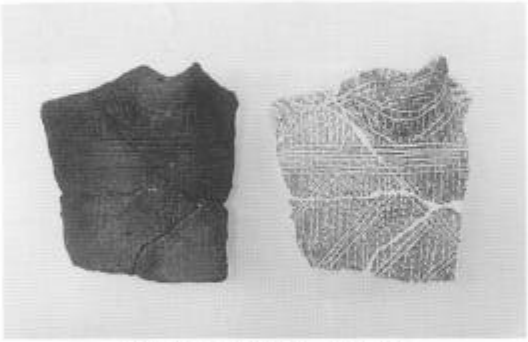


後期ＳＩ05竪穴住居跡完掘状況

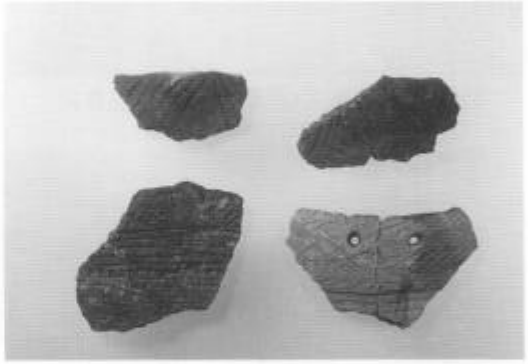
早期尖底土器(SU1)

早期尖底土器(SU1)

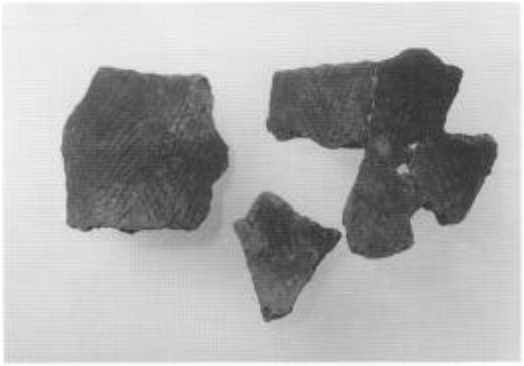
早期貝殻文土器
(MA49・MB50)



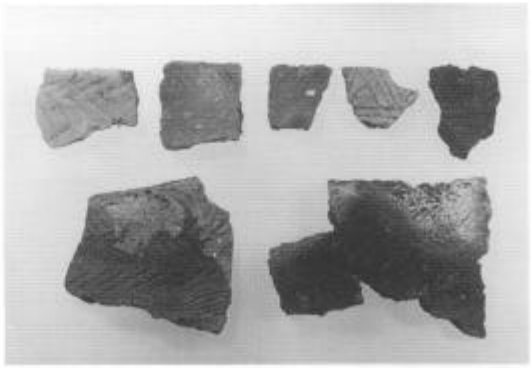
早期片口土器片・同拓影



貝殻腹縁圧痕文各種(1)



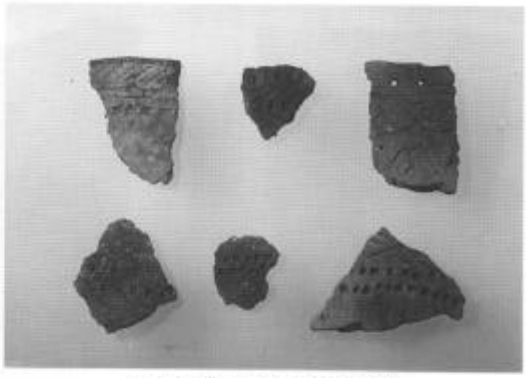
貝殻腹縁圧痕文各種(2)



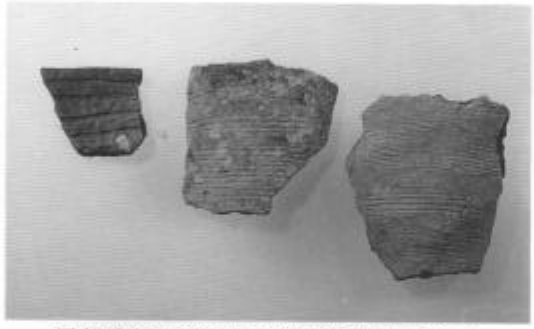
貝殻腹縁圧痕文各種(3)

図版4

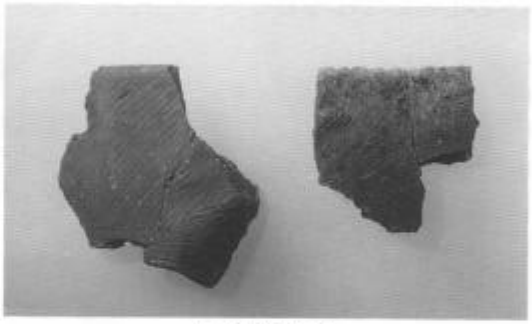
貝殻腹縁圧痕文各種(4)



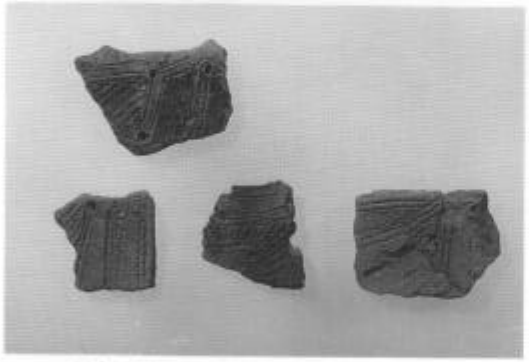
貝殻腹縁圧痕文各種(5)



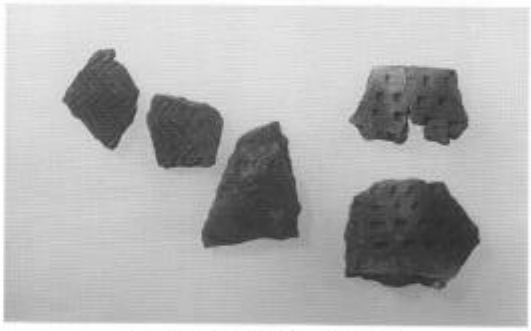
貝殻腹縁圧痕文・貝殻腹縁押し引き文



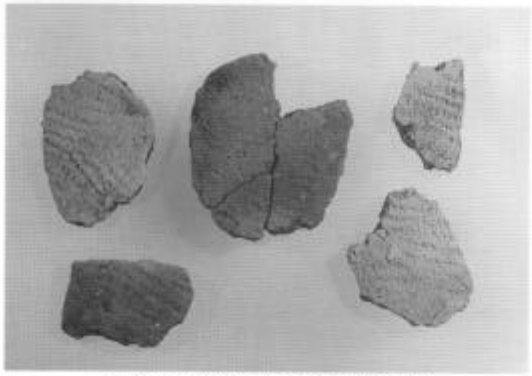
貝殻条痕文



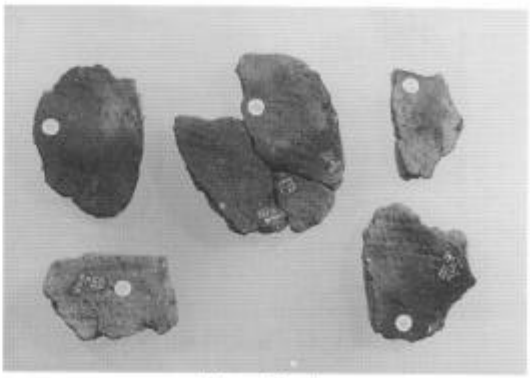
貝殻腹縁圧痕文＋沈線文＋刺突文



矢羽根状沈線文・刺突文



早期表裏縄文施文土器(表面)



同　(裏面)

ＳＩ01竪穴住居跡出土の土器・土偶

図版6

ＳＩ03
竪穴住居跡
出土土器

ＳＩ04竪穴住居跡出土土器

ＳＩ05竪穴住居跡出土土器

ＳＩ07竪穴住居跡出土土器

ＳＩ08竪穴住居跡出土土器

報告書抄録

ふりがな	さびざわいせき
書名	寒沢遺跡
副書名	曲田地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	Ⅵ
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第254集
編著者名	櫻田隆・長澤和則
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター
所在地	〒014　秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地　0187－69－3331
発行機関	秋田県教育委員会
所在地	〒010　秋田県秋田市山王４丁目１番２号　0188－60－3139
発行年月日	西暦1995年３月28日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経		調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号			調査期間	㎡	
さびざわいせき 寒沢遺跡	秋田県大館市 中山字寒沢 83－1	2204	4－74	40° 13′ 25″	140° 36′ 45″	19940516 ～ 19940624	800	開発事業 （農業関連）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
寒沢遺跡	集落跡	縄文時代 早期 中期 後期	竪穴住居跡　8軒 土坑　11基 フラスコ状土坑２基 配石遺構　２基	貝殻文土器・トランシェ様石器 深鉢土器・注口土器・異形台付土器 壺形土器・台付浅鉢土器 石器・土偶	片口付の貝殻文土器あり。

あ と が き

寒沢遺跡の発掘調査と整理作業を短期間で終了し、報告書を上梓することができたのは発掘調査に参加して作業を手伝ってくれた地元の皆さんと、整理作業を手伝ってくれた秋田県埋蔵文化財センター整理作業員の皆さんのおかげです。

当初は縄文時代後期の集落跡の一部（竪穴住居跡２～３軒と土坑２～３基位）が検出できれば上々と考えていたのですが、予想をはるかに超える成果を挙げることができました。制約があったとはいえ、範囲確認調査では一片の破片すら見つけることができなかった縄文時代早期の貝殻文尖底土器がたくさん出土し、改めて「土の中にはなにがあるか分からない」ことを実感しました。鳶ケ長根Ⅳ遺跡の発掘調査から15年目にして再び大館市内で早期の貝殻文尖底土器が大量に発掘されたことになります。

隣接する果樹園の所有者からは「必要なら果樹園の中を掘ってもいいよ」と声をかけられ、また現地説明会のときには地元中山の皆さんから「ここに8,000年前から人が住んでいたなんて考えたこともなかった。町内会館に発掘の写真だけでも飾ってみんなに見せたい。」との声があがりました。この声に応えることは文化財保護思想の普及になると思います。

曲田地区農免農道関係の発掘調査はこの寒沢遺跡を最後に終了した訳ですが、発掘調査の成果をどのように活用するのかが今後の課題であると思います。

発掘調査に参加して作業を手伝ってくれた地元の皆さん

浅利一司　泉源太　小玉健二郎　斎藤由松　佐藤芳彌　鈴木幸一　高橋賢治　谷内幸雄
長岐由松　畠山竹治　三沢昭一　吉野直治　安藤キク　安藤ハル　木村睦子　相馬ウメ子
戸田栄子　山内幸子

整理作業を手伝ってくれた秋田県埋蔵文化財センターの整理作業員の皆さん

小松郁子　町田京子　清水川千春　小松睦子　木元俊子　富樫厚子　鈴木幸　鈴木孝子
高橋まき子　佐藤せい子　森元京子　佐藤睦子　粟津ひろみ　国安恵美子　高橋友子
畑本小百合　池田キミ　高橋文子

秋田県文化財調査報告書第254集

曲田地区農免農道整備事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ

－寒沢遺跡－

印刷・発行　平成７年３月
編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014　仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地
電話 0187（69）3331
発　　行　秋田県教育委員会
〒010　秋田市山王４丁目１番２号
電話 0188（60）3193
印　　刷　株式会社　仙北印刷所